

意繼續シテ(イ)昭和十四年三月七日頃大阪市北區堂山町三十七番地自宅店舗ニ於テ垣内作治ヨリ純綿絲二十番手單絲十五捆ヲ絲割當票ト引換ヘスシテ代金九千三百圓ニテ買受ケ(ロ)同年十月下旬頃前同所ニ於テ被告人經營ノ靴下製造工場主任野口成夫ト共謀ノ上高橋重吉ヨリ純綿絲四十番手單絲一捆ヲ絲割當票ト引換ヘスシテ代金六百圓ニテ買受ケ第二昭和十三年十一月八日頃ヨリ昭和十四年十二月五日頃迄ノ間即チ綿絲配給統制規則ニ代リ制定セラレタル絲配給統制規則施行ノ前後ニ跨リ犯意ヲ繼續シテ前後數十回ニ互リ大阪市旭區友淵町五十六番地ナル自己工場及被告人ノ下請賃編工場ナル兵庫縣加西郡多加野村大字和泉六百十三番地靴下製造業伊藤利一方工場其ノ他ニ於テ前記第一ノ(イ)ノ買受綿絲及當時手持綿絲以上合計二十四捆十三玉竝ニ手持人造絹絲合計三千七封度半ヲ地方長官ニ於テ又ハ商工大臣ノ指定シタル團體ニ於テ割當テタル數量ヲ超エ國內向靴下ノ原材料ニ使用シタルモノナリト判示シ其ノ擬律理由ノ部ニ於テ「被告人ノ判示所爲中第一ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條第五條絲配給統制規則第三條昭和十四年商工省告示第十號刑法第五十五條(共謀ノ點ニ付尙刑法第六十條適用)ニ判示第二ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條第五條絲配給統制規則第一條昭和十四年商工省告示第十號刑法第五十五條ニ該當スルトコロ前者ト後者ハ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ重キ後者ノ刑ニ從ヒ云々」ト説明シ

タリ然レトモ判示第一ノ(イ)ノ綿絲十五捆ヲ絲割當票ト引換ヘスシテ買受ケタル行爲ト判示第二ノ行爲中右判示第一ノ(イ)ノ買受綿絲ヲ地方長官ニ於テ又ハ商工大臣ノ指定シタル團體ニ於テ割當テタル數量ヲ超エ國內向靴下ノ原材料ニ使用シタル行爲ハ其ノ間ニ手段結果ノ牽連關係アルヲ以テ之ニ刑法第五十四條第一項後段ヲ以テ問擬シ牽連犯ト爲シ處斷スヘキモノト雖モ判示第二行爲中被告人カ判示第一ノ(イ)ノ買受綿絲十五捆ヲ除ク其ノ手持綿絲九捆十三玉竝ニ同手持人造絹絲合計三千七封度半ヲ地方長官ニ於テ又ハ商工大臣ノ指定シタル團體ニ於テ割當タル數量ヲ超エ國內向靴下ノ原材料ニ使用シタル點ハ判示第一ノ(イ)(ロ)ノ各行爲ト何等手段結果ノ牽連關係存セサルヤ真ニ明白ナルトコロトス果シテ然ラハ原判決カ前記ノ如ク判示第一ノ行爲ト第二ノ行爲ノ全部ニ付手段結果ノ牽連關係アルモノトシ刑法第五十四條第一項後段ヲ以テ問擬處斷シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノト云フヘク原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニ在リ

因テ案スルニ判示第一ノ(イ)(ロ)ノ綿絲ヲ割當票ト引換ニアラスシテ買受ケタル絲配給統制規則第三條違反ノ所爲ト判示第二ノ綿絲等ヲ其ノ割當數量ヲ超エテ國內向靴下ノ原材料ニ使用シタル同規則第一條違反ノ所爲トノ間ニハ刑法第五十四條第一項後段ノ手段結果ノ關係アル牽連犯ニアラス併合罪ノ規定ヲ以テ之ヲ律スヘキモノトス何トナレハ刑法第五十四條ニ所謂或犯

【要旨】

絲配給統制規則第三條違反同規則第一條違反ノ各所爲ト併合罪

罪ノ手段トハ或犯罪ノ性質上其ノ手段トシテ普通ニ用キラルヘキ行為ヲ謂ヒ又犯罪ノ結果トハ或犯罪ヨリ生スル當然ノ結果ヲ指稱シ兩者蜜接ノ因果關係アルコトヲ要スルモノナルトコロ右判示第一第二ノ所爲間ニハ斯ル關係存スルモノト謂フヲ得ス而シテ斯ノ事ハ所論手持絲ヲ判示原材料ニ使用シタル場合ト判示第一ノ(イ)ノ買受綿絲ヲ原材料ニ使用シタル場合トニ於テ差異アリト謂フヘカラサレハナリサレハ原判決カ判示第一第二ノ所爲ノ間ニ手段結果ノ關係アリトシテ刑法第五十四條第一項後段ニ則リテ處斷シタルハ正ニ法ノ適用ヲ誤リタルモノニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

因テ原判決ノ確定シタル事實ヲ法ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ所爲ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條第五條絲配給統制規則第三條昭和十四年商工省告示第十號刑法第五十五條(共謀ノ點ニ付テ尙刑法第六十條ヲモ適用)ニ第二ノ所爲ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條第五條絲配給統制規則第一條昭和十四年商工省告示第十號刑法第五十五條ニ該當スルトコロ右輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第五條ハ本件犯行後昭和十六年三月法律第二十號ヲ以テ其ノ刑ヲ變更セラレタルヲ以テ刑法第六條第十條ニ則リ新舊法條ヲ比照スルニ舊法ノ刑輕キニヨリ右舊法第五條ヲ適用シ右第一第二ノ所爲ニ對シ孰レモ同條所定ノ罰金刑ヲ選擇シ併合罪ナルカ故ニ刑法第四十五條第四十八條ニ從ヒ右兩罪ニ付定メタル罰金ノ

合算額以下ノ範圍ニ於テ被告人ヲ罰金壹萬圓ニ處スヘク罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ノ勞役場留置期間ヲ定メタル刑法第十八條ハ本件犯罪後タル昭和十六年三月法律第六十一號ヲ以テ改正セラレタルニヨリ刑法第六條第十條ノ趣旨ニ從ヒ新舊法條ヲ比較スルニ舊法ノ規定被告人ニ利益ナルカ故ニ同法條ヲ適用シテ罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ノ勞役場留置ノ期間ヲ定メテ之ヲ言渡スヘキモノトス
以上ノ理由ニ據リ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ從ヒテ主文ノ通判決ス
檢事柴碩文關與

○國家總動員法違反及輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル
法律違反被告事件
(昭和十六年(九)第一三〇號
同年四月七日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 竹中眞一 辯護人 古野周藏
大道寺慶三

【第一審】 大垣區裁判所 【第二審】 岐阜地方裁判所

物品税ノ改正ト清酒ノ價格——清酒ノ火入費ト清酒ノ價格

○判示事項

物品税ノ改正ト清酒ノ價格——清酒ノ火入費ト清酒ノ價格

○判決要旨

一 清酒ノ卸賣及桶物賣買ニ付テハ昭和十四年法律第四十八號支那事變特別稅法中改正法律第三十八條第三十九條ニ依ル物品税ヲ加算シテ販賣スルヲ得サルモノトス〔要旨第一〕

二 清酒製造業者ニ於テ清酒ノ火入ヲ爲シ多少ノ費用ヲ要シタリトスルモ其ノ費用ヲ清酒ノ價格ニ加算シテ之ヲ引上クヘキモノニ非ス〔要旨第二〕

【參照】 昭和十四年三月三十日法律第四十八號支那事變特別稅法中改正法律

第三十八條第一項ヲ左ノ如ク改ム

物品税ハ左ニ掲グル物品ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノニ之ヲ課ス

第一種 (省略)

第二種 (省略)

第三種

- 一 燗寸
- 二 酒類但シ濁酒ヲ除ク

三 飴、葡萄酒及麥芽糖

同上 第三十九條中「五圓」ヲ「十圓」ニ、「十圓」ヲ「十五圓」ニ、「七圓」ヲ「十四圓」ニ改メ、葡萄酒(酒

精及酒精含有飲料稅法第三條ノ二ニ規定スルモノ以下同シ)ノ下ニ「及果實酒(酒

精及酒精含有飲料稅法第三條ノ三ニ規定スルモノ以下同シ)ヲ加ヘ同條第三種

ニ左ノ一號ヲ加フ

三 飴、葡萄酒及麥芽糖

イ 麥芽糖化ノ方法ニ依リ製造シル飴

百斤ニ付一圓五十錢

ロ 其ノ他ノ飴並ニ葡萄酒及麥芽糖

百斤ニ付二圓

昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條 商工大臣ノ指定

スル物品ヲ販賣スル者ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ其ノ指定ノ前日ニ於

ケル販賣價格ヲ商工大臣又ハ地方長官ガ販賣價格ヲ指定シタルトキハ其ノ販

賣價格ヲ超ユル對價ヲ以テ當該物品ヲ販賣(指定前ニ爲シタル契約ニ依ル引渡

ヲ含ム)スルコトヲ得ズ

但シ輸出スル場合取引所ニ於テ賣買スル場合已ムヲ得ザル事由ニ依リ卸賣ニ

付テハ商工大臣、小賣ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限リニ在

ラズ

昭和十三年商工省告示第二百八號 物品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依リ

物品税ノ改正ト清酒ノ價格——清酒ノ火入費ト清酒ノ價格

物品及年月日ヲ左ノ通指定シ昭和十三年七月商工省告示第百八十六號及第百九十四號ハ之ヲ廢止ス

昭和十四年三月七日商工省告示第四十八號 昭和十三年七月商工省告示第二零八號申左ノ通改正ス

第六十三項ノ次ニ左ノ十三項ヲ加フ

(省 略)

六十七 清酒 昭和十四年三月四日

昭和十四年十月十八日勅令第七百三號價格等統制令第二條 價格等ハ昭和十四年九月十八日(以下指定期日ト稱ス)ニ於ケル額ヲ超エテ之ヲ契約シ支拂又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合及本令施行ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一 注文生産品ノ價格ニ付生産者カ生産ニ著手シタルモノ
二 其ノ他ノ價格ニ付買主其ノ他ノ支拂者カ目的物ノ引渡ヲ受ケタルモノ
三 運送貨又ハ加工貨ニ付運送人又ハ加工者カ目的物ノ引渡ヲ受ケタルモノ
四 保管料損害保険料又ハ貸貸料ニ付支拂者カ履行遲滞ニ在ルモノ
前項ノ指定期日ニ於ケル額ハ價格等ノ受領者ニ付テノ額ニ依リ受領者別ニ定マルモノトシ指定期日ニ爲シタル契約アル場合ハ其ノ契約額(同シ事情ノ下ニ於テ數種ノ契約額アリタルトキハ其ノ最高額)偶々指定期日ニ爲シタル契約ナカリシ場合ハ契約ヲ爲シタルベキ額トス

價格等ニ付前項ノ規定ニ依ル額ナキ場合ニ於テハ閣令ノ定ムルモノヲ以テ指定期日ニ於ケル額トス

同第十九條 左ニ掲ケル命令ハ之ヲ廢止ス

昭和十四年農林省令第四十二號農林水産物及農林水産業用品販賣價格取締規則

規則

昭和十三年商工省令第二十四號綿絲販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第三十一號ステ1ブルフアイバ1及ステ1ブルフアイ

バ1絲販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第六十三號人造絹絲販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第七十五號毛絲販賣價格取締規則

昭和十四年商工省令第六十三號絹紡絲販賣價格取締規則

昭和十三年朝鮮總督府令第二百十八號朝鮮物品販賣價格取締規則

昭和十三年臺灣總督府令第四百十四號物品販賣價格取締規則

昭和十三年樺太廳令第六十三號物品販賣價格取締規則

昭和十三年南洋廳令第三十八號南洋群島物品販賣價格取締規則

左ニ掲ケル規定ハ之ヲ削除ス

昭和十三年商工省令第四十五號皮革配給統制規則第九條及第十條

昭和十四年朝鮮總督府令第三十一號(昭和十三年法律第九十二號第二條ノ規

物品稅ノ改正ト清酒ノ價格—清酒ノ火入費ト清酒ノ價格

定ニ依ル皮革ノ配給統制ニ關スル件第八條及第九條

昭和十三年臺灣總督府令第八十四號皮革配給統制規則第五條及第六條

昭和十四年樺太廳令第三十六號皮革配給統制規則第六條及第七條

前二項ニ掲グル命令及規定ハ本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用

ニ付テハ本令施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

同第二十條 左ニ掲グル規定ニ依ル農林大臣、商工大臣、朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳

長官又ハ南洋廳長官ノ指定シタル日ニ於ケル販賣價格ハ之ヲ第二條ノ指定期

日ニ於ケル額ト看做ス

昭和十四年農林省令第四十二號農林水產物及農林水產業用品販賣價格取締

規則第一條

昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年朝鮮總督府令第二百十八號朝鮮物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年臺灣總督府令第一百四十四號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年樺太廳令第六十三號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年南洋廳令第三十八號南洋群島物品販賣價格取締規則第一條

國家總動員法第十九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ

定ムル所ニ依リ價格運送貨保管料保險料貨貸料又ハ加工賃ニ關シ必要ナル命

令ヲ爲スコトヲ得

同三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰

金ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ依ル命令又ハ制限若ハ禁止ニ違反シタル者

二 第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲サザル者

四 第十條ノ規定ニ依ル總動員物資ノ使用又ハ收用ヲ拒ミ妨ケ又ハ忌避シタ

ル者

五 第十三條ノ規定ニ依ル施設土地若ハ工作物ノ管理使用若ハ收用又ハ從業

者ノ供用ヲ拒ミ妨ケ又ハ忌避シタル者

六 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

昭和十四年商工省告示第七〇號 物品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依リ清

涼飲料、清酒及麥酒ノ販賣價格左ノ通指定ス

一 (省略)

二 清酒

甲 製造業者販賣價格

(イ) 二立又ハ一升ニ付二圓五十錢ニ滿タサル小賣價格ニテ販賣セラレル

壘詰清酒ハ昭和十四年三月四日ニ於ケル販賣價格ニ一石ニ付五圓ノ割

合ニ相當スル金額(錢未滿ハ之ヲ切捨ツルモノトス)ヲ加算シタル價格

(ロ) 七十五立ニ付百圓ニ滿タサル小賣價格ニテ販賣セラレル樽詰清酒ハ

昭和十四年三月四日ニ於ケル販賣價格ニ一石ニ付五圓ノ割合ニ相當ス

物品稅ノ改正ト清酒ノ價格——清酒ノ火入費ト清酒ノ價格

○事實

原審ハ左記事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
 被告人ハ大垣市室村町千百五十九番地ニ本店ヲ設ケ酒類製造及販賣ヲ目的トセル原審相被告人竹中酒造合資會社ノ代表社員ニシテ其ノ業務一切ヲ擔當セルモノナルトコロ右會社ノ販賣スル清酒ハ昭和十四年三月七日以降ハ物品販賣價格取締規則ニ基キ商工大臣ノ指定シタル同月四日ニ於ケル右會社ノ販賣價格ヲ超ユル對價ヲ以テ販賣スルコトヲ得ス但シ七十五立ニ付百圓ニ滿タサル小賣價格ヲ以テ販賣セラル樽詰清酒ニ限り同年四月一日以降ハ右三月四日ノ販賣價格ニ一石ニ付金五圓ノ割合ニ相當スル金額ヲ加算シタル價格ヲ以テ販賣スルコトヲ得ヘキモ之ヲ超ユル對價ヲ以テ販賣スルコトヲ得ス尙同年十月二十日以降ハ價格等統制令ニ依リ引續キ右ノ販賣價格ヲ超エテ契約シ其ノ代價ヲ受領スルコトヲ得サルコトナリ右三月四日ニ於ケル右竹中酒造合資會社ノ清酒卸賣販賣價格ハ夫々

清酒 桶物

大吟	一升	一圓十錢
中吟	一升	一圓〇五錢
並吟	一升	一圓

清酒 量賣(桶物小口分賣)

大吟	一升	一圓十二錢
----	----	-------

中吟	一升	一圓五錢
並吟	一升	九十九錢

清酒樽詰銘柄賣

特釀藥城正宗中味一升ニ付 一圓五十五錢

ニシテ又同年十二月三十一日以降ハ價格等統制令ニ基ク同月岐阜縣告示第八百五十九號ニ依リ最高販賣價格ヲ清酒桶物上物一石ニ付百二十圓ト指定セラレ桶物十石未滿ヲ樽ニテ分賣スル場合ニハ一石ニ付五圓以內ヲ加算スルコトヲ得ヘク特釀藥城正宗中味一升詰一本ニ付卸賣價格ヲ一圓八十三錢ト指定セラレタル結果特釀藥城正宗中味一升ノ卸賣價格ハ壘代一本ニ付十八錢ヲ控除シタル一圓六十五錢トナリ之ヲ超エテ契約シ其ノ代價ヲ受領スヘカラサルモノナルニ拘ラス犯意ヲ繼續シテ別紙明細表記載ノ如ク昭和十四年九月七日頃ヨリ昭和十五年二月八日頃迄ノ間前後約百五十五回ニ互リ前示竹中酒造合資會社等ニ於テ酒類販賣業盛田合資會社外二十三名ニ對シ同明細表記載ノ各種清酒合計三百七十七石三升六合ヲ右指定期日ニ於ケル販賣價格竝ニ岐阜縣告示所定ノ最高販賣價格ヨリ一升ニ付金六錢乃至金一圓四十錢位宛合計金一萬四千八百四圓二十一錢ヲ超過シタル代金合計金約四萬九千七百七圓二十三錢ニテ卸賣シ其ノ頃同所等ニ於テ其ノ代金全額ヲ受領シタルモノナリ
 法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中昭和十四年十月十九日迄ノ所爲ハ孰レモ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條第五條物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年七月二十八日商工省告示第二百八號昭和十四年三月七日同省告示第四十八號價格等統制令第十九條末項ニ同年十月二十日以降同年十二月三十日迄ノ所爲ハ孰レモ國家總動員法第十九條第三十三條價格等統制令第二條第二十條物品販賣價格取締規則第一條前示商工省告示並ニ同年四月一日商工省告示第七十號ニ同年十二月三十一日以降ノ所爲ハ孰レモ國家總動員法ノ右各法條價格

物品稅ノ改正ト清酒ノ價格——清酒ノ火入費ト清酒ノ價格

等統制令第七條昭和十四年十二月三十一日岐阜縣告示第八百五十九號ニ該當スルトコロ以上ハ連續犯ナルヲ以テ刑法第五十五條第十條ニ依リ一罪ト爲シ重キ國家總動員法違反罪ノ刑ニ從ヒ同法第三十三條所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三月ニ處スヘキモノトス(違反取引明細表省略)

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人古野周藏上告趣意書第三點一、酒類販賣價格カ公定サレタル以後ニ於テ物品稅カ附加セラレタル場合ニハ右稅額ヲ限度トシテ販賣價格ノ引上ヲ認メラルヘキハ價格公定ノ趣旨カラ見テ當然テアリマスニ、然ルニ本件ニ於キマシテハ物品稅ノ附加ヲ否定シ物品稅ハ被告人ノ負擔トシテ利得額カ算定サレテ居リマスカ右ハ法律ヲ誤解シ適用シタノテアリマス破毀ヲ免レマセント云ヒ辯護人大道寺慶男同大道寺慶三上告趣意書第一點本件ハ最初警察ノ搜查檢舉ノ際ヨリ昭和十四年三月四日ノ實蹟價格ニ同年四月一日附增額セラレタル物品稅增加額一升ニ付金五錢ハ當然之ニ加ヘテ販賣シ得ルモノト解セラレ現ニ本案檢事ノ強制處分請求書ニ記載セル被疑事實中ニモ「右各實蹟基準販賣價格ニ昭和十四年四月一日附增額セラレタル物品稅增加額一升ニ對シ金五錢ヲ加ヘタル額ヲ超エテ販賣シ得サルニ拘ハラスト明記シ其總超過額ニ於テモ計

金一萬三千四百六十一圓六錢トナリ居リシニ同檢事ノ公判請求書記載ノ公訴事實ニハ全ク其ノ見解ヲ異ニシ右四月一日附ノ課稅增加額ノ加算ヲ認メス從テ其ノ總超過額モ計金一萬四千八百五十四圓二十一錢ニ増加セリ之カ爲ニ第一審公判調書ノ冒頭ニ於テ「被告人ハ警察署テ取調ヲ受ケタル時ノ不正超過額ヲ合計一萬三千四百餘圓トナツテ居タノニ起訴事實ハ合計金一萬四千八百五十七圓二十一錢ト増加サレタルカ之レハ增加稅ノ關係タト思ヒマス私ハ昭和十四年四月一日以降清酒一升ニ付金五錢ノ割ノ增加稅ヲ加算シテ販賣シテモ良イト思ツテ居リマスカラ一萬三千四百餘圓カ正シイノテハナイカト思ヒマス」トノ陳述記載ヲ見ルニ至レリ然ルニ原判決モ亦此ノ公訴事實ト同一ノ見解ヲトリ其判決理由中ニ「但シ七十五立ニ付百圓ニ滿サル小賣價格ヲ以テ販賣セラルル樽詰清酒ニ限り同年四月一日以降ハ右三月四日ノ販賣價額ニ一石ニ付金五圓ノ割合ニ相當スル金額ヲ加算シタル價額ヲ以テ販賣スルコトヲ得ルモ之ヲ超ユル對價ヲ以テ販賣スルコトヲ得ス」ト指示シ增加課稅額一石ニ付金五圓ヲモ超過額中ニ合算シテ悉ク犯罪トシテ處斷セリ昭和十四年三月三十日付法律第四十八號支那事變特別稅法中改正法律第三十八條同第三十九條ニハ酒類ノ稅額ヲ五圓増額セラレ同附則第一條ニハ本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行スト明定發布サレシヲ以テ普通一般ノ業者トシテハ此增加稅額ハ當然三月四日ノ基準實蹟ニ加算セラルルモノナリト解スルハ當然ニシテ殊ニ右改正法律發布ノ前日タル三月二

十九日酒造組合中央會長ヨリ全國各府縣酒造組合聯合會長ニ對シ電報ヲ以テ此課稅額タケ値上トナル趣ノ通達ヲ發シ居ル事實アリ從テ各府縣酒造組合聯合會長ヨリ直ニ各組合員タル一般業者ニ通達サレ居リ又昭和十四年五月五日酒造組合中央會發行ノ通信第百二十三號誌上ニモ清酒ノ販賣價格ト標記量ノ注意方ニ就テト題スル記事中本年四月一日以降清酒ノ販賣價格ハ原則トシテ三月四日ノ指定價格ニ増稅相當額ノ加算ヲ許容セラルルコトト相成リタル旨四月二十四日付日本中央會長ヨリ各道府縣ニ對シ通牒ヲ發シタル旨ノ記載アリ斯カル事情ノ下ニ於テ被告ハ此四月一日ノ新課稅額石五圓ヲ三月四日ノ實蹟基準額ニ加算シテ販賣スルモ違法ニアラスト信スルハ寧ロ當然ナリト云フヘク御院第三刑事部ノ昭和十五年一月二十六日判決(昭和十四年(れ)第一〇〇〇號)ノ要旨ニ依レハ「抑モ錯誤ハ從來之ヲ事實ノ錯誤ト法律ノ錯誤トニ分チ法律ノ錯誤ハ更ニ之ヲ非刑罰法規ノ錯誤ト刑罰法規ノ錯誤トニ別チ事實ノ錯誤ト非刑罰法規ノ錯誤トハ故意ヲ阻却スルモ刑罰法規ノ錯誤ハ絕對ニ故意ヲ阻却セスト解セラレタリ然レトモ近時ニ及ヒテハ所謂法律ノ錯誤ハ即チ行爲カ許サレサルモノナルニ拘ラス許サレタルモノト信シタル行爲ノ違法性ニ關スル錯誤トシテ解セラレ法律ノ錯誤ト雖モ其錯誤シタルコトニ付過失ナカリシトキハ故意ヲ阻却シ過失アリタルトキハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ減免シ得ルモノト解セララルニ至レリ」ト判示セラレタリ今之ヲ本件被告人ニ就テ之ヲ觀察スレハ從來酒造稅額ノ増加ハ常

ニ消費者負擔タリシ性質上價格ノ昂上ヲ來スハ當然ノ事理ニシテ何人モ之ヲ怪シムモノナク殊ニ酒造組合中央會長ヨリノ全國的通牒ニ基キ縣聯合會ヨリ一般業者ニ直報セラレタルノミナラス當時ノ新聞通信等皆其ノ旨ヲ報セリ斯カル場合ニ被告人ハ之ヲ信シ三月四日ノ實蹟基準價格ニ此増徵課稅ヲ加算シタル價格ノ取引ハ毫モ違法ナリトノ觀念ヲ起ス餘裕アル筈ナク之ヲ信スルニ於テ毫末モ過失アルコトナシ現ニ本件取調ノ衝ニ當リタル警察官モ檢事モ斯ク信シ居リシハ記録上極メテ明カナルニ非スヤ警察檢事カ信シ居リシモノヲ被告人カ信セシハ不當ナリト叱責シ得ヘキヤ裁判ハ無理ヲ國民ニ強ユルモノニアラサルヘシ昭和十五年二月十八日函館區裁判所ハ橋谷信一外一人ニ對スル國家總動員法違反被告事件ニ付最モ適切ナル判決ヲ下セリ其要旨ニヨレハ「當時昭和十四年度産米カ一部地方ノ旱害ニ因リ不足スルコトカ豫想セラレ先高見越等ノ爲全國的ニ米穀ノ配給圓滑ヲ缺キ需要地ニ於ケル飯米著シク逼迫シ遂ニ玄米一石ニ付五圓ノ値上ヲ見ルニ至リタルモノナルヲ以テ右玄米ノ値上ニ準シ白米ノ最高販賣價格モ値上セラルヘシトハ何人モ豫想スル處ナリト謂フヘクカカル情勢ニアリタル當時北海道ニ於ケル米穀ノ販賣價額ヲ定ムヘキ北海道長官ノ下ニ在リテ其事務ヲ處理スヘキ經濟部長カ前敍ノ如キ談話ヲ爲シタル旨北海道ニ於ケル大新聞タル北海道タイムス及ヒ全國的大新聞紙タル東京朝日新聞等ニ發表セラレタル以上被告人茲ニ於テ從來ノ認可價格ヨリ二圓引上ケ賣買スルコトハ公認セラレ

物品稅ノ改正ト清酒ノ價格——清酒ノ火入費ト清酒ノ價格

當然處罰セラレサルモノト誤認シタルハ其誤信スルニ付相當ノ理由アルモノニシテ該値上價額ノ範圍内ニ於テ爲シタル賣買契約ハ罪ヲ犯スノ意ニ出テタルモノニ非スト言フヘク從テ當時ノ認可價額ニ二圓ヲ加算シタル一表當金十八圓六十錢以内ニ於テ締結シタル右二ノ卸賣契約ハ何レモ犯意ヲ阻却スルモノナリトス」ト判示セラレ全ク本件ノ場合ト軌ヲ一ニスルモノト言フヘシ特ニ此ノ點ニ關シ辯護人ハ原審ニ於テ前記ノ酒造組合中央會發行ノ通信竝ニ中央會長ヨリ靜岡縣酒造組合聯合會宛ノ電報證明書ヲ提出シ被告人カ刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原因タル事實上ノ主張ヲ爲シタル事實ハ原審第三回公判調書中「辯護人ハ(中略)四月一日以降ハ増稅相當額ノ加算ヲ許容セラレタルモノト被告人ニ於テ信スヘキ相當ノ理由アリシモノナリト述ヘ」トノ記載ニヨリ明カナルニ拘ラス原審ハ之ニ對スル判斷ヲ示ササルハ違法ノ譏ヲ免レサルヘク結局原判決ハ以上ノ如ク法ノ適用ヲ誤リ判決ニ理由ヲ附セス且判斷ヲ遺脱シタル不法アルモノト言フヘシト云フニ在リ

因テ案スルニ昭和十四年法律第四十八號支那事變特別稅法中改正法律第三十八條及第三十九條ニ依レハ物品稅トシテ清酒一石ニ付十圓ニ増加シ同附則第一條ニ依リ同年四月一日ヨリ實施セルコト明ナリ抑モ右ノ如キ物品稅ハ結局消費者ノ負擔ニ歸スヘキ性質ノモノナレハ清酒ノ公定價格指定ノ後ニハ其ノ割合ノ全額ヲ之ニ加算スヘキニ似タリト雖モ同日附商工省告示第七十號

【要旨第二】

ニヨレハ清酒二立又ハ一升ニ付二圓五十錢ニ滿タサル樽詰清酒及七十五立ニ付百圓ニ滿タサル樽詰清酒ニ付同年三月四日ニ於ケル販賣價格ニ一石ニ付五圓ノ割合ニ相當スル金額ヲ加算シタル價格ヲ以テ公定價格トシ且右ハ孰レモ小賣價格ニノミ適用アルコト同告示ノ明定スル所ナレハ小賣ニ非サル卸賣又ハ樽詰及樽詰ニ非サル桶物賣ニ付テハ右物品稅ヲ加算シ得サルモノト解スヘキモノトス蓋政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲低物價政策ヲ採リ小賣取引ノ如キ少額ノ賣買ヲ除キ大量取引ノ桶物及卸賣ニ付テハ物品稅ヲ製造業者ニ負擔セシムルモ國民經濟ノ運行ヲ害スルコトナキモノト觀察セルニ外ナラサレハナリ原判決ノ認メタル事實ハ孰レモ清酒ノ卸賣ニ係ルヲ以テ敍上法律第四十八號ニ立脚シテ云爲スルハ當ラサルモノトス而シテ昭和十四年四月一日以降清酒ニ付右物品稅ノ割合ノ金額ヲ加算シテ販賣シテモ良イト思ヒ判示ノ如ク販賣シタリトノ主張ハ畢竟事實ニ對スル法律上ノ見解ニ過キサルヲ以テ之ヲ以テ罪ヲ犯スノ意ナシト爲スコトヲ得サルト同時ニ右主張ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂判斷ヲ示スヘキ事實上ノ主張ニ當ラサルモノトス論旨援引ノ本院判決ハ本件ニ適切ナラス論旨理由ナシ

辯護人古野周藏上告趣意書第四點一、酒類ハ製造ノ工程ニヨツテ其ノ製造原價モ從テ販賣價格モ相違カアルモノテアリマス第一工程ヲ經タルモノニ於テ假ニ販賣價格一圓トスレハ第二工程

物品稅ノ改正ト清酒ノ價格——清酒ノ火入費ト清酒ノ價格

ヲ經ル爲ニ七錢ヲ必要トスレハ販賣價格ハ當然七錢引上ラル可キテアリマス 二、本件ニ於テ三月四日ノ價格ハ火入前ノ販賣價格テアリマスカ判決ハ之ヲ以テ火入後ノ販賣價格ヲモ一定シヨウトシテ居リマスカステハ結局其實費ニ相當スル金七錢ヲ値下シタル結果トナリ失當タルヲ免カレマセン 三、原判決ハ法律ヲ誤解シ超過額算定ノ規準トナル販賣價格ヲ誤認シテ居リマスカラ法令違反トシテ破毀ヲ免カレマセント云ヒ辯護人大道寺慶男同大道寺慶三上告趣意書第四點原判決ノ認定セル清酒桶物大吟一升ノ三月四日ニ於ケル價格ハ一圓十錢ニシテ右ハ昭和十四年三月二十七日竹中酒造合資會社ヨリ岐阜市小森藤七ニ販賣シタル實蹟ヨリ算出セラレタルモノニ係リ昭和十三酒造年度(酒造年度ハ毎年十月一日ニ始リ翌年九月三十日ニ終ル)ノ新酒ニシテ昭和十五年二月二十四日付小森藤七提出ノ始末書中「昨年三月及四月中ニ同店ヨリ仕入レマシタ清酒ノ數量單價等ハ別表ノ通りテアリマス尙此ノ金額ノ外火入代及容器損料トシテ一升ニ對シ一錢五厘ノ割合ヲ以テ別ニ支拂ヒマシタ」ト在ルニ徵シテ明カナル如ク「火入未濟」ノ未完成酒ニシテ所謂生酒ニ屬ス然ルニ本件違反ト目サルル清酒桶物大吟ハ原判決添付別表ニ明ラカナル如ク昭和十四年十月九日ヨリ同年十二月二十八日迄ノ間前後六回ニ名古屋市盛田合資會社外四名ニ販賣セラレタルモノハ悉ク昭和十四酒造年度ノ古酒ナリ新酒タル生酒ト古酒トハ其品質ニ於テ將又其價格ニ於テ差異アリ決シテ單ニ清酒ナル名稱ノ下ニ同一視スルコトヲ許

ササルモノナリ蓋シ(イ)清酒ノ醸造工業ハ「一麴二配三造」ト稱シ各段階夫々複雑微妙ヲ極ムルモ先ツ麴ヲ一定量ノ蒸米ト水ニ混シ醱酵セシメ配ヲ作り配カ出來上ルト更ニ蒸米麴及水ノ適當量ヲ加ヘ醪ヲ造ルコノ醪ヲ三段ニ分ケテ仕込ミ後十八日乃至二十日間ヲ經テ充分ニ熟成シタモノヲ壓搾機ニ掛ケ酒ト粕ニ分ケ酒ヲ澄マセテ濾過機ヲ通ス此ノ程度ノ酒ヲ所謂「生酒」ト稱スルモノニシテ更ニ三月下旬ヨリ四月上旬頃生酒中ニ存在スル細菌類ヲ抹殺スル爲メ華氏百三十度位ニ熱スル火入ヲ行ヒ容量三十石カラ三十二、三石ノ貯藏桶ニ收メテ夏ヲ越シ秋ニナリ始メテ芳醇ナ古酒トシテ市場ニ送ラルルモノナレハ生酒ト夏ヨリ秋ニ入り取引セララル古酒トハ其ノ品質ニ於テ格段ノ差異アルモノナリ又(ロ)其ノ價格ニ於テモ古酒ハ生酒ニ比シ火入貯藏費竝ニ夏季腐敗ノ危險負擔等ノ外所謂火入減量竝ニ貯藏減量(此點ニ付イテハ舊酒造税法第八條ニ於テ百分ノ七以内ノ貯藏減量ヲ稅務署ニ於テモ控除シタリタルモノナリ)ニ依リ約一割ノ缺減ヲ生スル狀態ナルヲ以テ勢ヒ古酒ハ生酒ヨリ高價タラサルヲ免レサル次第ナリ斯クテ原判決ハ其ノ品質竝ニ價格ニ於テ顯著ナル差異アル生酒ト古酒トヲ全然同一視シ偶々被告人カ特殊ノ事情ノ下ニ販賣シタル生酒ノ價格ヲ以テ所謂三月四日ノ基準單價ト爲シ翌酒造年度ニ於テ芳醇ナル古酒トシテ販賣シタルモノヲ規律セントシタルハ重大ナル事實ノ誤認アル違法ノ裁判タルヲ免レサルナリト云フニ在リ

因テ案スルニ古酒ト生酒トハ其ノ品質ニ於テ將又其ノ價值ニ於テ差異アルヘシト雖清酒製造業者カ清酒ニ對シ所謂火入ヲ爲スハ結局其ノ保存行爲ニ外ナラサルヲ以テ右製造業者ニ於テ清酒ノ火入ヲ爲シ多少ノ費用ヲ要シタリトスルモ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律及價格等統制令竝ニ昭和十四年岐阜縣告示第八五九號ノ適用ニ於テハ其ノ費用ヲ清酒ノ價格ニ加算シテ之ヲ引上クヘキモノニ非ス原判決ニ重大ナル事實ノ誤認ナキコト辯護人古野周藏上告趣意書第一點ニ對シ説明シタルカ如シ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴碩文關與

【要旨第二】

○詐欺誣告被告事件再審請求棄却決定ニ對スル抗告事件

(昭和十六年(一〇)第九號 棄却)

【抗告人】 再審請求人 菅原富作

【原 審】 宮城控訴院

○判 示 事 項

犯罪ノ嫌疑ナシトシテ爲シタル不起訴處分ト刑事訴訟法第四百八十九條但書

○決 定 要 旨

刑事訴訟法第四百八十五條乃至第四百八十八條所掲ノ犯罪ノ嫌疑事件ニ付犯罪ノ嫌疑ナシトシテ不起訴處分ニ付セラレ之カ爲ニ被疑者カ右犯罪ヲ爲シタルコトニ付確定判決ニ因リ之ヲ證明スルコト能ハサルトキハ刑事訴訟法第四百八十九條但書ニ所謂證據ナキノ理由ニ因リ確定判決ヲ得ルコト能ハサル場合ニ該當スルモノト解スルヲ相當トス

【參照】 刑事訴訟法第四百八十九條 第四百八十五條乃至前條ノ規定ニ從ヒ確定判決ニ因リ犯罪ノ證明セラレタルコトヲ再審ノ原由ト爲スヘキ場合ニ於テ其ノ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證明シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ證據ナキノ理由ニ因リ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

犯罪ノ嫌疑ナシトシテ爲シタル不起訴處分ト刑事訴訟法第四百八十九條但書

○事實

被告人ハ宮城控訴院昭和七年(を)第八十八號詐欺及誣告被告事件ノ確定判決ノ證據ノ一ト爲リタル證人今川富雄ノ證言ノ僞證ナルコト竝ニ同僞證ニ付告訴ヲ爲シタルモ同僞證罪ノ公訴時効完成シ遂ニ今川富雄カ僞證ヲ爲シタルコトニ付確定判決ヲ受クルコト能ハサルニ至リタルヲ以テ刑事訴訟法第四百八十五條第二號第四百八十九條ノ場合ニ該當スルモノナリトシテ再審ノ申立ヲ爲シタルトコロ原院ハ右今川富雄ニ對スル僞證告訴事件ハ昭和十二年四月二十三日付ヲ以テ犯罪ノ嫌疑ナキモノトシテ不起訴處分トナリタルモノナルカ故ニ刑事訴訟法第四百八十九條但書ニ該當スルモノトシテ再審請求ヲ棄却シタルモノナリ

○主文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

○理由

本件抗告ノ要旨ハ被告人ハ宮城控訴院昭和七年(を)第八十八號詐欺及誣告被告事件ニ付判決ノ證據トナリタル證人今川富雄ノ證言ノ僞證ナル事竝ニ同僞證事件公訴ノ時効完成シ遂ニ確定判決ヲ受クル事能ハサルニ至リタル理由ヲ以テ刑事訴訟法第四百八十五條第二號第四百八十九條ノ場合ニ該當スル事ヲ理由トシテ再審ノ申立ヲ爲シタル處原院ハ右今川富雄ニ對スル僞證告

訴事件ハ昭和十二年四月二十三日ヲ以テ犯罪ノ嫌疑ナキモノトシテ不起訴處分トナリタルモノナルヲ以テ再審ノ理由ニ該當セストノ理由ニテ被告人ノ再審請求ノ申立ヲ棄却セラレタリ然レトモ(一)今川富雄ノ僞證事件ニ付告訴人タル被告人ハ不起訴處分ノ通知ヲ受ケタル事ナシ加之被告人ハ右不起訴處分ヲ爲シタリト云フ日時(昭和十二年四月二十三日)以降ニ於テモ即チ昭和十二年秋中及昭和十三年舊七月中モ一關支部檢事局ニ出頭シテ取調ノ進行ヲ請求シタルニ之レニ對シ同廳ハ目下警察ト共ニ捜査中ナリト稱シタルモノナリ若シ當時不起訴處分シタルモノトセハ告訴人ハ抗告スヘカリシモノナリ(二)證人今川富雄ノ僞證ナル事實ニ付テハ被告人ハ鑑定書其他ノ證據物ヲ提出シテ其僞證ナル事ヲ立證シタルモノナレハ一關支部檢事局ニ於テ單ニ被疑者今川富雄ヲ一回訊問シタルノミニテハ直チニ僞證ニアラストシテ不起訴處分スヘキ筋合ニアラス若シ被告人ノ提出シタル筆跡鑑定書及之レニ關スル證據物カ信用スル能ハスト爲スニハ少クトモ今川富雄カ自己ノ作成シタルモノニアラスト僞證セル證第三十九號カ富雄ノ筆跡ニアラストノ證明ヲ得ル方法ヲ盡ササルヘカラサルニ拘ラス何等ノ方法ヲ講セザリシハ之レ同廳カ放任シ置キタル證左ニシテ之レ即チ不起訴處分ヲ爲ササル事明カナルヲ以テ再審請求理由存スルモノナリ(三)又刑事訴訟法第四百八十五條六號ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者其刑ヨリ輕キ刑ヲ認ムヘキ證據ヲ發見シタルトキニ於テモ再審請求ノ原因タリ得ルナリ此ノ法ノ精神ヨリ

見ルトキハ無罪タルヘキ證據在ルニ於テハ勿論再審ヲ許スヘキモノト信スルモノナリト云フニ在リ

【要旨】

仍テ案スルニ刑事訴訟法第四百八十五條乃至第四百八十八條所掲ノ犯罪ノ被疑事件ニ付犯罪ノ嫌疑ナシトシテ不起訴處分ニ付セラレ之カ爲ニ被疑者カ右犯罪ヲ爲シタルコトニ付確定判決ニ因リ之ヲ證明スルコト能ハサルトキハ刑事訴訟法第四百八十九條但書ニ所謂證據ナキノ理由ニ因リ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキニ該當スルモノトシテ再審ノ請求ヲ爲スコト能ハサルモノト解スルヲ相當トス記録ニ徵スルニ抗告人主張ノ本件確定判決ノ證據ノ一ト爲リタル證人今川富雄ノ證言カ偽證ナルコトハ抗告人主張ノ如キ事情ニ因リ確定判決ヲ以テ之ヲ證明スルコト能ハサルニ非スシテ却ツテ同人ニ對スル偽證被疑事件ハ犯罪ノ嫌疑ナキノトシテ不起訴處分ト爲リ之カ爲ニ同人ノ前記證言カ偽證ナルコトニ付確定判決ニ因リ之ヲ證明スルコト能ハサルモノナルコトヲ看取シ得ルカ故ニ原裁判所カ刑事訴訟法第四百八十九條但書ニ依リ再審ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノニ非ストシテ本件再審ノ請求ヲ棄却シタルハ洵ニ正當ナリトス尙抗告人ノ主張自體ニ依ルモ抗告人ニ對シ無罪ヲ言渡スヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルモノトハ認メ難キカ故ニ抗告要旨末段ノ主張モ其ノ理由ナキノトス然レハ本件抗告ハ凡テ其ノ理由ナキノ依リ刑事訴訟法第四百六十六條第一項ニ則リ主文ノ如ク決定ス

檢事柴領文關與

○國家總動員法違反被告事件

(昭和十六年(レ)第一七一號 同年四月十五日第四刑事部判決)

棄却)

【上告人】 被告人 井上 傳 八 辯護人

(河上丈太郎 辻本幸臣)

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

證人訊問決定ト證人ノ氏名

○判決要旨

證人訊問ノ決定ニ於テ其ノ訊問スヘキ者ヲ大阪府商工課係員ト指定シタル以上特ニ其ノ氏名ヲ表示セストスルモ該決定ハ違法ニ非ス

證人訊問決定ト證人ノ氏名

(參照) 刑事訴訟法第三百四十四條 證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

○事實

事實關係ハ後記理由中ニ記載スルトコロノ如シ

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人河上丈太郎、河合與、辻本幸臣上告趣意書第三點本件記録ヲ閱スルニ原審ハ第三二六丁ニ於テ「大阪府商工課員ヲ昭和十五年十二月七日午前十時當廳第三號法廷ニ證人トシテ喚問ス」トノ旨ノ證人喚問ノ決定ヲ爲シ昭和十五年十二月七日ノ公判調書ニ於テ大阪府吏員福岡正ヲ證人トシテ訊問シタルコト明カナルトコロナリ然レトモ右ノ如キ證人トシテ喚問セラルヘキ證人ノ特定セサル喚問ハ之ヲ許ササルモノトス蓋シ證人ハ自己ノ經過ニ基ク事實ヲ陳述スルモノニシテ特定人タルコトヲ要シ鑑定人ノ如ク特別ノ技術知識ニ基ク意見ヲ開陳スルモノニアラサルヲ以テ其性質上代行ヲ許サレス必ス特定人タラサルヘカラサレハナリ刑事訴訟法第十三章ノ規

定モ又第十四章(例ヘハ二三〇條)ノ規定ト異リ證人ノ特定セサル場合ハ全然豫想セサルトコロニシテ特ニ第九十條乃至第九十五條ノ各規定ハ證人ノ特定セサル證人喚問決定ニ付キテハ全然無意義ノ規定トナリ終ルコトニ徴スルモ證人喚問決定ハ必ス證人タルヘキ特定人ヲ指定シテ爲サルヘキモノトス果シテ然ラハ原審ニ於ケル右決定ハ法律ニ違反スルモノニシテカカル違法ノ手續ニ基キ爲サレタル原判決モ又違法タルヲ免レサルモノト信スト謂フニ在レトモ

【要旨】

原審カ所論證人訊問ノ決定ニ於テ大阪府商工課係員ト指定シタル以上特ニ其ノ氏名ヲ表示スルコトナシトスルモ訊問スヘキ證人ハ特定シタルモノト謂フニ妨ナキヲ以テ右證人訊問ノ決定ニハ所論ノ如キ違法アルモノト謂フヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事長谷川寧關與

○偽證法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律違反被告事件

(昭和十五年(れ)第一二九八號
昭和十六年三月八日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 千田長三郎 辯護人 須田 吉衛

【第一審】 石巻區裁判所 【第二審】 仙臺地方裁判所

○判示事項

一回ノ宣誓ノ下ニ爲サレタル數個ノ陳述ト偽證罪ノ罪數

○判決要旨

民事訴訟事件ノ證人トシテ一回ノ宣誓ノ下ニ數個ノ虚偽ノ陳述ヲ爲スモ單一ナル偽證罪ヲ構成シ數個ノ同罪ヲ構成スルモノニ非ス

一回ノ宣誓ノ下ニ爲サレタル數個ノ陳述ト偽證罪ノ罪數

【参照】 刑法第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルト
キハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ヲ認定シ法律ヲ適用シテ被告人ヲ懲役五月ニ處ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トストノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ

第一 辯護士ニ非サルニ拘ラス報酬ヲ得ル目的ヲ以テ業トシテ

(中略)

以テ他人間ノ訴訟事件ニ關シ代理仲裁若ハ和解ヲ爲シ

第二 昭和十五年五月七日仙臺區裁判所ニ於テ原告泉滉被告尾形留八郎間ノ昭和十四年(ハ)第六三一號報酬金請求事件ノ宣誓シタル證人トシテ自分ハ尾形留八郎ヨリ幸田喜藏ニ對スル破産申立前前記二千圓ノ債權ノ取立ヲ尾形ヨリ頼マレタルコトナク又自分ヨリ右債權ヲ取立テヤル旨ノ話ヲ爲シタルコトナシ泉辯護士ニ右破産事件ヲ依頼スルニ付テハ自分ハ尾形ニ仙臺辯護士會ノ規則ヲ見セテ報酬ノ説明ヲ爲シタルトコロ同人ハ規定ノ報酬及實費ハ出ス旨申シ居タル旨虛偽ノ陳述ヲ爲シ

以テ偽證シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第一ノ點ハ法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律第一條第四條第一項ニ第二ノ點ハ刑法第六十九條ニ該當スルヲ以テ前者ニ付テハ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ以上ハ刑法第四十五條前段ノ併合

罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ依リ重キ偽證罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役五月ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人須田吉衛上告趣意書第一點原判決カ被告人ニ對シテ偽證罪ニ問擬認定シタル點ハ「第二昭和十五年五月七日仙臺區裁判所ニ於テ原告泉滉被告尾形留八郎ノ昭和十四年(ハ)第六三一號報酬金請求事件ノ宣誓シタル證人トシテ自分ハ尾形留八郎ヨリ幸田喜藏ニ對スル破産申立前前記二千圓ノ債權ノ取立ヲ尾形ヨリ頼マレタルコトナク又自分ヨリ右債權ヲ取立テヤル旨ノ話ヲ爲シタルコトナシ泉辯護士ニ右破産事件ヲ依頼スルニ付テハ自分ハ尾形ニ仙臺辯護士會ノ規則ヲ見セテ報酬ノ説明ヲ爲シタルトコロ同人ハ規定ノ報酬及實費ハ出ス旨虛偽ノ陳述ヲ爲シ以テ偽證シタルモノナリ」ト謂フニアリテ之ヲ公訴事實即チ檢事ノ公判請求書ノ所謂「被告人ハ昭和十五年五月七日仙臺區裁判所ニ於テ原告泉滉被告尾形留八郎間ノ報酬金請求事件ノ宣誓シタル證人トシテ曩ニ被告ハ尾形留八郎ヨリ同人カ幸田喜藏ニ對シ有シタル二千圓ノ貸金取立方

一回ノ宣誓ノ下ニ爲サレタル數個ノ陳述ト偽證罪ノ罪數

ヲ訴訟費用等ハ被告人負擔トシ取立金ノ半金ヲ貫ヒ受クル約定ノ下ニ請負ヒ辯護士ヲ雇ヒ上ケテ數年間ニ互リ石巻區裁判所ニ轉付命令ヲ申請シ及破産宣告ヲ申立ツル等訴訟シ來リ昭和十四年四月下旬頃右兩者間ニ千圓ニテ和解スルマテ之カ示談交渉ニモ關與奔走シ且ツ同年五月八日頃石巻市仲町尾形方ニ於テ尾形カ幸田ヨリ受取リタル示談金千圓ノ内金五百圓ノ半分二百五十圓ヲ貫ヒ受ケタルニ拘ハラヌ(イ)此ノ破産取立ノ半額ヲ私ハ被告(尾形)カラ貫フト云フ約束ハシマセヌ(ロ)破産事件ハ結局示談ニナツタト云フコトヲ去年ノ二月六日庄司辯護士カラ聞キマシタ私ハ此ノ示談ニ付仲ニ入りマセヌ示談後私ハ被告(尾形)カラ二百五十圓受取ツタコトハアリマセヌ(ハ)破産申立前此ノ債權ノ取立ヲ被告(尾形)カラ頼マレタコトハアリマセヌ私ノ方カラ取立テテヤルト云フ話モシマセヌ(ニ)愈々示談カ出來タ時ハ立會ヒマセヌ去年ノ四月二十一日私ハ被告(尾形)ノ家ニ會合シタコトハアリマセヌ私ハ被告(尾形)カラ全然金ヲ受取リマセヌトノ虚偽ノ供述ヲ爲シタルモノナリ云々ニ對照スレハ被告人カ原審ニ於テ偽證罪ニ問ハレタ部分ハ結局敍上公判請求書第二ノ(ハ)項ノミニシテ他ハ全部無罪ト爲リ新タニ「泉辯護士ニ右破産事件ヲ依頼スルニ付テハ自分ハ尾形ニ仙臺辯護士會ノ規則ヲ見セテ報酬ノ説明ヲ爲シタルトコロ同人ハ規定ノ報酬及實費ハ出ス旨申シ居タル旨虚偽ノ陳述ヲ爲シ」云々テフ一項カ附加認定セラレタルコトトナル惟フニ原判決カ本件事案ヲ凡ユル角度凡ユル觀

點カラ檢討尋究ノ結果第一審判決ノ皮想的謬見ト誤判トヲ斷乎是正シタル其ノ態度ハ近來ノ名判決トシテ訴訟關係人一同ノ轉々敬意ヲ表スルニ吝ナラサルトコロナルモ唯敍上ノ如ク原判決カ公訴事實以外ニ互リテ新タニ偽證ノ附加認定ヲ爲シタル點ハ果シテ刑事訴訟法上正當ナリヤ否ヤニツキ疑ヒナキヲ得ナイノテアル抑モ公訴ノ範圍如何ノ問題ハ刑事訴訟上所謂公訴不可分ノ原則又ハ審判不可分ノ原則ノ名ノ下ニ一個ノ難解ナル課題トシテ學者竝實務家ノ間ニ論議セラルルトコロナルカ通説ハ「公訴ハ不可分ナリ訴訟繫屬ノ效力ノ範圍ハ同一事件ノ全體ニ及フ從テ一個ノ犯罪ハ分離シテ之ヲ起訴スルコトヲ得ヌ又分離シテ之ヲ裁判スルコトヲ得ヌ之レ公訴ノ客體タル刑罰請求權カ本來不可分ノモノニシテ事件ハ各個ノ刑罰請求權ヲ單位トシテ成立スルモノナルニ因ル故ニ檢事カ公訴事實トシテ掲ケタル範圍カ同一事件ノ一部ニ過キサル場合ニ於テモ其ノ公訴ハ法律上當該事件ノ全體ニ對シテ提起セラレタルモノナリ裁判所ハ其ノ全範圍ニ付テ審判ヲ爲ササルヘカラス又裁判所カ事實上審判ヲ爲シタル範圍カ同一事件ノ一部ニ過キサル場合ニテモ其ノ裁判ハ法律上當該事件其ノ者ニ對シテ爲サレタルモノナリ確定裁判ノ效力(既判力)ハ事件全體ニ及フ之ヲ公訴不可分ノ原則ト謂フ又公訴不可分ノ原則ニ關聯シテ審判不可分ノ原則ナルモノアリ審判不可分ノ原則ハ之ヲ公訴不可分ノ原則ト同義ニ解スルコトアリ斯ル場合ニハ公訴不可分ノ原則ヲ裁判所ノ審判ノ方面ヨリ見タル別名ニ外ナラス(法學博士

宮本英修氏刑事訴訟法大綱一五六頁以下參照)ト謂フニアル様テアル故ニ御院ニ於テモ夙ニ「起訴ノ範圍ハ起訴事件ヲ基礎トシ之ト因果若クハ連續ノ關係アルカ爲メ相合シテ一罪ヲ成スヘキ總テノ事實ニ及フヘキモノニシテ起訴事實カ罪トナラス若クハ罪證十分ナラストスルモ既ニ起訴ノ範圍ニ屬シタル牽連事實ニ付テハ受訴裁判所ニ於テ之カ審理判決ヲ爲ササルヘカラス(明治四十四年(れ)第二〇二三號同年十一月二十一日第一刑事部判決)トセラレテ通説ヲ支持セラレタルモノノ如クテアツタカ然ルニ御院ハ其ノ後俄然一變「豫審判事カ檢事ノ公訴事實トシテ明示セサル犯罪行爲ヲ發見シ之ヲ檢事ノ明示シタル犯罪行爲ト連續犯又ハ牽連犯ノ關係ニアルモノトシテ公判ニ付スルモ公判裁判所カ檢事ノ明示シタル公訴事實ニ付犯罪ノ證明ナキモノト認ムルトキハ豫審判事ノ發見シタル犯罪事實ハ公訴ノ範圍外ニ屬シ之ニ對シテハ本案ノ裁判ヲ爲スコトヲ得サルモノトス而シテ明示外ノ事實カ公訴事實ノ範圍ニ屬セサル以上明示ノ事實ニ對シ言渡シタル無罪ノ判決ハ確定スルモ明示外ノ事實ニ對シ其ノ確定力ヲ及ホスモノニ非サレハ明示外ノ事實ニ對シ檢事カ更ニ公訴ヲ提起スルモ所謂一事不再理ノ原則ヲ適用スヘキモノニ非サルヲ以テ受訴裁判所ハ該公訴事實ニ對シ本案ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス(大正十四年(れ)第六四九號同年六月二十九日第二刑事部判決上告棄却)トセラル之レ疑モナク前者ノ判例トハ斷然正反對ノ判例(上告辯護人ト同一見解、樫田忠美著刑事演習四六頁以下參照)テアリ

斯界ニ見ル重視スヘキ判例ト謂ハサルヲ得ナイ忌憚ナク謂ヘハ上告辯護人モ亦曾テ學窓ニアツテハ常ニ通説ノ重ンスヘキヲ聽カサレ動トモスレハ無批判的ニ之ニ聽從シ來リシ傾向ノアリシコトハ否ムコト能ハサルトコロテアルカ今敍上御院後者ノ判例ヲ單純一罪ニ對スル處斷上ノ一罪若クハ科刑上ノ準一罪ト稱セラルル連續犯ノ本質上ヨリ精細ニ檢討尋究スルトキ多分ニ眞理ヲ包含シ寧ロ前者ノ判例ニ比シテ後者ノ判例ノ妥當ナルヲ思ハシムルモノアルト共ニ通説必スシモ完璧ナモノトハカリ斷スルコトハ出來ナイト信スルノテアル況ンヤ世相ハ刻一刻變轉常ナク今ヤ各般ノ事物ハ舉世滔々トシテ舊體制ヨリ新體制ヘト移動シツツアルノ秋獨リ司法ノ世界ノミ此ノ範疇カラ例外ヲ容スヘキモノテナイコトハ謂フマテモナイ之ヲ要スルニ刑事訴訟法上公訴ノ範圍ニ關スル見解ハ敍上ノ如ク相容レサル前後二個ノ對立的判例カアリ從ツテ實務上直チニ相反スル結果ヲ顯出スルコトハ必然テアル即チ本件ノ場合若シ御院後者ノ判例ニ據ルトキハ原判決ノ態度ハ結局審判ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキ(刑事訴訟法第四百十條第一項第十八號後段)ニ該當シ其ノ判決ハ疑モナク絶對的上告理由アルモノトシテ破毀ヲ免レサルモノテフ結論ト爲ル故ニ其ノ歸趨如何ハ獨リ本件ノ爲メハカリテナク之ヲ契機トシテ我刑事訴訟法上難解ノ極致トモ謂フヘキ公訴ノ範圍ニ關スル最高法衙タル御院ノ見解態度ヲ統一的决定的タラシムルコトハ極メテ有意義テアリ斯界ニ及ホス影響ヤ眞ニ重大ナルモノアリト信ス

ト云フニ在レドモ

【要旨】
一個ノ民事訴訟事件ノ一ノ審級ニ於テ證人が自己ノ實驗ニ反スル數個ノ供述ヲ爲シタルトキト雖モ是等ノ陳述ニシテ一宣誓ノ下ニ爲サレタルモノナルトキハ相合シテ本來的單一ノ偽證罪ヲ構成スルモノニシテ其ノ各陳述毎ニ各別ナル偽證罪ヲ構成スルモノニ非ズ蓋シ偽證罪ハ宣誓ニ反シテ反實驗ノ陳述ヲ爲スコトヲ罰スルモノナレバ宣誓ニシテ唯一回アルニ過ギザル以上犯罪モ亦單一ナルベキコト當然ナレバナリ而シテ今原判決書ヲ本件公判請求書ト對比スレバ原審ガ原判示第二ニ於テ認定シタル所ハ被告人ハ本件公判請求書第二事實ニ記載セル民事訴訟事件ニ付同事實ニ記載セル裁判所ニ於テ同一宣誓ノ下ニ同事實(ハ)記載ノ如キ自己實驗ニ反スル陳述ヲ爲シ尙同事件ニ付同裁判所ニ於テ「泉辯護士ニ原判示ノ破産事件ヲ依頼スルニ付テハ云々」ナル是亦自己實驗ニ反スル陳述ヲ爲シタリト云フニアリテ之ヲ前段説明ノ理論ニ照ストキハ則チ原審ハ本件偽證罪中ニ包含セラルルモノトシテ公判請求書ニ明示セラレタル被告人ノ所爲ヲ認定スルト共ニ之ト相共ニ一罪ヲ成スベキ被告人ノ他ノ所爲ヲモ認定シタルモノニ外ナラズシテ斯ノ如キハ毫モ起訴ノ範圍ヲ逸脱スル所ナシ(此ノ結論ハ論旨所援本院判例ノ孰レトモ牴觸スルモノニ非ズ)故ニ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
仍テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ通り判決ス

檢事田口環關與

○國家總動員法違反被告事件

(昭和十六年(レ)第九八號
昭和十六年四月五日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 大島茂三郎 辯護人 名川侃市

【第一審】 小樽區裁判所 【第二審】 札幌地方裁判所

○判示事項

價格等統制令第二條第二項末段所定ノ指定期日ニ契約ヲ爲シタルヘキ額ノ認定

○判決要旨

價格等統制令第二條第二項末段所定ノ指定期日ニ契約ヲ爲シタルヘキ額ハ該期日後ニ於ケル實績價格ニ依リ之ヲ認定スルモ違法ニ非ス

價格等統制令第二條第二項末段所定ノ指定期日ニ契約ヲ爲シタルヘキ額ノ認定

【參照】 價格等統制令第二條 價格等ハ昭和十四年九月十八日(以下指定期日ト稱ス)ニ於ケル額ヲ超エテ之ヲ契約シ支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合及本令施行ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 注文生産品ノ價格ニ付生産者ガ生産ニ著手シタルモノ
 - 二 其ノ他ノ價格ニ付買主其ノ他ノ支拂者ガ目的物ノ引渡ヲ受ケタルモノ
 - 三 運送貨又ハ加工賃ニ付運送人又ハ加工者ガ目的物ノ引渡ヲ受ケタルモノ
 - 四 保管料、損害保険料又ハ賃賃料ニ付支拂者ガ履行運滞ニ在ルモノ
- 前項ノ指定期日ニ於ケル額ハ價格等ノ受領者ニ付テノ額ニ依リ受領者別ニ定マルモノトシ指定期日ニ爲シタル契約アル場合ハ其ノ契約額(同シ事情ノ下ニ於テ數種ノ契約額アリタルトキハ其ノ最高額)偶々指定期日ニ爲シタル契約ナカリシ場合ハ契約ヲ爲シタルベキ額トス
- 價格等ニ付前項ノ規定ニ依ル額ナキ場合ニ於テハ閣令ノ定ムルモノヲ以テ指定期日ニ於ケル額トス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役四月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ小樽市色内町八丁目五番地ニ店舗ヲ構ヘ北海道産雜穀澱粉等ノ移出業ヲ營ム商人ナルトコロ右店舗ニ於テ

第一(イ) 精製澱粉一等品小樽倉渡一袋ニ關スル價格等統制令(昭和十四年十月二十日施行)第二條所定ノ販賣契約ヲ爲シタルヘキ價格十三圓十五錢ナルニ拘ラス开ヲ諒知シ乍ラ法定ノ除外事由ナクシテ昭和十四年十月二十五日以降昭和十五年二月十五日迄ノ間六回ニ互リ東京市池田忠次郎外四名ト順次ニ合計一千四百五十三袋ヲ小樽倉渡價格一袋十四圓四十錢乃至十五圓四十五錢ニテ販賣契約ヲ爲シ(契約額二萬一千三百九十七圓九十五錢、超過額二千二百九十一圓)

(ロ) 大納言小豆二等品小樽倉渡一俵ニ關スル右所定ノ販賣契約ヲ爲シタルヘキ價格二十圓ナルニ拘ラス开ヲ諒知シ乍ラ法定ノ除外事由ナクシテ昭和十四年十一月五日以降同年十二月四日迄ノ間五回ニ互リ下關市株式會社坂正商店外四名ト順次ニ合計八百六十二俵ヲ小樽倉渡價格一俵二十圓二十一錢乃至二十三圓六十一錢ニテ販賣契約ヲ爲シ(契約額一萬八千四百二十一圓五十九錢、超過額一千八百八十一圓五十九錢)

(ハ) 小豆二等品小樽倉渡一俵ニ關スル價格等統制令第二條所定ノ販賣契約ヲ爲シタルヘキ價格十八圓八十八錢ナルニ拘ラス开ヲ諒知シ乍ラ法定ノ除外事由ナクシテ昭和十四年十一月十日以降昭和十五年一月十五日迄ノ間七回ニ互リ東京市林進之助外二名ト順次ニ合計一千四百七十四俵ヲ小樽倉渡價格一俵十九圓八十錢乃至二十二圓四十九錢ニテ販賣契約ヲ爲シ(契約額三萬一千七百二十圓四十七錢、超過額四千九圓二十七錢)

(ニ) 中長鶉豆二等品小樽倉渡一俵ニ關スル同令同條所定ノ販賣契約ヲ爲シタルヘキ價格十六圓三十錢ナルニ拘ラス开ヲ諒知シ乍ラ法定ノ除外事由ナクシテ昭和十四年十月二十六日以降昭和十五年一月十五日迄ノ間九回ニ互リ前掲坂正商店外五名ト順次ニ合計一千八百五十五俵ヲ小樽倉渡價格一俵十八圓五十五錢乃至

價格等統制令第二條第二項末段所定ノ指定期日ニ契約ヲ爲シタルヘキ額ノ認定

二十一圓五十一錢ニテ販賣契約ヲ爲シ(契約額三萬七千五百二十五圓二十二錢、超過額七千二百八十八圓七十二錢)

第二 北海道産馬鈴薯澱粉精粉一等品ノ積出港ニ於ケル船乘渡一袋ニ關シ價格等統制令第七條ニ基キ昭和十五年商工省農林省告示第二號(同年二月二十六日實施)ヲ以テ指定セラレタル販賣價格十三圓三十錢ナルニ拘ラス并テ諒知シ乍ラ法定ノ除外事由ナクシテ昭和十五年二月十七日以降同年三月五日迄ノ間八回ニ互リ神戸市木下商店外六名ト順次ニ合計四千三百六十一袋ヲ積出港タル小樽船乘渡價格一袋十五圓乃至十六圓三十五錢ニテ販賣契約ヲ爲シ(契約額六萬八千四百七圓五十五錢、超過額一萬四百六圓二十五錢)

第三(一) 昭和十四年度産小豆本造二等品小樽倉庫渡一俵ニ關シ價格等統制令第三條第一項ニ基キ昭和十五年北海道廳告示第三十九號(同年一月十八日實施)ヲ以テ北海道米雜穀商組合聯合會ニ認可セラレ且被告人カ同聯合會ノ構成員タル小樽雜穀澱粉卸商業組合ノ組員(構成員)タルノ故ヲ以テ被告人ニ對シテモ販賣價格ト看做サレタル價格二十圓四十錢ナルニ拘ラス并テ諒知シ乍ラ法定ノ除外事由ナクシテ昭和十五年一月二十一日以降同年二月二十五日迄ノ間二回ニ互リ東京市横田商店外一名ト順次ニ合計六百三十四俵ヲ小樽倉庫渡價格一俵二十二圓三十五錢乃至二十三圓十五錢ニテ販賣契約ヲ爲シ(契約額一萬四千四百三十二圓三十錢、超過額一千四百九十八圓七十錢)

(二) 昭和十四年度産中長鶉豆本造二等品小樽倉庫渡一俵ニ付右ノ如ク被告人ニ對シテ販賣價格ト看做サレタル價格二十圓五十錢ナルニ拘ラス并テ諒知シ乍ラ法定ノ除外事由ナクシテ昭和十五年二月十五日以降同年二月二十五日迄ノ間二回ニ互リ大阪市松本龜之助外一名ト順次ニ合計三百七俵ヲ小樽倉庫渡價格一俵二十一圓乃至二十二圓十五錢ニテ販賣契約ヲ爲シ(契約額六千五百五十八圓五十錢、超過額二百六十五圓)

(三) 昭和十四年度産小粒大豆秋田大豆各本造二等品小樽倉庫渡一俵ニ付右ノ如ク被告人ニ對シテ販賣價格ト看做サレタル價格十五圓三十五錢ナルニ拘ラス并テ諒知シ乍ラ法定ノ除外事由ナクシテ昭和十五年一月三十一日東京市加藤商店ト合計六百八十七俵ヲ小樽倉庫渡價格一俵十六圓三十五錢乃至十六圓五十五錢ニテ販賣契約ヲ爲シ(契約額一萬一千三百六十五圓四十五錢、超過額八百二十圓)

(四) 昭和十四年度産長鶉豆本造二等品小樽倉庫渡一俵ニ付右ノ如ク被告人ニ對シテ販賣價格ト看做サレタル價格二十圓三十錢ナルニ拘ラス并テ諒知シ乍ラ法定ノ除外事由ナクシテ昭和十五年二月二十五日神戸市湊商店ト合計百五十三俵ヲ小樽倉庫渡價格一俵二十一圓ニテ販賣契約ヲ爲シ(契約額三千二百十三圓、超過額百七圓十錢)

タルモノニシテ以上第一乃至第三ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス
法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ各所爲ハ國家總動員法第十九條價格等統制令第二條國家總動員法第三十三條第六號ニ、判示第二ノ各所爲ハ國家總動員法第十九條價格等統制令第七條同令施行規則第十三條昭和十五年商工省農林省告示第二號國家總動員法第三十三條第六號ニ、判示第三ノ各所爲ハ國家總動員法第十九條價格等統制令第三條同令施行規則第七條昭和十五年北海道廳告示第三十九號價格等統制令第二條國家總動員法第三十三條第六號ニ該當スルトコロ是等ハ同質犯罪ニシテ且犯意繼續ニ係ルカ故ニ刑法第五十五條ヲ適用シ國家總動員法第三十三條第六號ノ一罪トシテ處斷スヘク所定期中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役四月ニ處スヘキモノトス

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

價格等統制令第二條第二項末段所定ノ指定期日ニ契約ヲ爲シタルヘキ額ノ認定

辯護人名川侃市上告趣意書第一點原判決ハ上告人ノ犯罪事實トシテ上告人ハ小樽市色内町ニ店舖ヲ構ヘ北海道産雜穀澱粉等ノ移出業ヲ營ムモノナルトコロ第一、(イ)精製澱粉一等品小樽倉渡一袋ニ關スル價格等統制令第二條所定ノ販賣契約ヲ爲シタルヘキ價額十三圓十五錢ナルニ拘ラスオラ諒知シナカラ法定ノ除外事由ナクシテ昭和十四年十月二十五日以降昭和十五年二月十五日迄ノ間六回ニ互リ東京市池田忠次郎外四名ト順次ニ合計千四百五十三袋ヲ小樽倉渡價格一袋十四圓四十錢乃至十五圓四十五錢ニテ販賣シ(ロ)大納言小豆二等品小樽倉渡一俵ニ關スル右所定ノ販賣契約ヲ爲シタルヘキ價額二十圓ナルニ拘ラスオラ諒知シナカラ法定ノ除外事由ナクシテ昭和十四年十一月五日以降同年十二月四日迄ノ間五回ニ互リ下關市株式會社坂正商店外四名ト順次ニ合計八百六十二袋ヲ小樽倉渡價格一袋二十圓二十一錢乃至二十三圓六十一錢ニテ販賣契約ヲ爲シ(ハ)小豆二等品小樽倉渡一俵ニ關スル價格等統制令第二條所定ノ販賣契約ヲ爲シタルヘキ價格十八圓八十錢ナルニ拘ラスオラ諒知シナカラ法定ノ除外事由ナクシテ昭和十四年十一月十日以降昭和十五年一月十五日迄ノ間七回ニ互リ東京市林進之助外二名ト順次ニ合計一千四百七十四俵ヲ小樽倉渡價格一袋十九圓八十錢乃至二十二圓四十九錢ニテ販賣契約ヲ爲シ(ニ)中長鶉豆二等品小樽倉渡一袋ニ關スル同令同條所定販賣契約ヲ爲シタルヘキ價額十六圓三

十錢ナルニ拘ラスオラ諒知シナカラ法定ノ除外事由ナクシテ昭和十四年十月二十六日以降昭和十五年一月十五日迄ノ間九回ニ互リ前掲坂正商店外五名ト順次ニ合計一千八百五十五袋ヲ小樽倉渡價格一袋十八圓五十五錢乃至二十一圓五十一錢ニテ販賣契約ヲ爲シタルト認定シ其ノ證據ノ說明ニ於テ證據ヲ案スルニ判示事實中犯意繼續ノ點ヲ除ク其ノ餘ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ據リ之ヲ認メ云々ト說明セリ然レトモ右(イ)、(ロ)、(ニ)、ノ價格等統制令第二條所定ノ價格ニ付テハ價格等統制令第二條ニハ價格等ハ昭和十四年九月十八日ニ於ケル額ヲ超ヘテ之ヲ契約シ支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ス前項ノ指定期日ニ於ケル額ハ價格等ノ受領者別ニ定マルモノトシ指定期日ニ爲シタル契約アル場合ハ其ノ契約額偶指定期日ニ爲シタル契約ナカリシ場合ハ契約ヲ爲シタルヘキ額トス價格等ニ付キ前項ノ規定ニ依ル額ナキ場合ニ於テハ閣令ノ定ムルモノヲ以テ指定期日ニ於ケル額トスト規定セルヲ以テ被告人ニ於テ昭和十四年九月十八日ニ契約ヲ爲シタルモノナキトキハ同日以前ニ於テ爲シタル契約ニ於ケル價格ニ付キ九月十八日ニ爲シタルヘキ價格ヲ定ムヘキモノニシテ九月十八日以後ニ爲シタル契約ノ價格ヲ以テ九月十八日ニ爲シタルヘキ價格ト爲スコトヲ得サルモノナリト云ハサルヘカラス蓋シ右價格等統制令ハ低物價政策ニ基キ騰貴ノ趨勢ヲ續ケ來レル物價ヲ昭和十四年九月十八日ノ價格ニ停止セシメタルモノナルヲ以テ同日以後ニ契約シタル價格ヲ標準トナスヘキモノニ非サルコトハ

價格等統制令第二條第二項末段所定ノ指定期日ニ契約ヲ爲シタルヘキ額ノ認定

論ナキトコロナリ而シテ原判決カ認メタル右(イ)ノ精製澱粉一等品小樽倉渡一袋十三圓十五錢ハ昭和十四年九月十八日ニ於ケル被告人ノ取引價格ニ非スシテ原審第一回公判調書ニ依レハ被告人ノ供述トシテ問、右統制令ニ依ル指定期日タル昨年九月十八日當時被告人方店舗ニ於テ精製澱粉ノ取引カアツタカ、答、八月二十日頃ニ取引シタ記憶ハアリマスカ御訊ネノ頃ニハナカツタト思ヒマス、問、當時右一俵ノ賣買價格ハ如何程テアツタカ知ツテ居ルカ、答、其ノ當時ノ賣買價格ハ存シマセスカ其ノ後昨年十月初頃私ノ加盟シテ居ル小樽雜穀商同業組合ニ於テ自肅値ヲ取極メ今後ハ其ノ値段テ賣買スルコトニナツタノテスソレハ小樽倉渡十六圓十五錢テアリマシタトノ供述記載アリ該供述ニ依リ昭和十四年十月初旬小樽雜穀商同業組合カ定メタル自肅値段ヲ以テ右統制令第二條ノ價格ト認定セルモノナルモ十四年十月中ニ小樽雜穀商同業組合カ取極メタル所謂自肅値ト稱スルモノカ右第二條ノ價格トナル法令上ノ根據ナキヲ以テ右被告人ノ供述ニ依リ十三圓十五錢ヲ九月十八日ノ實績價格ト認定シタルハ違法ナリ又(ロ)ノ大納言小豆ニ付テハ同調書ニ問、同様昨年九月十八日當時大納言小豆二等品一俵ハ如何程テアツタカ、答、ソレノ自肅値ハ小樽倉渡古品カ二十二圓新品カ二十一圓テアリマシタカ昨年十月二十七日ニ私方テ小樽ノ松本商店ニ賣ツタ二十圓ト云フ實績カアリマシタカラ私ノ店トシテハ此ノ値段ニ拘束サレルコトニナツタノテアリマス、問、假ニ昨年九月十九日當時大納言小豆ノ取引

カ行ハレタトスレハ如何程ノ値テアツタト思フカ、答、矢張り一俵二十圓位テアツタラウト思ヒマストノ供述記載アリ該供述ニ依レハ原判決ハ(ロ)ノ大納言小豆二等品ノ價格ヲ九・一八價格ト認定セルモ被告人カ賣買シタル一俵二十圓ハ昭和十四年九月十八日ヨリ四十日餘リヲ經過シタル同年十月二十七日ノ取引價格ナルヲ以テ該價格ヲ以テ九月十八日ノ取引シタルヘキ價格ト稱スルコトヲ得サルハ論ナキ所ナリ尤モ被告人ハ前示ノ如ク九月十九日ニ取引カ行ハレタトスレハ一俵二十圓位テアツタト思ヒマスト供述セルモ其ノ直前ノ答ニ於テ昨年九月十八日當時大納言小豆二等品ハ一俵ハ如何程テアツタカトノ問ニ對シソレノ自肅値ハ小樽倉渡古品二十二圓新品カ二十一圓ナリシ旨ヲ供述シ居リテ而モ同答ノ供述全體ヨリ觀察スレハ自肅値ハ高カリシモ十月二十七日ニ於テハヨリ安ク二十圓テ賣ツタ實績カアル爲メ被告人ノ店トシテハ其ノ値段ニ拘束サレルコトニナツタノテアリマスト稱シ此ノ拘束サレルト云フ意味ハ其ノ以後ハ二十圓テ賣ラネハナラヌコトトナリタリト云フニ在リ而モ斯ル供述ヲ爲スニ至リタルハ警察ノ取調ニ於テ右十月二十七日ノ賣値ヲ九・一八ノ實績ト認定サレタ爲メナルモ右被告人ノ供述セル如ク九月十八日當時一俵古品二十二圓新品二十一圓ノ自肅値アリタルモノナルヲ以テ九・一八當時ハ該價格ニテ賣買スヘキハ當然ノコトニシテ十月二十七日ニ二十圓ニ賣リタルノ故ヲ以テ九月十八日ニモ二十圓ニテ賣リタルヘシト爲スハ矛盾ノ甚シキモノナリト云ハサルヘカラス從テ

價格等統制令第二條第二項末段所定ノ指定期日ニ契約ヲ爲シタルヘキ額ノ認定

斯ル供述ニ依リ十月二十七日ノ販賣價格タル大納言小豆二等品一俵ノ價格二十圓ヲ九・一八價格ト認定シタルハ證據ニ依ラスシテ不當ニ事實ヲ認定シタルモノト稱スヘク又判示(ニ)ノ中長鶉豆二等品ノ價格ニ付キ同調書ニ問、同様中長鶉豆二等品一俵ノ價格ハ、答、小樽倉渡十六圓三十錢テ之ハ昨年九月二十日私方カラ小樽共成株式會社へ賣ツタ實績テアリマストノ供述ニ依リ同鶉豆ノ九・一八價格ヲ一俵十六圓三十錢ト認定セルモ右公判調書ニ依レハ九月十八日ニ被告人ニ於テ鶉豆ノ賣買ノ有無ヲ明ニスル所ナク漫然同日以後ナル九月二十日ノ賣値ヲ以テ九・一八價格ト認定セルハ違法ナリト云ハサルヘカラス敍上ノ如ク原判決ハ被告人カ判示第一ノ(イ)(ロ)(ニ)ノ取引ニ於ケル九・一八價格ヲ不當ニ認定シ其ノ誤認ノ價格ヲ基礎トシテ爾後ノ販賣價格ヲ被告人ノ國家總動員法違反ナリトセルハ違法ナリト云フニ在レドモ

價格等統制令第二條第二項末段ニ規定セラレタル指定期日ニ契約ヲ爲シタルベキ額ハ必ラズシモ該指定期日前ニ於ケル實績價格ニ據リ之ヲ認定スルコトヲ要スルモノニ非ズ假令該期日後ノ實績價格ト雖モ諸般ノ事情ニ照シ指定期日ニ於テ契約シタルベキ額ヲ推認スルニ適スルモノナル以上採テ以テ右額ノ認定ノ基礎ト爲スモ敢テ不法ニ非ズ然リ而シテ論旨摘録ニ係ル原審公判ニ於ケル被告人ノ供述ヲ查スルニ(但シ論旨摘録中小樽雜穀商同業組合ノ精製澱粉一等品一袋ノ自肅値ガ小樽倉渡十六圓十五錢トアルハ同十三圓十五錢ノ誤記ト認ム)該供述ハ以テ上敍

【要旨】

各品ニ對スル指定期日ニ於ケル被告人ノ契約シタルベキ額ガ原判決認定ノ如クナル事實ヲ證明スルニ足り記録ヲ精査檢討スルモ右ニ關シ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アリト疑フニ足ルベキ顯著ナル事由ナキヲ以テ原判決ニハ所論ノ如キ違法ナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事榎田麟二關與

○贓物故買、竊盜、竊盜教唆被告事件

(昭和十六年(九)第一一七號
同年四月十六日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】

〔被告人〕

泉 竹松
住吉重次郎

辯護人

〔竹内養太郎
鈴木忠義
石川忠義〕

【第一審】 富山區裁判所 【第二審】 富山地方裁判所

○判示事項

贓物ノ交換ト故買罪

○判決要旨

共犯ニ非サル竊盜犯人カ互ニ贓物タルノ情ヲ知り乍ラ財物ヲ
交換シタルトキハ兩者ニ付キ夫々贓物故買罪ノ成立アルモノ
トス

【參照】 刑法第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
贓物ノ運搬寄藏故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ
罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人泉竹松ヲ懲役一年及罰金百圓被告人
住吉重次郎ヲ懲役八月及罰金百圓ニ各處ス右兩名ニ對シ原審ニ於ケル未決勾留日數中各二十五
日ヲ右懲役刑ニ算入ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間各
當該被告人ヲ勞役場ニ留置ス(其ノ他ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人泉竹松ハ昭和十三年一月富山市石金不二越鋼材工業株式會社ニ雇ハレ第十二作業場(ゲージ工場)ニ伍
長トナリ昭和十四年二月頃同作業場主任トナリ同年五月十日頃退社セル者被告人住吉重次郎ハ昭和十二年八月
同會社ニ入り右「ゲージ」工場ノ作業主任ヲ爲シ居タルモ昭和十三年八月頃退社セル者

被告人原田正一ハ昭和十三年十月右會社事務係トシテ入社シ「ゲージ」工場作業主任ノ助手兼記録工ヲ爲シ居
タルモ昭和十五年七月頃退社シタル者ナルトコロ

第一 被告人泉竹松ハ

一 (一) 昭和十四年四月下旬頃數回ニ前記會社ノ工場ヨリ同會社所有ノ「ハクソ」外約三百三十個ヲ竊取
シ

(2) (イ) 同年三、四月頃原審相被告人朝日忠作ニ對シ右會社ニ通勤ノ途上前記工場ヨリ同會社所有ノ

工具ヲ竊取センコトヲ教唆シ因テ其ノ頃同人ヲシテ犯意繼續シテ同工場ヨリ約二十回ニ互リ同會
社所有ノ「ハクソ」外四點個數約四十個ヲ竊取セシメ

(ロ) 同年七、八月頃原審相被告人金山菊治ニ對シ富山市内ノ同人方ニ於テ前同様教唆ヲ爲シ因テ
同人ヲシテ其ノ頃二、三回ニ互リ犯意繼續シテ前記工場ヨリ同會社所有ノ「カツター」十一個ヲ
竊取セシメ

(ハ) 同年五月頃ヨリ昭和十五年二月頃迄ノ間前後數回ニ互リ相被告人原田正一ニ對シ前記金山菊
治方等ニ於テ前同様教唆ヲ爲シ因テ右正一ヲシテ其ノ頃後記第三ノ如ク前記工場ヨリ犯意繼續シ
テ前後數回ニ互リ同會社所有ノ「ゲージ」外二點個數二百數個ヲ竊取セシメ

二 (1) 昭和十四年九月頃相被告人住吉重次郎ヨリ後記第二ノ一ノ(1)ノ如ク右會社ヨリ竊取セル「ゲ
ージ」約百三十個ヲ其ノ盜品タルノ情ヲ知り乍ラ受取リ之ニ對シ「カツター」十個餘ヲ前記
金山菊治ヲ介シ茨城縣稻敷郡牛久村興亞精機製作所内ニ於テ右重次郎ニ交付交換シテ贓物ノ故買ヲ爲
シ

(2) 同年九月頃前記會社職工辻田甚吉ヨリ同人等カ同會社工場ヨリ竊取シタル盜品タル「ヤスリ」約
二十五本ヲ其ノ盜品タルノ情ヲ知りナカラ被告人方ニ於テ金十圓ニテ買受ケテ贓物ノ故買ヲ爲シ

第二 被告人住吉重次郎ハ

一 (1) 同年二、三月頃原審相被告人朝倉正充ニ對シ當時長岡市ノ被告人方ニ於テ前記會社ノ工場ヨリ同
會社所有ノ工具ヲ竊取センコトヲ教唆シ因テ同人ヲシテ犯意繼續シテ同年四月頃前記工場ヨリ同會社所
有ノ「ゲージ」約百三十個ヲ約十回位ニ互リ竊取セシメ

贓物ノ交換ト故買罪

(2) 同年十一月頃原審相被告人金山菊治ニ對シ前記興亞精機製作所内ニ於テ前同様教唆ヲ爲シ更ニ同菊治ハ其ノ頃原審相被告人魚瀬孝治ヲ教唆シ同人ヲシテ其ノ頃前記工場ヨリ同會社所有ノ「メツタルン」約十二枚ヲ竊取セシメ

二 同年九月頃相被告人泉竹松ヨリ前記第一ノ一ノ(2)ノ(ロ)記載ノ右會社ヨリ竊取セル「カツター」約十餘個ヲ其ノ盜品タルノ情ヲ知り乍ラ受取り之ニ對シ「ゲージブロック」約百三十個ヲ判示第一ノ二ノ(1)ノ如ク交付交換シテ贓物ノ故買ヲ爲シ

第三 被告人原田正一ハ

昭和十年七月五日大阪區裁判所ニ於テ竊盜罪ニ因リ懲役一年ニ處セラレ當時其ノ刑ノ執行中昭和十一年六月十三日假出獄トナリ同年七月五日刑期滿了シタル者ナルトコロ

昭和十四年五月頃ヨリ昭和十五年二月頃迄ノ間相被告人泉竹松ノ判示第一ノ一ノ(2)ノ(ハ)ノ教唆ニ因リ數回ニ前記會社ノ工場ヨリ同會社所有ノ「ゲージブロック」外二點約二百個ヲ竊取シタルモノニシテ

被告人竹松ノ判示第一ノ一ノ(1)第一ノ一ノ(2)ノ(イ)(2)ノ(ロ)(2)ノ(ハ)及第一ノ一ノ(1)ト第二ノ一ノ(2)ノ(イ)(ロ)(ハ)第一ノ二被告人重次郎ノ判示第二ノ一ノ(1)被告人正一ノ判示第三ノ所爲ハ各犯意繼續ニ係ル(但判示第一ノ一ノ(2)ノ(イ)(ロ)(ハ)判示第二ノ一ノ(1)ハ各本犯カ犯意繼續ナルヲ以テ被告人竹松重次郎ニ於テ各本犯ト同一責任ヲ負フモノトス)モノトス

法律ニ照スニ判示所爲中被告人泉竹松ノ判示第一ノ一ノ(1)竊盜ノ點ハ刑法第二百三十五條第五十五條ニ同
一ノ(2)ノ(イ)(ロ)(ハ)ノ竊盜教唆ノ點ハ各同法第六十一條第一項第二百三十五條第五十五條ニ同二ノ(1)(2)ノ贓物故買ノ點ハ同法第二百五十六條第二項第五十五條ニ各該當スルトコロ右竊盜ト同教唆トハ連

續犯ナルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用スヘク右(但各竊盜教唆ハ本來併合罪ナルモ自己ノ竊盜行爲ト連續ノ關係アリテ一罪トナル)ト贓物故買トハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ從ヒ重キ贓物故買ノ罪ニ付定メタル刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期及同罪所定罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人泉竹松ヲ懲役一年及罰金百圓ニ

被告人住吉重次郎ノ判示第二ノ一ノ(1)ノ點ハ刑法第六十一條第一項第二百三十五條ニ判示第二ノ一ノ(2)ハ同法第六十一條第二項第二百三十五條ニ各該當シ尙(1)ハ同法第五十五條ヲ適用スヘク同二ノ贓物故買ノ點ハ同法第二百五十六條第二項ニ該當スルトコロ以上各竊盜教唆、竊盜ノ教唆及贓物故買ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ從ヒ重キ贓物故買ノ罪ニ付定メタル刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期及同罪所定罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人住吉重次郎ヲ懲役八月及罰金百圓ニ

被告人原田正一ノ判示第三ノ所爲ハ刑法第二百三十五條第五十五條ニ該當スルトコロ同被告人ニハ前示ノ前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項五十七條ニ從ヒ累犯ノ加重ヲ爲シ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人原田正一ヲ懲役一年ニ

各處シ以上各被告人ニ對シ同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決留日數中各二十五日ヲ夫々右懲役刑ニ算入シ被告人泉竹松、同住吉重次郎ニ於テ右罰金ヲ完納スルトコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間各當該被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ全部被告人等及原審相被告人金山菊治、魚瀬孝吉、朝倉正充、朝日忠作ノ連帶負擔トスヘキモノトス

○主 文

贓物ノ交換ト故買罪

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理由

被告人住吉重次郎辯護人鈴木義男同石川忠義上告趣意書第一點原判決ハ被告人住吉重次郎ニ對スル判示第二ノ二ニ於テ「同年(昭和十四年)九月頃相被告人泉竹松ヨリ前記第一ノ一ノ(2)ノ(ロ)記載(被告人泉竹松ハ：原審相被告人金山菊治ニ對シ富山市内ノ同人方ニ於テ前同様教唆ヲ爲シ因テ同人ヲシテ其ノ頃二、三回ニ互リ犯意繼續シテ前記工場ヨリ同會社所有ノ「カッタ」十一個ヲ竊取セシメ云々)ノ右會社ヨリ竊取セル「カッタ」約十個餘ヲ其ノ盜品タルノ情ヲ知り乍ラ受取り之ニ對シ「ゲージブロック」約百三十個ヲ判示第一ノ二ノ(1)ノ如ク(被告人泉竹松ハ昭和十四年九月頃相被告人住吉重次郎ヨリ後記第二ノ一ノ(1)ノ如ク右會社ヨリ竊取セル「ゲージブロック」約百三十個ヲ其ノ盜品タルノ情ヲ知り乍ラ受取り之ニ對シ「カッタ」十個餘ヲ前記金山菊治ヲ介シ茨城縣稻敷郡牛久村興亞精機製作所内ニ於テ右重次郎ニ交付交換シ云々)交付交換シテ贓物ノ故買ヲ爲シタル旨判示シ被告人住吉及泉ヲ夫々贓物故買罪ニ間擬シタリ然レドモ刑法第二百五十六條第二項ニ所謂「故買」トハ贓物タルノ情ヲ知り乍ラ金錢其ノ他ノ物ヲ對價トシテ贓物ノ所有權ヲ取得スル行爲ヲ指稱スルモノナルコト夙ニ御院判例ノ示ストコロナリ即チ贓物故買罪ノ成立ニハ贓物ノ授受ガ有償行爲ニ因リテ行ハレタルコトヲ

要スルモノトス而シテ原判決ノ認定ニ依レハ被告人住吉ガ相被告人泉ヨリ受取りタル判示「カッタ」ハ被告人住吉ニ於テ贓物タルコトヲ知り又被告人住吉ガ相被告人泉ニ交付シタル判示「ゲージブロック」ハ同相被告人ニ於テ贓物タルコトヲ知り居タリト謂フニ在ルヲ以テ被告人兩名ハ互ニ贓物タルコトヲ知り乍ラ贓物トシテ右物件ノ授受ヲ爲シタルモノトス從ツテ原判決ハ贓物ノ授受自體ヲ以テ對價ト爲シ本件ヲ有償行爲タル贓物故買罪ニ間擬シタリト雖モ贓物ヲ贓物トシテ授受スル行爲自體ハ犯罪ナルヲ以テ互ニ贓物ノ交付ヲ受ケタル所爲ヲ捉ヘ之 以テ對價ト爲スコト能ハザル筋合ナリト思料ス即チ被告人住吉ト泉トノ間ニ於ケル判示「ゲージブロック」授受ノ事實ニ付之ヲ觀レハ被告人泉ノ物件取得ハ同被告人ノ贓物ニ關スル犯罪ノ構成要件ヲ爲スモノニシテ所謂對價タル關係ニ立ツモノニアラス果シテ然ラバ原判決ニハ理由齟齬ノ違法アリテ破毀ヲ免レザルモノト信ズト云フニ在リ

按ズルニ刑法第二百五十六條第一項ニ所謂收受トハ贓物ノ無償取得ヲ指稱シ同條第二項ニ所謂故買トハ賣買交換其ノ他ノ形式ニ於ケル贓物ノ有償取得ヲ汎稱スルモノナルコト當院屢次ノ判例ノ趣旨トスルコロナリ而シテ右ニ所謂有償取得トハ贓物ノ授受ガ有償名義ヲ以テ行ハレタルノ謂ニシテ犯人ガ其ノ授受ニ因リテ達セントシタル法律上ノ效果ガ發生スルト否トハ敢テ之ヲ問ハザルモノス故ニ原判示事項ノ如ク被告人兩名ガ機會ヲ異ニシ相獨立シテ竊取シタル財物

ヲ互ニ贓物タルノ情ヲ知り乍ラ之ヲ交換シタル場合ニ於テモ贓物ノ授受ハ相互ニ有償取得ノ形式ニ依リテ行ハレタルモノナルヲ以テ兩名ニ對シ夫々贓物故買罪ヲ構成スルハ明カト謂フヘク之ヲ以テ單ニ贓物收受罪ヲ構成スルニ過キズト爲スハ當ラザルナリ然ラバ右ト同趣旨ニ出デタル原判決ハ正當ニシテ所論ノ如キ違法アルモノニ非ズ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事横田麟二關與

○國家總動員法違反被告事件

(昭和十六年(れ)第一六四號
同年四月二十八日第二刑事部判決)

棄却)

【上告人】 被告人 森 嘉 市 辯護人 平山 文次

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

國家總動員法ト飼料配給統制法

○判決要旨

國家總動員法ト飼料配給統制法トハ普通法ト特別法ト關係ニ非ス

【參照】 國家總動員法第一條 本法ニ於テ國家總動員トハ戰時(戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同シ)ニ際シ國防目的達成ノ爲國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル様人的及物的資源ヲ統制運用スルヲ謂フ

同第二條 本法ニ於テ總動員物資トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 (省略)

二 國家總動員上必要ナル被服、食糧、飲料及飼料

同第三條 本法ニ於テ總動員業務トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 總動員物資ノ生産、修理、配給、輸出、輸入又ハ保管ニ關スル業務

同第十九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ價格、運送賃、保管料、保險料、貸貸料又ハ加工賃ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

同第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ

罰金ニ處ス

國家總動員法ト飼料配給統制法

省略

一 二 三 四 五

六 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
昭和十三年勅令第三百十五號 國家總動員法ハ昭和十三年五月五日ヨリ之ヲ施行ス

價格等統制令第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ南洋群島ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同シ)第十九條ノ規定ニ基キ價格運送賃保管料損害保險料賃貸料又ハ加工賃(以下價格等ト稱ス)ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スハ別ニ定ムルモヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

同第六條 價格等ハ第二條乃至第四條ノ規定ニ拘ラズ他ノ法令ニ定ムル額又ハ他ノ法令ニ基ク行政官廳ノ決定命令許可認可其ノ他ノ處分アリタル額ヲ超エテ之ヲ契約シ支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ本令施行後ノ處分ハ處分實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際第二條第一項但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ
前項ノ他ノ法令ハ關令ヲ以テ之ヲ定ム

同附則第十七條 本令ハ昭和十四年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年十月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

價格等統制令施行規則第十一條統制令第六條第二項ノ規定ニ依リ法令ヲ定ムルコト左ノ如シ

(省略)

飼料配給統制法

同附則第一項 本令ハ昭和十四年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス

飼料配給統制法第一條 政府ハ飼料ノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲テ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ適當ト認ムル者ニ對シ飼料ノ配給統制上必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ事業ヲ行フ者ノ監督其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
同第二條 政府ハ飼料ノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲前條第一項ノ規定ニ依リ配給統制ニ關シ特ニ必要アリト認ムルトキハ同條ニ定ムルモノノ外飼料若ハ命令ヲ以テ定ムル飼料ニ用ヒ得ル物ノ輸出入又ハ飼料ノ販賣若ハ使用ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

同第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
二 第二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

同附則第二項 本法ハ施行後五年間ヲ限リ其ノ效力ヲ有ス
昭和十三年勅令第六百七十九號 飼料配給統制法ハ昭和十三年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

飼料販賣取締規則第六條 配給飼料又ハ配合飼料ニ非ザル飼料ニシテ農林大臣
國家總動員法ト飼料配給統制法

ノ指定スルモノ(以下指定飼料ト稱ス)ノ販賣ヲ爲ス者ハ何等ノ名義ヲ以テスル
ヲ問ハズ農林大臣又ハ地方長官ノ指定スル販賣價格ヲ超ユル對價ヲ以テ當該
飼料ヲ販賣スルコトヲ得ズ
前條第二項ノ規定ハ配合飼料又ハ指定飼料ニ付其ノ販賣ヲ爲ス者ニ之ヲ準用
ス

同附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ事業ヲ爲ス飼料製造業者又ハ其ノ事業ヲ承繼シタル者ハ本
令施行ノ日ヨリ二十日ヲ限リ第一條第三條及第五條ノ規定ニ拘ラス其ノ製造
ニ係ル配合飼料ヲ販賣スルコトヲ得

前項ノ者前項ノ期間内ニ第一條又ハ第三條ノ規定ニ依リ農林大臣ノ承認ヲ申
請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル承認又ハ不承認ノ處分ノ日迄亦前項ニ
同シ

飼料製造業者ハ前二項ノ規定ニ依リ販賣スル配給飼料ニ付テハ第八條ノ規定
ニ拘ラス證票ヲ添附セザルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ配合飼料若ハ指定飼料ノ製造ヲ爲ス飼料製造業者又ハ本令
施行ノ際現ニ配合飼料若ハ指定飼料ヲ取扱フ飼料販賣業者ニ付テハ第十及條
第十一條中事業開始ノ日ヨリ一月内トアルハ之ヲ本令施行ノ日ヨリ一月内ト
ス

昭和十四年十月十九日農林省告示第三百七十四號 飼料販賣取締規則第六條ノ

規定ニ依リ同條ノ指定飼料並ニ指定飼料及配合飼料ノ販賣價格左ノ通指定シ
昭和十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

一(省略)

二 配合飼料ノ販賣價格

(一) 卸賣商カ小賣商若ハ産業組合ニ販賣スル場合又ハ産業組合聯合會カ産
業組合ニ賣渡ス場合ノ販賣價格

配合飼料製造業者カ飼料販賣取締規則第三條ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケタ
ル販賣價格(飼料配給株式會社ノ配給ニ係ルモノニ在リテハ其ノ會社ノ販
賣價格)ニ運賃諸掛ノ實費及左ノ金額ヲ加算シタル價格

正味六〇疋(一〇〇斤) 八錢

以上一包裝ニ付

正味六〇疋(一〇〇斤) 五錢

未滿一包裝ニ付

(二) 小賣商又ハ産業組合ノ販賣價格

配合飼料製造業者カ飼料販賣取締規則第三條ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケタ
ル販賣價格(飼料配給株式會社ノ配給ニ係ルモノニ在リテハ其ノ會社ノ販
賣價格)ニ運賃諸掛ノ實費及左ノ金額ヲ加算シタル價格

正味六〇疋(一〇〇斤) 二十五錢

以上一包裝ニ付

國家總動員法下飼料配給統制法

正味六〇疋(一〇〇斤) 十六錢
未滿一包裝ニ付

(以下省略)

二〇二 (三)

○事實

第二審ハ左ノ如ク事實ヲ認定シ法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三月ニ處スル旨判決ヲ爲シタリ
被告人ハ大阪市住吉區天神ノ森一丁目十七番地ニ於テ飼料商ヲ營ムモノナルトコロ昭和十五年一月二十六日頃
ヨリ同年三月二十三日頃迄ノ間犯意ヲ繼續シテ四十數回ニ互リ右店舗ニ於テ牛乳搾取業花畑淺次郎外二十五名
ニ對シ法定ノ除外事由ナキニ拘ラス農林大臣ノ指定飼料タル大阪製粉工場等内地製粉工場製麵五十斤白布袋入
五十斤俵入及六十斤俵入合計二千六百八十八包裝ヲ同大臣ノ指定シタル小賣販賣價格ヲ夫々超過シ其ノ額合計約
六千二百九十五圓ニ達スル代金合計約一萬三千五百八十一圓ニテ販賣シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ國家總動員法第十九條第三十三條價格等統制令第六條同令施行規則第十一條
飼料配給統制法第二條飼料販賣取締規則第六條昭和十四年十月十九日農林省告示第三百七十四號刑法第五十五
條ニ該當スルト共ニ飼料配給統制法第二條第四條第二號飼料販賣取締規則第六條昭和十四年十月十九日農林省
告示第三百七十四號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ國家總動員
法違反ノ罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三月ニ處スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人平山文次上告趣意書第一點原判決ハ本件事案ニ對シ「國家總動員法第十九條第三十三條
價格等統制令第六條同令施行規則第十一條」ヲモ適用シ刑法第五十四條第一項前段ニ從ヒ重キ
懲役刑ヲ選擇シ處斷セラレタル違法アリ、原判決ニ於テ認定セラレタル事實ハ被告人カ「昭
和十五年一月二十六日頃ヨリ同年三月二十五日迄……農林大臣ノ指定飼料タル……穀……ヲ同
大臣ノ指定シタル小賣販賣價格ヲ夫々超過シ……販賣シタルモノナリ」トノ趣旨ナルカ故ニ飼
料配給統制法上ノ直系法令ノ違反タルコトハ素ヨリ當然ナルモ此ノ場合ニ國家總動員法及價格
等統制令同令施行規則等ハ適用スヘキモノニ非スト思料ス(1)國家總動員法ハ昭和十三年四
月一日發布セラレ同年五月五日ヨリ施行セラレ價格等統制令ハ昭和十四年十月十八日勅令發セ
ラレ同年十月二十日ヨリ施行セラレ價格等統制令施行規則ハ同年十月十九日閣令ヲ以テ發セラ
レ同年十月二十日ヨリ施行セラレタリ(2)飼料配給統制法ハ昭和十三年三月二十九日公布セラレ同
年十月十五日ヨリ施行セラル飼料販賣取締規則ハ昭和十四年十月十九日農林省令ヲ以テ發セラ
レ飼料販賣取締規則第六條ノ規定ニ依リ同條ノ指定飼料並ニ指定飼料及配合飼料ノ販賣價格指
定ハ昭和十四年十月十九日農林省ノ告示アリ同年十一月一日ヨリ施行セラレタリ右(1)(2)
ノ法令ヲ比照スルニ(イ)價格等統制令ハ同令第一條ニ明示シアル如ク「國家總動員法第十九

條ニ基キ」發令セラレ居ルモノナルニ反シ飼料販賣取締規則ハ其ノ制定セラレタル表規ニ記載ノ如ク「飼料配給統制法第二條及第三條ニ基キ」發セラレ又本件ノ數ニ對スル指定飼料及販賣價格ハ指定表記ニ示シアル如ク「飼料販賣取締規則第六條ニ依リ」告示セラレ居ルモノナリ

(ロ) 國家總動員法ト飼料配給統制法トノ兩法律ハ僅カ二日ヲ隔テ發布セラレ其ノ各委任命令ナル價格等統制令ト飼料販賣取締規則及指定飼料並價格トハ之亦一日ノ差ヲ以テ發令或ハ告示セラレタリ右(イ)(ロ)ノ法令系統及發令ノ過程ヲ熟視スルトキハ此ノ二個ノ法令ハ各獨立シ居リテ相互ハ相容レス混同セシメサル使命ヲ負ヒテ成立スル單行法令ナリト謂ハサルヘカラス今度ノ事變ニ際會シテ國防目的達成ノ爲メ發セラレタル此ノ種ノ法律ヲ分別スレハ國家總動員法ハ基本法即チ普通法ニシテ飼料配給統制法ハ特別法ナリ凡ソ「諸物品」ト「飼料」トノ支配法令ノ根源ニ付足取ヲ辿ルトキハ兩者肩ヲ並ヘ並行シツツ發足シ終局ニ至ル迄二ツノ線ヲ歩ミ來タリ飼料ニ對シテハ毫モ國家總動員法ニ依存スル處ナシ此ノ有様ヲ見ルトキハ正ニ法ノ精神ハ飼料ニ付テハ諸物品ヨリ殊更ニ除外シタル取扱ヲ爲サントスル真意ノ存在スルコトヲ看取セサルヲ得ス故ニ飼料ニ對シテハ法律カ當初ヨリ國家總動員法ヨリ切離シタル適用ヲセント欲シ居ルモノナルコトヲ知ルニ足ルニ、凡ソ法理上ニ於テ(イ)想像的競合犯ト(ロ)法條ノ競合犯トハ全然別異ノ觀念テアリ其ノ法條競合犯中ニモ(A)純然タル法條競合ト(B)通法ト特

法トノ競合モ亦區別セサルヘカラス茲ニ強調セントスル骨子ハ右(B)ノ通法ト特法トノ關係ニシテ一法條カ他ノ法條ノ特別規定トナリ居ル場合ノ點ナリ斯ル場合ニハ「特法ハ通法ニ優ル」トノ定説ニ從ヒ決定セラルヘキモノナルカ故ニ飼料ニ付テハ前敍ノ如ク通法ナル國家總動員法ニ從ハス特法ノ飼料配給統制法ノミニ準據シテ律セサルヘカラサルモノト信ス三、現ニ輸出品等ニ關スル臨時措置法カ昭和十二年九月十日發布セラレテヨリ後ニ國家總動員法カ昭和十三年五月五日ヨリ施行セラレタルニ拘ラス其ノ後價格等統制令施行迄ノ間ニ於ケル販賣價格違反ニ付テハ當辯護人ノ知ル範圍ニ於ケル一般ノ裁判例ハ唯輸出入品等ニ關スル臨時措置法ノミヲ適用セラレ處斷セラレ居リタルコト顯著ナリ若シ本件ノ如ク純然タル法條競合ノ理論ヲ適用シ得ヘキモノトスレハ國家總動員法ノ施行ヨリ價格等統制令施行迄ニ於ケル價格違反ノ行爲ニ對シテモ法條競合ノ理論ヲ以テ右臨時措置法ト國家總動員法トヲ併用シ重キニ從ヒテ罪ヲ問フコト可能ナリシモノト考ヘ得ヘカリシニ其ノ適用ナカリシハ通法ト特法トノ法則ヨリ出發シテ氷解シ得タルコトモ一ツノ理由トセラレ居リシモノト信セララル此ノ觀念ハ本件事犯ノ擬律ニ付テモ引用シ得ルモノト思料ス四、右事例ト趣ヲ異ニシタル方面ヨリ考究スルニ(1)價格等統制令第六條及同施行規則第十一條ニ於テ飼料ノ價格ニ付テモ共通セシメアルモ夫レハ價格其ノモノノ條件或ハ内容ニ付テ共通セシメ得ル部分ノミニ對シ反覆錯雜ヲ避クル爲メ便宜上規定シタル

ニ止マリ刑罪規定其ノモノ迄ヲモ共通セシムル精神ニ非ス殊ニ國家總動員法第十九條ノ委任命令ナル右價格等統制令及同施行規則ヲ以テシテハ苟モ法律ノ形式ヲ以テ制定セラレ居ル飼料配給統制法第四條ノ刑罪規定ヲモ共通セシムル能ハス斯ク分解シテ精密ニ審議シ來タルトキハ價格等統制令規定ノ目的トスル處ト其ノ違反ニ對スル刑罪規定トハ自ラ嚴格ニ區別セサルヘカラス(2)諸物品ト飼料トノ價格違反ニ對スル刑罪規定ヲ對照スルニ國家總動員法第三十三條ニハ三年以下ノ懲役刑アリ飼料配給統制法第四條ニハ體刑ナク唯五千圓以下ノ罰金刑ヲ定メアルニ過キス此ノ二ツノ法律ハ殆ント同一時ニ公布セラレ居リナカラ法カ當初ヨリ重キニ從ヒ處斷スル精神ナリセハ斯ノ如ク對立セシメ獨立シテ定ムルノ必要ナシ(3)尙ホ右第三項ニ述ヘタルト反對ニ若シ價格等統制令ノ如キ種ノ命令ヲ發セラルル前ニ於テ先ツ飼料ニ付テ價格命令ノ發動アリタル場合ヲ假定シ其ノ違反ニ付テモ國家總動員法第三十三條ノ適用ヲ爲シ得ヘカリシ結論ニ到達シ得ヘク見ユルモ斯ル理ナキハ多言ヲ要セス唯偶々諸物品ト飼料トノ價格カ同時ニ發セラレ價格等統制令ニ於テ關聯スル處アリトノ故ノミヲ以テ直チニ其ノ違反科刑ヲモ競合適用セムトスルハ理論ノ一貫ヲ缺クモノト思料ス五、斯様ニ諸物品ト飼料トハ尠クモ價格及科刑ノ點ニ付キ互ニ對立シ各基本法ハ當初ヨリ同様ナル時期ニ於テ生レ併行出發シ居ル點ニ鑑ミ通法ト特法トノ關係ニアルモノト謂ハサルヘカラス此ノ畫然タル區別ヲナシ制定セラレタル所以

ハ飼料ナル物ハ人類其ノモノニ給食セシムルモノニ非ス人類ノ食料トナリ得ル部分ヲ採取シタル殘骸ニシテ動物或ハ鳥類ノ食用ニ供スルモノニテ第二次的ノ物資ナルカ故ニ自ラ格差ヲ設ケ其ノ取扱ニ對シ彼是法ノ適用ヲ異ニシ輕重ヲ定メルコトハ觀念上ニ於テモ矛盾ナキモノト思料セラル以上ノ理由ニ依リ本件事犯ニ對シテハ飼料配給統制法ノミヲ適用シ同法第二條第四條第二號ニ從ヒ罰金五千圓以下ノ刑ヲ科シ得ルニ止マルモノナルニ原審判決ハ此ノ適用ヲ誤リタル違法アリト云フニ在リ

仍テ案スルニ飼料配給統制法ハ昭和十三年三月三十日公布同年十月十五日ヨリ施行セラレ同法第二條及第三條ニ基ク農林省令飼料販賣取締規則ハ昭和十四年十月十九日公布即日施行セラレ同規則第六條ニ基ク指定飼料並指定飼料及配合飼料ノ販賣價格ハ昭和十四年十月十九日農林省告示ヲ以テ爲サレ同年十一月一日ヨリ實施セラレタリ又國家總動員法ハ昭和十三年四月一日公布同年五月五日ヨリ施行セラレ同法第十九條ニ基ク勅令價格等統制令ハ昭和十四年十月十八日公布同年二十日ヨリ施行セラレ閣令價格等統制令施行規則ハ同年十月十九日公布同年二十日ヨリ施行セラレタルモノニシテ國家總動員法ハ飼料配給統制法ニ遅ルルコト僅ニ二日ニシテ公布ヲ見且前記ノ如ク其ノ法源ヲ異ニスル各命令ノ間ニ在リテモ公布施行ニ於テ日時ヲ同シクスルモノアリ是ニ由リ見ルモ後法ヲ以テ前法ヲ改廢スルノ關係ニアラサルコト明白ニシテ即チ飼料

配給統制法ト國家總動員法トハ併存スルモノナルコト多言ヲ要セス元來國家總動員法ハ戰爭又ハ之ニ準スヘキ事變ニ際シ國防目的達成ノ爲メ國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル様人的及物的資源ヲ統制運用センカ爲メ國家總動員ノ實施並準備ニ付抽象且普遍的ニ其ノ基本原則ヲ定メ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國民生活ノ凡有ル部門ニ互リ規律スルモノニシテ法ノ目標タル國防目的達成ノ爲ニ國家ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル主旨ニ於テ人的及物的資源ヲ統制運用センコトヲ期ス本件飼料モ亦總動員物資ニ屬スルモ國家總動員法カ其ノ配給價格等ニ付統制スル所以ハ蓋シ上敍ノ趣旨ニ外ナラサルナリ翻テ飼料配給統制法ヲ觀ルニ同法ハ五年間ヲ限り效力ヲ有シ其ノ間飼料ノ國內配給ヲ統制シテ需給ノ圓滑價格ノ公正ヲ圖ルヲ以テ目標トス而モ之カ制定ノ事情ヲ考察スルニ日滿兩國ノ協調ニ依リ飼料ニ關シ相互扶助ノ實現ヲ企圖シ滿洲國五個年計畫ニ呼應シタルトコロアリ同法ノ目的カ那邊ニ存スルカヲ推知シ得ヘクシテ國家總動員ノ目的ヲ包有セサルナリ斯ノ如クニシテ國家總動員法ト飼料配給統制法トハ各其ノ企圖スルトコロ異ニシ各其ノ目的ヲ異ニスル兩法律ニ各依存スル前記法令ト共ニ各別ニ法的系統ヲ形成スルヲ以テ兩者ハ所論ノ如ク普通法ト特別法タルノ關係アルニアラス嚴トシテ併立シ各其ノ法的效力ハ相觸レ相侵スコトナシ果シテ然ラハ判示被告人ノ行爲ハ判示ノ如ク一面ニ於テハ國家總動員法ニ他面ニ於テハ飼料配給統制法ノ違反トナリ所謂一所爲數罪名

【要旨】

ニ觸ルルモノナレハ原判決カ判示法條ニ間擬處斷シタルハ正當ニシテ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事黒川涉關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和十五年(九)第一三七〇號
同十六年四月二日第三刑事部判決) 棄却

【上告人】 被告人 清水徳太郎 辯護人

八並武
米村嘉一
赤井幸一
石川定忠
松川吉義
外一名

【第一審】 山形地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

郵便爲替ニ依ル金員ノ返還ト追徴

○判決要旨

選舉運動ノ經費及報酬トシテ選舉運動者ニ供與スヘキ金員ノ
交付ヲ受ケタル者力之ヲ郵便爲替ニ取組ミ爲替券ヲ交付者ニ

郵便爲替ニ依ル金員ノ返還ト追徴

返送シタル以上未タ其ノ拂渡ヲ受ケサルモ右ノ金員ハ既ニ返
還セラレタルモノトシ追徴スルヲ相當トス

【参照】衆議院議員選舉法第十二條第一項 左ノ各號ニ掲クル行為ヲ爲シタル
者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
同條第五號 第一號乃至第三號ニ掲クル行為ヲ爲サシムル目的ヲ以テ選舉運動
者ニ對シ金錢若ハ物品ノ交付、交付ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ選舉運動者其ノ
交付ヲ受ケ若ハ要求シ若ハ其ノ申込ヲ承諾シタルトキ
同第百十四條 前三條ノ場合ニ於テ收受シ又ハ交付ヲ受ケタル利益ハ之ヲ沒收
ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金千圓ニ處ス右罰金ヲ完納スル
コト能ハサルトキハ金十圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス及被告人ヨリ金三
十圓ヲ追徴ス(訴訟費用負擔省略)ル旨判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十二年四月十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ山形縣第二選舉區ヨリ民政黨公認候補者
トシテ立候補シ同年四月九日其ノ届出ヲ爲シ選舉ノ結果當選シタルモノナルトコロ該選舉ニ付自己ノ當選ヲ得
ル目的ヲ以テ犯意ヲ繼續シテ

第一 (一) 昭和十二年四月十八日山形縣鶴岡市高畑町戊十八番地矢板大安方ニ於テ同人ニ對シ自己ノ爲演說

ニ依ル選舉運動方ヲ依頼シ其ノ經費及報酬トシテ金三十圓ヲ供與シ

(二) 同日同所ニ於テ同人ニ三井泉太郎ニ對スル前同様ノ運動方ノ依頼ヲ請託シ三井泉太郎ニ供與スヘキ前
同様趣旨ノ金三十圓ヲ交付シ

第二 (一) 同年同月二十日肩書被告人居室ニ於テ齊藤金吾ニ對シ自己ノ爲選舉運動方ヲ依頼シ其ノ經費及報
酬トシテ金百圓ヲ供與シ

(二) 同日同所ニ於テ同人ニ長谷川傳左衛門、伊藤健吉、皆川建藏ニ對スル前同様ノ運動方ノ依頼ヲ請託シ
前同様趣旨ノ下ニ長谷川傳左衛門ニ金百圓ヲ伊藤健吉、皆川建藏ニ各五十圓宛ヲ供與スヘク合計金二百圓
ヲ交付シ

(三) 同月二十一日東京市下谷區上野驛前山形館ニ於テ齊藤金吾ニ對シ自己ノ爲選舉運動方ヲ依頼シ其ノ經
費及報酬トシテ金百圓ヲ供與シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第一ノ(一)及第二ノ(一)(三)ノ金錢供與ヲ爲シタル點ハ衆議院議員選舉
法第百十二條第一項第一號ニ第一ノ(二)及第二ノ(二)ノ金錢交付ヲ爲シタル點ハ同法第百十二條第一項第
五號ニ夫々該當スルトコロ以上ハ連續犯ナルヲ以テ刑法第五十五條ニ依リ之ヲ一罪トシ所定刑中罰金刑ヲ選擇
シ被告人ヲ罰金千圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金十圓ヲ一日ニ換算シタ
ル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク矢板大安方交付ヲ受ケタル判示第一ノ(二)ノ金三十圓ハ被告人ニ返還セ
ラレ而モ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ右選舉法第百十四條後段ニ則リ被告人ヨリ其ノ價額ヲ追徴スヘク訴
訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

郵便爲替ニ依ル金員ノ返還ト追徴

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人鈴木義男同石川忠義上告趣意書第四點原判決ハ被告人清水ヨリ金三十圓ヲ追徴スル旨言渡シ其ノ理由トシテ被告人カ矢板大安ヨリ判示第一ノ(二)ノ金三十圓ノ返還ヲ受ケタル旨説明シタリ併シ乍ラ原判決ノ引用スル證據ヲ閱スルニ矢板大安カ四月二十七日金十圓及二十圓ノ爲替ヲ組ミ被告人清水ノ自宅ヘ送り返シタル旨ノ供述記載及被告人清水ノ第二回豫審訊問調書中「……自分ハ五月上旬(昭和十二年)矢板大安ヨリ寄越シタル手紙ヲ見タルカ其ノ内金二十圓及十圓ノ爲替ニテ金三十圓同封シアリタリ手紙ノ内容ハ判然記憶セサル旨ノ記載」トノ部分ヲ引用説明シアルノミニシテ被告人清水カ右小爲替ノ拂戻ヲ受ケタル旨ノ證據ハ一モアルコトナシ抑々衆議院議員選舉法第百十四條ハ「……交付ヲ受ケタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス」ト規定シ本來ハ被交付者タル矢板ヨリ追徴スヘキモノナルモ其ノ利益カ交付者タル被告人ニ返還セラレタル場合ニ限り其ノ利益ヲ保有セシメサル趣旨ヲ以テ交付者タル被告人ヨリ追徴スヘキモノトス從テ右小爲替券ノ送付ヲ受クルモ被告人カ現金ノ拂戻ヲ受ケサル以上ハ利益ヲ保有スト謂ヒ得サル筋合ナリト思料ス然ラハ小爲替券ノ拂戻ヲ受ケタル事實ヲ確定セスシテ被告人清水ニ追徴ヲ命シタル原判決ハ理由不

備ノ違法アリテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在リ

【要旨】

然レドモ郵便爲替券ハ金員送付ノ用ニ供セラルルモノニシテ爲替券ノ送付ハ普通其ノ額面金額ニ相當スル金員送付ト同様ニ取扱ハルルモノナレハ矢板大安ガ原判示第一(二)ノ選舉運動ノ經費及報酬金三十圓ヲ被告人ニ返還スル爲之ヲ郵便爲替ニ取組ミ該爲替券ヲ被告人ニ送付シ被告人ニ於テ之ガ受領ヲ爲シタル以上原判決ガ所論摘録ノ如キ趣旨ノ説明ヲ爲シタルハ相當ナリト謂フベク從ツテ其ノ說示スルガ如キ理由ノ下ニ被告人ヨリ金三十圓ノ追徴ヲ命シタル原判決ニハ所論ノ如キ違法アリト稱シ難キヲ以テ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

上敘説明ノ如クナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事田口環關與

○國家總動員法違反被告事件 (昭和十六年(九)第二四九號 棄却)

(同年五月五日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 岡田彌兵衛 辯護人 多田 克

【第一審】 神戸區裁判所 【第二審】 神戸地方裁判所

○判示事項

物品販賣價格取締規則第一條ニ依ル商工大臣ノ年月日ノ指定ト地方長官ノ販賣價格ノ指定

○判決要旨

物品販賣價格取締規則第一條ニ依リ商工大臣力年月日ヲ指定シタル物品ニ付其ノ後地方長官販賣價格ヲ指定シタル場合ニ於テハ其ノ販賣價格ハ後者ニ據ルヘキモノトス

【參照】 物品販賣價格取締規則(昭和十三年商工省令第五十六號)第一條 商工大臣ノ指定スル物品ヲ販賣スル者ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ其ノ指定ノ際 商工大臣ノ指定スル年月日ニ於ケル販賣價格ヲ商工大臣又ハ地方長官が販賣

價格ヲ指定シタルトキハ其ノ販賣價格ヲ超ユル對價ヲ以テ當該物品ヲ販賣(指定前ニ爲シタル契約ニ依ル引渡ヲ含ム)スルコトヲ得ズ但シ輸出スル場合取引所ニ於テ販賣スル場合已ムヲ得ザル事由ニ依リ卸賣ニ付テハ商工大臣、小賣ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金五千圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ二百日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ肩書住居ニ於テ瓦斯熔接業ヲ營ムモノナルトコロ昭和十四年十一月一日頃ヨリ同十五年一月六日頃迄ノ間前後三回ニ互リ神戸市林田區高松町一番地カーバイト商三益石油合資會社(代表者間人文雄)ニ於テ同會社トカーバイト組合A印級二百二十二罐(一罐二・五珎入)ヲ孰レモ昭和十四年兵庫縣告示第七百五號ヲ以テ指定セラレタルカーバイトノ小賣價格ヲ超エ代金合計金三千二百九十六圓七十錢(右超過總額金二千四百五十七圓五十四錢)ニテ買受契約シ其ノ頃該代金ノ支拂ヲ爲シタルモノニシテ右ハ犯意繼續ニ係ルモノトス 法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ國家總動員法第十九條價格等統制令第七條第二十一條物品販賣價格取締規則第一條昭和十四年兵庫縣告示第七百五號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ國家總動員法第三十三條第六號ニ依リ處斷シ同條所定刑中罰金ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五千圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ被告人ヲ二百日間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

物品販賣價格取締規則第一條ニ依ル商工大臣ノ年月日ノ指定ト地方長官ノ販賣價格ノ指定

本件上告ハ之ヲ棄却ス

二一八 (六四)

○理由

辯護人多田克上告趣意書原判決(控訴審)ハ被告人ノ判示所爲ニ付國家總動員法第十九條價格等統制令第七條第二十一條物品販賣價格取締規則第一條昭和十四年兵庫縣告示第七百五號等ヲ適用セラレタルカ本事案ニ付テハ前記昭和十四年兵庫縣告示第七百五號ヲ適用スヘカラサルモノナルニ拘ラス之カ適用アリタルハ違法ニシテ本件ハ無罪ナリト信ス一、凡ソ國家總動員法ニ基ク價格等統制令(昭和十四年勅令第七百三號)及同施行規則(昭和十四年閣令第十三號)並其ノ後六回ニ互ル改正令)ニ依ル價格ノ統制ニハ左ノ四ノ場合アリ(イ)法令ニ依ル額(統制令第六條同施行規則第十一條)(ロ)公定額(統制令第七條第二十一條)(ハ)指定期日(九・一八)價格(統制令第二條第三條第四條第二十條)(ニ)例外規定(統制令第十二條第十三條施行規則第十五條)二、抑々國家總動員法ハ價格等統制令(勅令)ヲ以テ定ムル價格ニ違反シタル場合ニハ所定ノ罰則ヲ適用スヘキ旨ヲ定メ右勅令ハ價格等統制令施行規則(閣令)ニ依リ價格ノ規定ハ主務大臣カ原則トシテ之ヲ定ムルコト例外トシテハ右定ヲ主務大臣カ地方長官ニ委任スルコトヲ得ル旨ヲ明ニセリ同時ニ右閣令ニ依リ物品販賣價格取締規則ヲ廢止シ將來價格ノ依テ定ムル方法ヲ明示セリ尤モ同取締規則第一條ニ依ル價格ノ定ヲ以テ國家總動員法ニ依ル

定ト看ルヘキ例外ヲ明ニセリ即チ該取締規則ハ商工大臣又ハ地方長官ノ額ノ指定ハ結局國家總動員法ニ基クモノナル旨ヲ明ニセリ三、本事案ハ前記一ノ(ハ)指定期日價格ノ一事例タル他ノ法令ニ依ル指定年月日價格(所謂舊年月日指定ノ價格)ニ依ルヘキモノニシテ即チ價格等統制令第二十條ニ依リ昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條ニ基ク「物品販賣價格取締規則ニ依リ物品及年月日指定」(昭和十三年商工省告示第二百八號)並其ノ後十四回ニ互ル改正)第七十七號ノ規定ヲ適用シ本件カーバイトノ買受カ昭和十四年三月三十一日指定期日ノ價格ニ違反セルヤ否ヤヲ審理シ之カ有罪ナリヤ否ヤヲ決スヘキモノニシテ價格等統制令第二十一條ニ依リ地方長官ノ爲シタル販賣價格ノ指定カ相當行政官廳ノ爲シタル價格ノ額ノ指定ト看做サルヘキ所謂看做公定價格(前記(ロ)公定額ノ一事例)ノ規定タル昭和十四年兵庫縣告示第七百五號ヲ適用シ之カ有罪ナリヤ否ヤヲ決スヘキモノニ非ス(イ)凡ソ物品販賣價格取締規則第一條ニ依ル販賣價格ノ定メ方ニ左ノ三方法アリA、商工大臣指定年月日價格統制令第二十條ニ於テハ昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依ル商工大臣ノ指定シタル日ニ於ケル販賣價格ハ統制令第二條ノ指定期日ニ於ケル額ト看做サルモノナルコトヲ明ニシ從テ「物品販賣價格取締規則ニ依リ物品及年月日指定」(昭和十三年商工省告示第二百八號(第七十七號)昭和十四年四月實施)ニ依リカーバイトハ昭和十四年三月三十

物品販賣價格取締規則第一條ニ依ル商工大臣ノ年月日ノ指定ト地方長官ノ販賣價格ノ指定

二一九

(六五)

一日ニ於ケル額ヲ超ヘテ之ヲ契約シ支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得サルモノナリ(物品販賣價格取締規則第一條價格等統制令第二條) B、商工大臣販賣價格指定統制令第二十一條ハ商工大臣ノ爲シタル販賣價格指定ハ第七條第一項ノ規定ニ依リ相當ノ行政官廳ノ爲シタル價格ノ額ノ指定ト看做サルモノナルコトヲ明ニシ從テ昭和十四年五月一日商工省告示第一百一號ヲ以テカーバイトノ製造業者ノ販賣價格及卸賣價格ニ付テハ之カ販賣價格ノ額ノ定ヲ爲シタルヲ以テ右額ヲ超ヘテ之ヲ契約シ支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得サルモノナリ(物品販賣價格取締規則第一條價格等統制令第七條第一項)尤モカーバイトノ小賣價格ニ付テハ前記商工省告示ハ之カ額ノ定ヲ爲ササリシヲ以テ此ノ小賣價格ニ付テハ前記商工省令第二百八號ヲ適用スヘキモノナリC、地方長官販賣價格指定統制令第二十一條ハ地方長官ノ爲シタル販賣價格指定ハ第七條第一項ノ規定ニ依リ相當ノ行政官廳ノ爲シタル價格ノ額ノ指定ト看做サルモノナルコトヲ明ニシ從テ昭和十四年八月十五日兵庫縣告示第七百五號ヲ以テカーバイトノ地方卸賣業者卸賣價格及小賣販賣價格ヲ定メタリ(本告示ハ不合法ニシテ且本事案ニ付テハ本告示ノ適用ナキコト後述ノ如シ)四、本事案ニハ昭和十三年商工省告示第二百八號ヲ適用スヘシトスル理由(イ)前記三者ハ一事例(例ハ本事案)ニ付テハ何レカ其ノ一ヲ適用スヘキモノニシテ右三者併合シテ其ノ適用ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ物品販賣價格取締規則第一條ハ其ノ明文ニ於テ「又…」ト規

定シ「竝ニ…」ト規定セサルニ依リテ明ニシテ法規ノ推理上他ニ解釋スルヲ得サルヲ以テナリ仍テ右ノCハB又ハAカ無キ場合ニ有效ニシテ本事案ニハAノ法規カ效力ヲ有スルヲ以テCノ效力生セス即チ本事案ニ付テハ前記省令カ現存スル以上縣令ノ適用ノ餘地ナシ此ノ解釋ハ價格等統制令施行規則(閣令)第十二條ノ「統制令第七條ノ規定ニ依ル額ノ規定ハ主務大臣之ヲ爲スモノトス但シ主務大臣ニ於テ地方長官カ額ノ指定ヲ爲スヘキ旨ヲ定メタルモノニ付テハ地方長官額ノ指定ヲ爲スモノトス」トアル通り額ノ規定ハ主務大臣之ヲ爲スモノナル旨ノ大原則ト一致ス或ハ說ヲ爲シテ右取締規則第一條中ニ「地方長官カ販賣價格ヲ指定シタルトキハ」トノ規定アルヲ以テ該省令ヲ以テ額ノ定ヲ地方長官ニ委任シタルモノナリト解スルヲ得ヘキカ如キモ本事案ノ適用ノ範圍ニ於テハ法規ノ曲解ナリト斷セサルヲ得ス即チ右文句ヲ以テ前記施行規則第十二條ノ但書タル「主務大臣ニ於テ地方長官カ額ノ指定ヲ爲スヘキ旨定タルモノ」ト云フコトヲ得サルハ法文ノ通讀解釋上當然ニシテ又但書タル例外規定ハ嚴格ニ解スヘキコト論ナカレヘシ(ロ)物品販賣價格取締規則第一條中「其ノ指定ノ際商工大臣ノ指定スル年月日ニ於ケル販賣價格ヲ超ユル對價ヲ以テ…」ノ規定ハ本事案發生當時タル昭和十五年一月ニ於テモ其ノ效力ヲ有シ從テ「物品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依ル物品及年月日指定ノ件」(商工省告示)ハ有效ナリ何トナレハ右商工省告示ハ取締規則第一條ニ依ル價格ノ指定ノ一ナルヲ以

物品販賣價格取締規則第一條ニ依ル商工大臣ノ年月日ノ指定ト地方長官ノ販賣價格ノ指定

テナリ前記解釋ヲ正當トスル側面ノ證明トシテ物品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依ル物品及年月日指定ノ件(商工省告示)ハ昭和十四年十月九日商工省告示第二百六十八號改正追加セラレ亦同月十一日商工省告示第二百七十一號改正追加セラレ前記兵庫縣告示第七百五號ノ販賣價格ノ指定ハ昭和十四年八月十五日ニシテ此ノ時期ニ於テモ前記商工省告示ハ現存シ同告示第七十七號ハ改廢シ居ラサルコトヲ示スモノナリ(ハ)前述ノ通り右商工省告示カ現行セラルル以外ニ府縣令(府縣告示)ヲ以テ省令(商工省告示)ヲ變更スルヲ得ス此レハ各法令ノ適用上ノ優劣ニ付動カシ得サル原則ニシテ解釋上自明ノ理ナリ即チ省令ト縣令トカ競合シ矛盾スルトキハ當然省令ヲ適用スヘキモノナリ本事案ニ付テハ右省令カ廢止セラレサル限り省令ヲ適用シ絕對ニ縣令ヲ適用スルヲ得サルモノナリ(ニ)本事案ニ付商工省告示ヲ適用セシテ縣告示ヲ適用スヘシト爲ス論者ノ根據ハ「後法ハ前法ニ優ル」ノ原則ノ適用上當然ナリト爲スモノノ如キモ右原則ハ同一順位ノ法令ノ竝行スル場合ノ理論ニシテ本事案ノ如キ省令縣令ノ競合ノ場合ニハ適用スヘカラサルコト明ナリ例ヘハ勅令ト閣令ト竝行スル場合ハ例令閣令カ勅令ヨリ後ニ實施セラルルモ勅令ノミ有效ナルコト論ナカルヘシ尤モ舊年月日指定ノ價格(昭和十三年商工省告示第二百八號)ハカーバイトノ卸小賣一切ノ販賣價格ヲ規定シ昭和十四年商工省告示第一號ハ製造業者ノ販賣價格及卸賣價格ヲ規定セルヲ以テ右價格(小賣價格ヲ含マス)ノ範圍ニ

於テハ右商工省告示第二百八號ハ廢止セラレ居ルモ小賣價格ニ付テハ右商工省告示第二百八號ハ現行セラル即チ該商工省告示ハ小賣價格ノ範圍ニ於テハ明示的ニモ默示的ニモ廢止セラレス却ツテ前述ノ通り其ノ後改正追加シ補強セラレ居ルヲ見テモ明瞭ナリ(ホ)又論ヲ爲シ物品販賣價格取締規則第一條ハ商工大臣又ハ地方長官カ販賣價格ノ指定ヲ爲スコトヲ得ルモノナリトノ旨規定セルヲ以テ其ノ何レノ行政官廳ニ於テモカーバイトノ小賣價格ヲ指定スルヲ得ルモノナリトノ論據ヲ以テ原審ノ判決ヲ維持セントス然レトモ右取締規則(商工省令)ハ販賣價格ノ指定ハ商工大臣(商工省告示)又ハ地方長官(府縣告示)カ之ヲ爲スコトヲ得ル旨明示スルニ止リ一旦發布セラレタル省令(商工省告示第二百八號)ヲ縣令(昭和十四年兵庫縣告示第七百五號)ヲ以テ改正スルコトヲ得ル旨規定シタルモノニ非ス發布セラレタル以上省令ハ省令ニシテ府縣令ニ非サルコト論ナシ本件ニ付テハ省告示ヲ以テカーバイトノ小賣價格ヲ設ケナカラ更ニ右省令ト矛盾セル縣令ヲ發布スルモ有效ナラサルコト明瞭ナリ若シ原審ノ如キ法規ノ適用ヲ爲サントセハ右省令ヲ廢止シ且別ニ省令ヲ發布シカーバイトノ小賣價格ハ府縣令ヲ以テ定ムヘキ旨明文ヲ以テ發布實施セサルヘカラサルモノトス(ヘ)更ニ論ヲ爲スモノアリカーバイトノ小賣價格ニ付テハ舊年月日指定ノ價格(昭和十三年商工省告示第二百八號)ノ定アリト雖モ物品販賣價格取締規則第一條(昭和十三年商工省令第五十六號)ニ於テ地方長官カ販賣價格

物品販賣價格取締規則第一條ニ依ル商工大臣ノ年月日ノ指定ト地方長官ノ販賣價格ノ指定

ヲ指定シ得ル旨規定セルヲ以テ右規定ニ基キ昭和十四年兵庫縣告示第七百五號カカーバイトノ小賣販賣價格ヲ定メタルハ統制令第二十一條ニ依リ相當行政官廳ノ爲シタル價格ノ額ノ指定ナリト云フ右ハ縣令ヲ以テ商工省令ヲ改廢スルコトヲ得ルモノトノ前提ノ下ニ地方長官ノ販賣價格ノ指定ハ商工大臣ノ年月日指定ノ價格ヲ廢除シタルモノトノ論據ニ基クモノナルカ單ナル獨斷ニシテ其ノ論據ヲ正當化スル何者モナシ(ト)假リニ前述ノ通りノ辯護人ノ論據ニ反シ縣令ヲ以テ省令(昭和十三年商工省令第五十六號)ヲ改廢スルコトヲ得ルモノトスルモ兵庫縣告示第七百五號ハ告示ノ成立ソノモノカ違法ナリ何トナレハ右昭和十四年八月十五日兵庫縣告示第七百五號ハ地方卸賣業者卸賣價格ヲ定メタルカ既ニ昭和十四年五月一日商工省告示第百一號ハ「カーバイトノ販賣價格指定ノ件」トシテ製造業者又ハ其ノ代理店ノ販賣價額及卸賣價格ヲ定メ居ルモノニシテ地方卸賣業者ノ卸賣價格ハ商工省告示ニ云フ卸賣價格ノ一ナリ從テ省令ヲ以テ其ノ一部ノ改廢ヲ縣令ニ委任シタル告示ハ公示セラレタルコト嘗テナキモノナルヲ以テ縣令カ省令ト矛盾スル事項ヲ定メタルモノニシテ該縣令ノ成立ハ違法ナリ原審神戸地方裁判所ノ他ノ同種事案ノ判決ニ於テハ昭和十四年七月二十七日京都府告示第五百二十號ハ地方卸賣業者ノ卸賣價格ヲ定メサルヲ以テ(昭和十四年五月十九日滋賀縣告示第二百六十六號モ京都府ト同様ナリ)京都市ニ於テカーバイトノ地方卸賣價格ノ違反ニ對シテハ前記商工省告示第百一號ヲ適

用シ居ラルルヲ見テモ地方卸賣業者ノ卸賣價格モ卸賣價格ノ一種ナリ兵庫縣ニ於ケルト京都府又ハ滋賀縣ニ於ケルト商工省告示第百一號ノ解釋ヲ二分スルコトヲ得サルコトハ法規ノ解釋上當然ナリ若シ此ノ場合縣令ヲ有效ニセントスルニハ省令ヲ以テカーバイトノ卸賣價格ノ中地方卸賣業者ノ卸賣價格ハ府縣令ヲ以テ定ムヘキ旨公示セサルヘカラス右ノ通り兵庫縣告示第七百五號カ全體トシテ不適法ナルカ小賣價格ノミニ付テ云フモ該小賣價格ハ地方卸賣業者ノ卸賣價格ヲ基礎トシテ算定セラレタルニヨリ見テモ論ナキナリト云フニ在リ

然レトモ物品販賣價格取締規則第一條ニ依リ商工大臣ノ指定シタル物品ノ販賣價格ハ(一)商工大臣カ年月日ヲ指定シタル場合ニハ其ノ日ニ於ケル價格(二)商工大臣又ハ地方長官カ販賣價格ヲ指定シタル場合ニハ其ノ價格タルヘキコトヲ定ムルカ故ニ同規則第一條ニ基キ商工大臣カ一定ノ物品ニ付年月日ヲ指定シタル場合ニ於テモ右指定ハ適正販賣價格指定ニ至ル迄ノ暫定の便宜措置タルニ止マルヲ以テ同大臣又ハ地方長官ニ於テ同規則第一條ニ基キ當該物品ニ付更メテ販賣價格ヲ指定スルヲ得ヘク之カ指定アリタル場合ニ於テハ當該物品ノ販賣價格ハ曩ニ指定セラレタル年月日ニ於ケルモノニ非スシテ後ニ商工大臣又ハ地方長官ノ指定シタル販賣價格タルヘキモノナルコト當然ナリトス而シテカーバイトニ付テハ商工大臣ハ物品販賣價格取締規則第一條ニ基キ昭和十四年四月四日商工省告示第七十三號ヲ以テ年月日ヲ昭和十四年三月三十

【要旨】

物品販賣價格取締規則第一條ニ依ル商工大臣ノ年月日ノ指定ト地方長官ノ販賣價格ノ指定

一日ト指定シ更ニ同年五月一日同省告示第百一號ヲ以テカーバイトノ製造業又ハ其ノ代理店ノ販賣價格及卸賣價格ニ付夫々販賣價格ヲ指定シタルモノナルトコロ兵庫縣ニ於テハ同縣知事ハ右取締規則第一條ニ依リ昭和十四年六月三日同縣告示第四百八十六號ヲ以テカーバイトノ最終小賣ノ販賣價格ヲ指定シ同年八月十五日同縣告示第七百五號ヲ以テ右告示第四百八十六號ヲ改正シ地方卸賣業者卸賣價格並小賣販賣價格ヲ夫々指定シタルモノナルカ故ニ兵庫縣ニ於ケルカーバイトノ小賣販賣價格ハ當然右縣告示ニ依ルヘク昭和十四年商工省告示第七十三號指定ノ年月日ニ於ケルモノニ準據スヘキ筋合ニアラサルコト敍上説明ニ徴シ極メテ明白ニシテ右兵庫縣告示ノ成立自體何等違法ナルノ理由ナシトス而シテ價格等統制令附則第二十一條ニ依リ物品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニヨリ地方長官ノ爲シタル販賣價格ノ指定ハ右統制令第七條第一項ノ規定ニ依リ相當行政官廳ノ爲シタル價格ノ額ノ指定ト看做サルルカ故ニ前記兵庫縣告示第七百五號指定ノ小賣販賣價格ハ右統制令第七條第一項ノ指定額ト看做サレ隨テ判示カーバイト小賣買ノ所爲ニ對シテハ右縣告示ニ依リ其ノ販賣價格ヲ律スヘキコト當然ナリト謂フヘク原判決カ判示事實ヲ認定シ之ニ對シ判示法條ヲ適用シタルハ洵ニ相當ナリトス論旨理由ナシ右ノ理由ナルニヨリ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事瀧川秀雄關與

○國家總動員法違反輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル
法律違反被告事件

(昭和十六年(九)第二七七號
同年五月八日第一刑事部判決 破毀差戻)

【上告人】 被告人 國代 隆 辯護人 安藝 茂 富

【第一審】 岡山區裁判所 【第二審】 岡山地方裁判所

○判示事項

昭和十三年七月二十一日商工省令第六十二號ノ效力

○判決要旨

昭和十三年七月二十一日商工省令第六十二號ハ同年七月二十八日限り其ノ效力ヲ失ヒ爾後ノ行爲ニ之ヲ適用セラルヘキモノニ非ス

【參照】昭和十三年六月二十九日商工省令第三十八號 綿絲綿織物又ハ綿莫大小ニ付テハ昭和十三年六月二十九日ヨリ同年七月二十八日ニ至ル期間染、晒、裁斷其ノ他ノ加工ヲ爲スコトヲ得ズ但シ輸出品(關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ輸出スルモノヲ除ク以下同シ)輸出品ノ原料若ハ材料ニ用フルモノ又ハ綿製品ノ製造制限ニ關スル件第一項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ製造シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ綿絲、綿織物及綿莫大小ニハステールフアイバーヲ混用シタルモノヲ含ム

同年七月二十一日同省令第六十二號 綿絲、綿織物又ハ綿莫大小ニシテ別表ニ掲ケサルモノハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限り綿製品ノ販賣制限ニ關スル件又ハ綿製品ノ加工制限ニ關スル件ニ依ル制限ニ拘ラズ之ヲ販賣シ又ハ之ニ加工ヲ爲スコトヲ得

前項ノ綿絲、綿織物及綿莫大小ニハステールフアイバーヲ混用シタルモノヲ含ム(別表省略)

同年七月二十九日同省令第七十號 別表ニ掲グル綿絲、綿織物又ハ綿莫大小ニ付染、晒、裁斷其ノ他ノ加工ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル綿絲、綿織物又ハ綿莫大小ヲ加工スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 輸出品(關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ輸出スルモノヲ除ク以下同シ)

二 輸出品ノ原料又ハ材料ニ用フルモノ

三 綿製品ノ製造制限ニ關スル件第一項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ製造シタルモノ

四 輸出綿製品配給統制規則第二條但書、第三條但書、第四條但書、第六條但書又ハ第八條但書ノ許可ヲ受ケタルモノ

前項ノ綿絲、綿織物及綿莫大小ニハステールフアイバーヲ混用シタルモノヲ含ム(別表省略)

○ 事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三月及罰金千圓ニ處スル旨判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和八年末頃ヨリ肩書住居地ニ於テ綿布織物問屋兼學生服加工業ヲ營ミ居タルカ絲ノ配給ヲ受クル關係ヨリ昭和十五年三月一日合名會社國代被服工場ヲ設立シ同所千二百三番地ニ本店ヲ置キ爾來同會社ノ代表社員トシテ其ノ儘業務ニ從事シ居ルモノナルトコロ

第一 昭和十四年八月中頃ヨリ同年九月末頃迄ノ間被告人方ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケステ純綿絲二十番手單絲ヲ用ヒテ製造シタル一反幅三十六吋長五十碼ノ廣幅物小倉服地ベタ雲齋七十八反ヲ裁斷縫合シテ小學生用學生服千七百六十八着ヲ製造シ以テ之カ加工ヲ爲シ

第二一(一)(イ)昭和十五年一月二十三日被告人方ニ於テ岡山縣兒島郡灘崎村大字宗津織物製造業三井三二ヨリ同人カ製造シタルステールフアイバー規格製品セル第一號三十九反ヲ一反ニ付生産者販賣價格

昭和十三年七月二十一日商工省令第六十二號ノ效力

三十一圓十錢ヲ超エ三十一圓三十錢代金合計千二百二十圓七十錢(超過額七圓八十錢)ニテ買受契約ヲ爲シ

(ロ) 同年二月二十四日頃被告人方ニ於テ岡山縣兒島郡灘崎村大字追川織物製造業平田松十郎ヨリ同人カ製造シタルステープルファイバー規格品四綾第二號十反ヲ一反ニ付生産者販賣價格十三圓四十五錢ヲ超エ三十八圓四十錢代金合計三百八十四圓(超過額二百四十九圓五十錢)ニテ買受契約ヲ爲シ孰レモ其ノ頃之カ引渡ヲ受ケ代金ヲ支拂ヒ

(二) 同年同月二十六日頃被告人方ニ於テ岡山市西大寺町加工業佐々木金七ニ對シ前掲(ロ)平田松十郎ヨリ買受ケタル四綾第二號十反ヲ一反ニ付卸賣業者販賣價格十四圓ヲ超エ四十圓代金合計四百圓(超過額二百六十圓)ニテ賣渡契約ヲ爲シ其ノ頃之カ引渡ヲ爲シ代金ヲ受領シ

二 前記合名會社國代被服工場ノ業務ニ關シ

(一)(イ) 昭和十五年三月二十四日右會社本店ニ於テ岡山縣兒島郡琴浦町大字上村原反ブローカー西村淺次郎ヨリ同人カ他ヨリ買受ケタルステープルファイバー規格製品細綾第一號百六十二反ヲ一反ニ付卸賣業者販賣價格九圓八十五錢ヲ超エ三十三圓九十二錢代金合計五千四百九十五圓四錢(超過額三千八百九十九圓三十四錢)ニテ

(ロ) 同年五月三日右會社本店ニ於テ同縣同郡味野町原反ブローカー石井金子ヨリ同人カ他ヨリ買受ケタルステープルファイバー規格製品細綾第一號五百反ヲ一反ニ付卸賣業者販賣價格九圓八十五錢ヲ超エ二十一圓代金合計一萬五百圓(超過額五千五百七十五圓)ニテ

(ハ) 同年同月十一日右會社本店ニ於テ前掲(一)(ロ)掲記ノ平田松十郎ヨリ同人カ製造シタルス

テープルファイバー規格製品四綾第二號二十反ヲ一反ニ付生産者販賣價格十三圓四十五錢ヲ超エ三十八圓四十錢代金合計七百六十八圓(超過額四百九十九圓)ニテ

(ニ) 同年六月四日頃右會社本店ニ於テ前掲(一)(イ)掲記三井三三ヨリ同人カ製造シタルステープルファイバー規格製品雲齋第三號(四綾雲齋)四十一反ヲ一反ニ付生産者販賣價格三十二圓九十五錢ヲ超エ七十圓二十錢代金合計二千八百七十八圓二十錢(超過額千五百二十七圓二十五錢)ニテ

買受契約ヲ爲シ其ノ頃之カ引渡ヲ受ケ代金ヲ支拂ヒ

(二) 昭和十五年六月五日頃右會社本店ニ於テ岡山縣兒島郡莊内村大字用吉原反ブローカー藤原佐七ニ對シ前掲(一)(イ)(ロ)掲記三井三三ヨリ買受ケタル雲齋第三號(四綾雲齋)四十一反ヲ一反ニ付卸賣業者販賣價格三十四圓二十五錢ヲ超エ七十八圓三十錢代金合計三千二百十圓三十錢(超過額千八百六圓五錢)ニテ賣渡契約ヲ爲シ即日之カ引渡ヲ爲シ代金ヲ受領シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲中判示第一ノ所爲ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條第五條昭和十三年七月二十一日商工省令第六十二號綿製品ノ販賣並ニ加工ノ制限ニ關スル兩省令ノ制限ニ拘ラス販賣シ又ハ加工ヲ爲スコトヲ得ルノ件ニ判示第二事實ノ一、二ノ各所爲ハ國家總動員法第十九條第三十三條第六號價格等統制令第七條第二條昭和十四年十二月二十七日商工省告示第三百七十八號價格等統制令第七條ノ規定ニ依リステープルファイバー製品ノ販賣價格指定ニ關スル刑法第五十五條ニ該當スルトコロ第一ノ罪ニ付テハ有期懲役刑ヲ選擇シ第二ノ罪ニ付テハ國家總動員法第三十五條ニ依リ情狀懲役及罰金ヲ併科シ併合罪ナルヲ以テ刑法第四十七條第十條ニ則リ重キ後者ノ刑ニ付定メタル有期懲役刑ニ同法第四十七條但書ノ制限内ニ於テ法定ノ加重ヲ爲シ其ノ刑期及罰金額範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三月及罰金千圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサ

ルトキハ同法第十八條ニ則リ罰金額八圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

本件ヲ岡山地方裁判所ニ差戻ス

○理 由

辯護人安藝茂富上告趣意書第一原判決ハ既ニ消滅ニ歸シタル法令ヲ適用シテ有罪ノ判決ヲ爲シタル違法アリ其ノ理由左ノ如シ(一)原判決ノ確定シタル所ニ依レハ其ノ第一犯罪事實ハ被告人カ地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ他人カ純綿絲二十番手單絲ヲ用キテ製造シタル(原判決ニ依レハ一見被告人カ自ラ製造シタルモノト認メタルカ如キ嫌ナキニアラサルモ然ラスシテ現ニ他人(依田正志)ノ製造ニ係リ原判決モ亦他人ノ製造シタルモノト認定シタルモノナルコトハ行文ノ趣旨原判決ノ法律ノ適用ニ徴シ又訴訟記録上極メテ明白ナリトス)廣幅物小倉服地ベタ雲齊七十八反ニ加工シタリト云フニ在リテ此ノ織物カ昭和十三年七月二十一日商工省令第六十二號並同年七月二十九日商工省令第七十號ノ各別表ニ掲クル織物(右兩省令ノ別表ニ掲クル織物ハ全然同一品種ノ物ナリトス)ニ該當セサル爾餘ノ織物(業者此ノ種ノ織物ヲ雜綿布ト稱ス)ナルコトハ原判決ノ確定セル所ナリ此ノ點ハ原判決カ辯護人ノ所論ヲ反駁シタル條下ノ説明ニ

徴シ將又原判決ノ法律適用ニ於テ前記商工省令第七十號ノ違反ナリトセス同省令第六十二號ノ別表ニ掲ケサル織物ニ對スル無許可加工ノ行爲ナリトシ即チ同省令ノ違反ナリト認メ居レルニ徴シ明確一點ノ疑ヲ容レズ(二)茲ニ於テ右商工省令第六十二號ハ其ノ加工ニ關スル限りニ於テモ現ニ存續スルモノナリヤ將又辯護人所論ノ如ク加工制限ノ基本法トモ云フヘキ昭和十三年六月二十九日商工省令第三十八號カ其ノ有効期間即チ同省令ノ自ラ示セル同年六月二十九日ヨリ同年七月二十八日ニ至ル迄ノ一箇月ノ期間滿了ト同時ニ同年七月二十九日ニ於テ其ノ效力ヲ失シ之ト共ニ右省令第六十二號モ亦其ノ加工ニ關スル限り自ラ消滅ニ歸シタルモノナリヤ否ヤノ問題ヲ生ス當辯護人ハ右省令第六十二號カ其ノ加工ニ關スル限り自ラ消滅シタルコトハ明白ナリト信スレトモ原判決ハ反對ノ見解ヲ持セルヲ以テ一言之ヲ釋明セントス抑モ綿製品非常管理令ト稱セラルル省令中昭和十三年六月二十九日商工省令第三十七號綿製品ノ製造制限ニ關スル件同日同省令第三十九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ニ於テハ豫メ該省令ノ存續期間ヲ定メスト雖モ獨リ同日同省令第三十八號綿製品ノ加工制限ニ關スル件ニ在リテハ昭和十三年六月二十九日ヨリ同年七月二十八日ニ至ル期間染、晒、裁斷其ノ他ノ加工ヲ爲スコトヲ得スト規定シ加工制限ノ期間即チ此ノ省令ノ有効期間ヲ一箇月間ト限定セリ之レ右加工ニ關スル省令ヲ發布スルニ至リタルハ當時綿製品ノ現在ストックニ付今後之ヲ最モ適切ナル用途ニ振向ケシメンカ爲

メ一時綿製品ノ加工ヲ停止シ其ノ數量ノ調査ヲ行ハシメンカ爲メナリシヲ以テ其ノ制限ニ一定ノ期間ヲ定メタルモノナリトス然ルニ其ノ調査モ略完了シタルヲ以テ綿製品ノ性質上農山漁村或ハ勞働者向ノモノハ之ヲ買上ケテ配給ヲ爲スト共ニ以上ノ用途ニ不適當ナルモノニ付テハ一定標準ニ依リ需給ノ實情ニ應シ地方長官ノ許可ヲ得テ加工(販賣ノ點ハ姑ク舍ク)セシムルヲ適當トシ換言スレハ前記省令第三十八號ニ依リテハ一般的ニ加工ヲ制限セラレ居ルモ或種ノ綿製品ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ條件トシ加工制限ノ緩和ヲ圖ランカ爲メ前記省令第六十二號ノ發布ヲ見ルニ至リタルモノナルコトハ同省令ノ發布ニ先ツコト一日其ノ筋ノ發セラレタル通牒(附錄第一號昭和十三年七月二十日一三調整第一〇六號臨時物資調整局次長通牒寫參照)ニ徵シ明ナルノミナラス同省令ノ明文ニ徵スルモ別表ニ掲ケサルモノハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限り綿製品ノ販賣制限ニ關スル件又加工制限ニ關スル件ニ依ル制限ニ拘ラス之ヲ販賣又ハ加工ヲ爲スコトヲ得ト規定セルニ依リ極テ明瞭ナリトス更ニ詳言スレハ一般的ニ綿製品ノ加工ヲ制限セル前記省令第三十八號ノ效力ノ一部ヲ同省令第六十二號ニ依リテ排除シ其ノ別表ニ掲ケサルモノニ付テハ地方長官ノ許可ヲ條件トシテ加工ヲ認容スヘキ旨ヲ規定シタルモノトス即チ加工制限ノ規定ハ獨リ前記省令第三十八號ニシテ前記省令第六十二號ハ右制限ヲ緩和スル旨ノ規定ニ外ナラズ然レハ省令第三十八號ノ有効期間ノ終期七月二十八日ヲ過キタル以上加工

制限ハ一般ニ解除セラレ又緩和規定タル省令第六十二號ノ加工ニ關スル點ノ存續スヘキ餘地アルヘキニアラス然ラハ昭和十三年七月二十八日ノ經過ト共ニ綿製品ノ加工ニ關シ何等法令ノ發布ナシトスレハ綿製品ノ加工ハ全然無制限トナルヘキ所當時ノ綿製需給ノ情勢ニ照ラシ尙或ル程度加工ヲ制限スルノ必要アリトシテ昭和十三年七月二十九日商工省令第七十號ヲ發布セラレタルモノニシテ同省令ノ外ニ加工制限ノ法令一モ存セサルコト極テ明瞭ナリトス(3)前記商工省令第三十八號ト云ヒ又同省令第六十二號ト第七十號ト云ヒ何レモ昭和十二年九月十日法律第九十二號輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律ノ委任ニ因リ輸出入ノ制限其ノ他ノ事由ニ因ル物資需給關係調整ノ必要上行政官廳ノ發シタル命令ナルヲ以テ該命令ノ旨趣ハ當該行政廳若クハ該命令施行ノ衝ニ當レル其ノ下級行政官廳ノ最モ通曉セル所ナリトス而シテ商工省令第六十二號施行ニ關シ其ノ筋ノ表明セラレタル所ハ附錄第一號昭和十三年七月二十日一三調整第一〇六號臨時物資調整局次長通牒ノ如クナルノミナラス右省令第七十號施行ニ關シテハ更ニ曩ニ發令相成タル綿製品ノ加工制限ニ關スル件ニ依ル加工ノ制限ハ來ル七月二十九日ヲ以テ解除セラレルコトト相成居候處商工省令第六十二號別表ニ掲ケラレタルモノニ付テハ所期ノ目的達成上之ヲ加工ニ付制限ヲ設クル要アルヲ以テ今般別紙ノ通り商工省令第七十號ヲ發令スルコトト相成候ニ付テハ云々トノ通牒(附錄第二號昭和十三年七月二十八日一三調整第一四二號臨

時物資調整局次長通牒參照)ヲ發セラレ以テ昭和十三年七月二十九日以後ニ在リテハ加工制限ニ付テハ右商工省令第七十號ノ法令ノミ存スルコトヲ明ニシタルノミナラス尙業者其ノ他ニ誤解ヲ懷ク者アルヲ虞レタル爲カ岡山縣ニ於テハ同年七月二十八日附岡山縣經濟部長同縣警察部長連名縣内市町村長警察署長ニ宛テ商第三〇七二號通牒ヲ以テ商工省令第六十二號全文ノ解釋ト題シ綿製品ノ販賣制限令又ハ加工制限令ノ制限ノミニ付適用スルモノトス從ツテ加工制限令(當辯護人ハ此ノ加工制限令トハ省令第三十八號ヲ指スモノト思料ス)ノ廢止サレタル場合ハ省令第六十二號中ノ加工ニ關スル事項ハ自然消滅トナルト示達セリ(附錄第三號岡山縣公報第三千四百六十九號參照)由之觀是此等省令ヲ發布シタル商工省ニ於テモ又省令施行ノ衝ニ當レル岡山縣ニ於テモ右商工省令第六十二號ノ加工ニ關スル事項ハ昭和十三年七月二十九日ヲ以テ消滅ニ歸シタルモノトセルコト寸毫ノ疑ヲ容レズ若シ夫レ岡山縣屬佐藤某カ原審ニ於テ證人トシテ右省令ノ別表ニ掲ケサル織物即チ雜綿布ニ付テモ現ニ省令第六十二號ニ依リ加工許可ノ手續ヲ爲サシメ居レリト證言シタリト雖モ這ハ有リ得ヘカラサル事實ヲ供述シタルカ否ラサレハ省令ノ解釋ヲ誤リ且ツ上司タル經濟部長等ノ訓示ニ基キ徒ニ業者ニ對シ法令上必要トセサル許可手續ヲ強ユルノ不當行爲ヲ敢テ爲シ居レリト云フニ歸シ之レアルカ爲ニ右省令ノ效力ニ關スル解釋ニ毫末ノ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス斯ク論シ來レハ右商工省令第六十二號ノ加工ニ

關スル事項ハ昭和十三年七月二十九日ヲ以テ全然消滅シタルモノニシテ本件被告人ノ加工シタルベタ雲齊カ省令第六十二號第七十號ノ別表ニ掲ケタルモノニアラサルコトハ原判決ノ確定シタル所ナルヲ以テ右被告人ノ行爲ハ省令第七十號ニ觸レサルハ勿論既ニ消滅ニ歸シタル省令第六十二號ノ加工ニ關スル事項ニ觸ルルノ理由ナク其ノ他何等ノ犯罪ヲモ構成セサルヲ以テ原判決ヲ破毀シ速ニ無罪ノ御判決アランコトヲ切望スト云フニ在リ

仍テ按スルニ近代の機械工業トシテ急激ナル進步發展ヲ遂ケタル我綿紡工業モ其ノ原料ヲ輸入ニ仰クノ情勢ニ在リタルトコロ今次ノ支那事變勃發ト共ニ政府ハ國民經濟ノ運行ヲ確保スルノ必要上棉花其ノ他織物ノ原料タルヘキ物資ノ輸入ニ制限ヲ加ヘタル結果其ノ需給關係ニ變動ヲ來シ在來ノ自由主義的運行ニ放任スルコト能ハサリシヨリ其ノ調整ヲ圖ルカ爲ニ一般纖維工業ノ設備ニ許可制ヲ採用シ又綿製品ノ製造販賣等ニ制限ヲ設クルト共ニ其ノ加工ニ關シテモ昭和十三年六月二十九日商工省令第三十八號ヲ以テ綿絲綿織物又ハ綿莫大小ニ付染、晒、裁斷其ノ他ノ加工ヲ爲スコトヲ禁止スル旨規定シ即日之カ施行ヲ爲シタリ然レトモ右加工制限ニ關スル規定ハ製造販賣ニ關スル制限等ト異リ現在品數量ノ調査適切ナル用途ヘノ振向等ニ在リシヲ以テ國民經濟ノ運行ニ關聯ヲ有スルコト左程ニ重大ナラサリシヨリ其ノ期間ヲ一月即チ同年七月二十八日迄ト限定シ其ノ間ニ之カ調整ヲ爲サント企畫シタルモノニシテ從テ該省令第三十八號

ハ當初ヨリ一月ノ期限附ニシテ該期限ノ到來ト共ニ其ノ效力ヲ失墜スヘカリシ運命ニ置カレタルモノナリ然ルトコロ其ノ後ニ於ケル社會情勢ノ推移ハ一律ニ一月間之ヲ禁止ヲ斷行繼續スルコトノ不可能ナル事情ヲ生シ遂ニ同年七月二十一日商工省令第六十二號ヲ以テ特ニ別表ニ掲ケタル指定品ヲ除キ所謂雜綿布類ノ如キハ地方長官ノ許可ヲ得タル場合ニ限り之ヲ加工ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ規定シ該期間中ナリシニ拘ラス一部特例ヲ設ケテ緩和シ其ノ運行ヲ圓滑ナラシメタリ而シテ該省令第六十二號ハ斯ル事情ニ適應シテ發布セラレタルモノナルカ故ニ固ヨリ其ノ基本法タル前記第三十八號ト運命ヲ共ニシ該省令所定ノ期限到來ニ基ク失効ト同時ニ其ノ效力ヲ失フニ至ルヘキコト必然ノ結果ニシテ即チ加工ニ關スル限リニ於テ全部本來ノ自由制度ニ還元セラレ緩和規定ノ如キハ其ノ必要ヲ見サルコト寧ロ自然ノ趨勢タリシナリ

【要旨】

庶莫爾後之ヲ全然從來ノ自由主義的運行ニ放置シ如何ナル綿絲、綿織物、綿莫大小ニ付テモ各人其ノ欲スルカ儘ニ其ノ欲スル物ヲ欲スル量ニ於テ加工シ得ヘシト爲スハ初期ノ目的ニ照シ尙未タ需給關係ノ調整ヲ全カラシムル所以ニ非サリシヲ以テ昭和十三年七月二十九日即チ右期限ノ到來ト同時ニ商工省令第七十號ヲ發布シ以テ特ニ別表ニ指定シタル物ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ條件トシテ其ノ加工ヲ爲シ得ヘキコトトシ此ノ點ニ關シ許可制ヲ採用シ尙一部ノ制限ヲ設置シタリ而モ別表ニ掲ケタル物件ハ右第六十二號別表ノ物件ト全然同一ニシテ此ノ點ヨリ考察

スルモ其ノ以外ノ所謂雜綿布類ノ如キハ加工ニ關スル限リニ於テ其ノ制限ハ撤廢セラレ本來ノ自由加工制ニ委ネラレタルコト寧ロ甚炳焉タルニ過キ敢テ多言ヲ要セサルナリ果シテ然ラハ前記商工省令第七十號ノミカ其ノ效力ヲ有シ同省令第六十二號ハ同第三十八號ト共ニ既ニ其ノ效力ヲ失ヒタルモノニシテ原判決ハ判示第一事實ニ對シ此ノ銷失シタル法令ヲ適用シタル違法アルモノト謂ハサルヲ得ス

然レトモ翻テ判示第一事實ヲ詮議スレハ原審ハ判示期間被告人カ純綿絲二十番手單絲ヲ用ヒテ製造シタル一反幅三十六吋長五十碼ノ廣幅物小倉服地ベタ雲齊七十八反ニ裁斷縫合シテ小學生用學生服ヲ製造シタル旨說示シタリ而シテ昭和十三年商工省令第七十號別表ニ依レハ二十五番手以下ノ單絲ヲ用ヒタル綿織物ニシテ廣幅物太綾(雲齊)小倉織等ハ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ漫ニ加工スルコト能ハサル旨ヲ規定スルカ故ニ原判決認定ニ係ル所謂小倉服地ベタ雲齊ハ該法令別表掲記ノ物件ト異ナリ許可ヲ要セサルモノナリヤ未タ原判決說示ヲ以テシテハ之ヲ揣摩スルコト困難ナリ原判文中所論ノ如ク雜綿布ト思推セラルル敘事ナキニ非サルモ是レ固ヨリ原審カ證據ニ依據シテ確定シタル事實ニ非サルナリ從テ判示第一事實ハ法律上罪トナラサルモノトシテ直ニ無罪ノ宣告ヲ爲シ難ク或ハ前記商工省令第七十號ニ該當スル犯罪ヲ構成スルヤモ計リ知ルヘカラス原判決ハ此ノ點ニ於テ其ノ理由ヲ具備セサル違法アルモノト謂フヘク論

旨結局理由アルニ歸シ他ノ上告論旨ニ對スル判斷ヲ須ツ迄モナク原判決ヲ破毀スルヲ相當トス
然レトモ本院自ラ事實ノ審理ヲ爲スハ適當ナラスト認ムルカ故ニ刑事訴訟法第四百四十八條ノ
二ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與佐次郎關與

○國家總動員法違反被告事件(昭和十六年(れ)第二八三號
同年五月九日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 (有限責任高岡購買利用組合
藤森信一) 辯護人 沼田勇三郎

【第一審】 高岡區裁判所 【第二審】 富山地方裁判所

○ 判 示 事 項

價格等統制令第七條違反ノ罪ト不法領得ノ意思

○ 判 決 要 旨

價格等統制令第七條違反ノ罪ハ行爲者カ行政官廳ノ指定シタル販賣價格ヲ超過スル代金ヲ以テ指定物品ヲ販賣スルニ因リ直ニ成立シ其ノ取引ニ因リ利益ヲ自己ニ領得スルノ意思アル

價格等統制令第七條違反ノ罪ト不法領得ノ意思

コトヲ要セサルモノトス

【参照】 價格等統制令第七條 前條ニ規定スル場合ヲ除クノ外行政官廳閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等(有價證券ノ價格及貨貸料ヲ除ク以下同シ)ノ額ヲ指定シタルトキハ第二條乃至第四條ノ規定ニ拘ラズ其ノ額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ指定ハ指定實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際第二條第一項但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

○事實

第二審ハ左ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人等ヲ夫々後記ノ罰金ニ處シ罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置ノ言渡ヲ爲シタリ

被告人有限責任高岡購買利用組合(以下被告組合ト稱ス)ハ(一)組合員ノ經濟ニ必要ナル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セシテ組合員ニ賣却スルコト(二)組合員ヲシテ醫療ニ必要ナル設備ヲ利用セシムルコトヲ目的トシ昭和十一年二月十六日設立許可ヲ受ケ同年三月二十五日其ノ登記手續ヲ完了セル產業組合法ニ基キ設立シタル社團法人ニシテ肩書所在地ニ主タル事務所ヲ、高岡市片原町十二番地ニ從タル事務所ヲ有シ被告人藤森信一ハ被告組合ノ常務理事トシテ組合ノ日常ノ業務一切ヲ統轄處理シ居リタルトコロ

第一 富山縣ニ於テハ昭和十四年十一月十一日富山縣告示第五百五十六號ニヨリ同日ヨリ七分搗一等白米十四疋ノ小賣價格(需要者ヘノ持込價格)ハ金四圓二十五錢同二等白米ノ同上ハ金四圓十五錢ニシテ且一等白米

ト稱スルハ同縣農產物検査規則ニ依ル生産検査等級甲、乙、丙ノ玄米ヲ精白シタルモノニ等白米トハ同検査規則ニ依ル生産検査等級丁、格外ノ玄米ヲ精白シタルモノト指定シタルトコロ被告人藤森信一ハ被告組合ノ業務ニ關シ乙米四十石、丙米五百一十一石計五百五十一石ニ丁米五百二十四石一斗七升五合不合格米七十六石二斗計六百石三斗七升五合ヲ混合シテ七分搗ニ精白シタルモノヲ右組合ノ從タル事務所ニ於テ昭和十四年十一月十一日ヨリ昭和十五年七月二十五日迄ノ間數百回ニ互リ犯意繼續シテ右組合員タル高岡市定塚町角谷吉太郎外四百數十名ニ對シ行政官廳ノ許可ヲ受ケスシテ右七分搗一等白米ノ最高小賣價格ナル十四疋ニ付金四圓二十五錢ノ割合ニテ販賣シ

第二 被告組合ハ同組合ノ常務理事タル被告人藤森信一カ其ノ業務ニ關シ判示第一ノ如キ犯罪ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人藤森信一ノ判示所爲ハ國家總動員法第十九條價格等統制令第七條昭和十四年富山縣告示第五百五十六號國家總動員法第三十三條第六號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人藤森信一ヲ罰金六百圓ニ處シ被告人藤森信一ニ於テ罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ金五圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人藤森信一ヲ勞役場ニ留置シ被告組合ニ對シテハ國家總動員法第四十八條ニ則リ被告人藤森信一ニ對シ適用セル前各法條ニ依リ處斷スヘク所定罰金額ノ範圍内ニ於テ被告組合ヲ罰金四百圓ニ處スルモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

價格等統制令第七條違反ノ罪ト不法領得ノ意思

○理由

辯護人沼田勇三郎上告趣意書第五點一、國家總動員法第四十一條ニ於テ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セサルモノアルコトヲ規定スル外何等ノ除外的ノ明文ナキヲ以テ刑法第八條ニヨリ刑法總則ノ規定ヲ適用スヘキハ言フ俟タスサレハ罪ヲ犯スノ意ナキ行爲ハ之ヲ罰スヘキニ非ス被告藤森信一ハ毫モ罪ヲ犯スノ認識ナカリシモノナレハ違反罪ヲ構成スルコトナカルヘシ而モ物價統制令ニ基ツク公定價格違反罪ニ付テモ不法利得ノ意思ヲ必要トスルコトハ通説ナリ是レ竊盜罪ノ要件トシテ不法利得ノ意思ヲ必要トスルト一般ナリ竊盜罪ニ不法利得ノ意思ヲ必要トスルヲ以テ斯ル意思ノ存在セサル自動車自轉車ノ無斷使用ハ竊盜罪ヲ構成セス茲ニ於テ昭和十五年四月發表ノ刑法改正假案第四百二十二條ニハ特ニ一時使用罪ヲ罰スル規定ヲ爲シタルカ如キ本件ニ於テモ不法利得ノ意思アルコトヲ要件トスルコト分明ナリト謂フヘシ而シテ被告藤森信一ノ如キ有志ノ者カ奉仕的ニ組合事務ニ盡力シ組合ニ於テ事業上剩餘金ヲ生シタルトキハ購買者ニ對シ購買代金ニ比例シテ分配スル規定ニ對シテ毫モ利得ノ觀念ヲ有スルモノニ非スサレハ原判決ニ於テ價格等統制令ヲ適用處斷シタルコトハ擬律錯誤ノ不法ヲ免レスト云フニ在レトモ

【要旨】

價格等統制令第七條ニ違反スル罪ハ行爲者カ行政官廳閣令ノ定ムル所ニ依リ指定シタル販賣價格ヲ超過セル代金ヲ以テ指定物品ヲ販賣シタルトキハ直ニ成立シ其ノ取引ニ因ル利益ヲ自己ニ

領得スルノ意思アルコトヲ必要トセサルカ故ニ被告人カ富山縣告示第五百五十六號ニ依ル公定販賣價格ヲ超エテ七分搗二等白米ヲ販賣シタルコト判示ノ如クナル以上縱令被告人カ其ノ販賣ニ基ク利益ヲ自己ニ領得スルノ意思ヲ有セサリシコト所論ノ如シトスルモ犯罪ノ成立ヲ斷スルニハ何等妨ナキノミナラス原判決舉示ノ證據ニ依レハ判示犯罪事實ハ之ヲ認ムルニ證明十分ニシテ被告人ニ犯意アリシコトヲモ肯定スルニ足り記録ヲ查スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アルコトナシ從テ原審カ判示ノ如キ擬律ニ依リ被告人ヲ處斷シタルハ相當ナルヲ以テ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事遠藤常壽關與

○住居侵入被告事件 (昭和十六年(れ)第一六七號 棄却)

(同年五月十二日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 和田 等 辯護人 (大橋 保)

外二名

【第一審】 福井區裁判所 【第二審】 福井地方裁判所

○判示事項

自力救濟

○判決要旨

正當防衛緊急避難等法ノ認容シタル以外ニ自力救濟ハ之ヲ認メス

○事實

第二審判決ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人和田等同山本嘉一ヲ各懲役五月ニ同竹内武ヲ懲役四月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人和田等ハ其ノ賭博仲間ノ一人ニシテ多額ノ資産ヲ有スル森瀨三左衛門カ所謂詐欺賭博ニ依リ他人ヨリ金員ヲ騙取セントシテ切りニ其ノ相手方トナルヘキ者ヲ覓メ居レルヲ知リ被告人山本嘉一ト共謀ノ上表面上森瀨ノ味方トナルモノノ如ク装ヒ實際ニ於テハ偽計ヲ用キテ森瀨ヨリ金員ヲ騙取セントシテ畫策シ先ツ被告人和田等ニ於テ被告人竹内武ニ對シ右企圖ヲ打明ケ其ノ遂行ニ必要ナル資金ノ醸出ヲ求メテ其ノ承諾ヲ得次テ被告人

竹内金次郎、相模嘉内ノ兩名ヲモ之ニ加擔セシメ森瀨ニ對シテハ被告人和田等、山本嘉一、相模嘉内ノ三名森瀨ノ一味トナリ所謂詐欺賭博ニ依リ被告人竹内金次郎ヨリ金員ヲ騙取スルモノノ如ク装ヒ實際ニ於テハ偽計ヲ用キテ却テ森瀨ヨリ金員ヲ騙取セントシテ企圖シ昭和十四年八月二日被告人和田等、山本嘉一、竹内金次郎、相模嘉内ハ森瀨三左衛門ト共ニ石川縣江沼郡山代温泉玉屋旅館ニ赴キタルトコロ同所ニ於テ賭博開張前森瀨カ被告人山本嘉一ヨリ預リタル金八百圓被告人和田等ヨリ預リタル金五百圓ノ合計金千三百圓(被告人竹内武ノ醸出ニ係リ被告人等ノ前記詐欺遂行ニ使用スルコトトナリ居リタル資金ニシテ森瀨ニ於テハ自己カ多額ノ金員ヲ所持シ居ル如ク装フ手段トシテ被告人竹内金次郎ニ對スル見セ金等ニ使用スル爲メ和田及山本ヨリ預リタルモノ)ヲ拐帶シテ藉晦シタルヨリ被告人和田等、山本嘉一、竹内武、竹内金次郎ノ四名ハ森瀨ヨリ右金千三百圓ヲ取戻サント欲シ共謀ノ上同月三日午後九時乃至十時頃福井縣坂井郡兵庫村下兵庫九十五號二十番地ナル森瀨三左衛門方ニ赴キ戸外ヨリ接見ヲ求メタルトコロ既ニ戸締リヲ爲シ就寢中ナリシ同家家人ヨリ「主人三左衛門ハ未タ歸宅セサル故明日改メテ來訪セラレ度キ」旨ヲ以テ謝絶セラレタルニ不拘被告人山本嘉一、竹内金次郎ノ兩名ハ無斷ニテ施錠ナキ勝手口ノ戸ヲ引開ケテ同家屋内ニ押入り被告人和田等、竹内武ノ兩名ハ山本嘉一等カ擅ニ内部ヨリ開ケタル表入口ヨリ屋内ニ侵入シ更ニ被告人竹内武ハ森瀨三左衛門ノ妻ツねノ寢所ニ迄押入り以テ不法ニ他人ノ住居ニ侵入シタルモノナリ
法律ニ照スニ被告人和田等同山本嘉一同竹内武ノ判示所爲ハ夫々刑法第三百三十條第六十條ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ被告人和田等同山本嘉一ニハ前示前科アルヲ以テ夫々同法第五十六條第五十七條ニ則リ累犯加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ右各被告人ニ對シ夫々主文ノ刑ヲ量定處斷スヘキモノトス

○主 文

自力救濟

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

二四八

(五)

○理由

各被告人辯護人四方田保上告趣意書第一點凡ソ刑罰法ハ共同生活ノ條件ヲ規定シタル法規ニシテ國家ノ秩序ヲ維持スルヲ以テ唯一ノ目的トスルモノナリ而シテ右目的ヲ達センカ爲メニハ零細ナル反法行爲ハ犯人ニ危險性アリト認ムヘキ特殊ノ情況ノ下ニ決行セラレタルモノニアラサル限り共同生活上ノ觀念ニ於テ刑罰ノ制裁ノ下ニ法律ノ保護ヲ要求スヘキ法益ノ侵害ト認メサル以上之ニ臨ムニ刑罰ノ制裁ヲ加フルノ必要ナク立法ノ趣旨ヨリスルモ共同生活ニ危害ヲ及ボササル零細ナル不法行爲ハ之ヲ不問ニ付スルコトコソ立法ノ趣旨ニ合スルモノト云フヘシ(大審院明治四十三年十月十一日判決録一六輯一六二〇頁)今本件ヲ見ルニ上告人等ハ森瀨三左衛門ヨリ金一千三百圓ヲ騙取セラレタルヲ以テ大聖寺驛及山代驛ニテ埋伏セシ森瀨ヨリ之ヲ取戻サントシタルモ遂ニ同人ニ逃ケテ其ノ目的ヲ達セサリシヲ以テ森瀨方ニ赴キ其ノ妻ツねニ面接ノ上同人カ歸宅シ居ラサルコトヲ確メ一旦歸宅シタルモ上告人等ハ森瀨カ大聖寺署ニ留置セラレタリトノ事實ハ毫モ想像セサリシヲ以テ同人ハ必スヤ歸宅シタルヘシト同日再ヒ森瀨方ニ赴キタル所森瀨ノ妻ツねハ娘宮川千代子ノ證言ニ「答寢テ少時シテカラ午後十時頃カトモ思ヒマスカ表入口ノ戸ヲ叩イテ開ケテ吳レト呼ンテ居ル人カ何人モ居ル様テアリマシタ然シ私カ戸

ヲ開ケテ其ノ人達ト會フタ所テ仕方無イノテ私ハ母ノ寢テ居ル所ヘ行キ母ヲ呼ンテ來タノテアリマス母ハ爐ヲ切ツテアル板ノ間ノ所迄來テ戸ヲ開ケスニ父ハ歸ツテ來ヌカラ歸ツテ吳レト外テ戸ヲ叩イテ居ル人達ニ云ヒ私等ニモ寢ヨト云フテ母ハ自分ノ寢間ヘ行キ私モ床ノ中ニ入ツタノテアリマス」トアルニ明ナル通り上告人等カ戸ヲ叩キ面接ヲ求メタルニ對シ「歸ツテ吳レ」トテ相手ニセサリシ處偶々山本嘉一、竹内金次郎ノ兩名カ裏口ニ廻リタルニ裏口ノ戸カ開キタルヲ以テ同家内ニ立入りタリト云フニ在リ勿論上告人竹内武ト森瀨トハ豫テヨリ親交アリツねトモ食事ヲ竹内方ニ於テ共ニシタリシ程ニテ又和田等ヲモ良ク知り居リタル間柄ナルニヨリ當然許容セラルヘキモノト信シ同家内ニ立入りタルモノナリ從テツねモ竹内カ同人ニ對シ何故戸ヲ開ケサルヤト問ヒタルニ對シ名前ヲ云ヘハ直ク開ケル筈ト答ヘタルモノトス(記録第六七三丁參照)上告人等ハ其ノ晝頃モ同家ヲ訪レ上告人等カ森瀨ヲ探シ居ル理由ヲ話シタルニヨリツねハ上告人等ハ三左衛門カ上告人等ノ金千三百圓ヲ持逃シタリトシ取戻シニ奔走シ居レル事實ヲ知り居ルコト明カナルヲ以テ社會生活ノ人情ヨリセハ再三上告人等カ遠路ヲ來訪セルモノナルニヨリ戸ヲ開キ一言ノ挨拶ヲ爲シ歸宅セサル理由ヲ開陳スヘキコソ當然ナル條理ナリト云フヘキニ拘ラス上告人等ニ門前拂ヲナスノ舉ニ出テタルモノニシテ斯カル行爲ニ出テラレテハ森瀨カ大聖寺署ニ留置セラレ居ルトハ知ラサル以上上告人等カ歸宅セルヲ隱シ居ルモノト信ス

自力救済

二四九

(五)

ルハ當然ニシテ其ノ非ナル方ヲ考容セハ被害者ナリトセラルル森瀬側ニ大ナルモノアリト云ハサルヘカラス更ニ上告人等ハ同家ノ裏口ヨリ立入りタリトハ云ヘ最モ親シキ竹内一人ノミ娘ノ案内ニテ奥ニ入りテ妻つねニ面會シ三左衛門ノ不在ヲ確メルヤ早々ニシテ同家ヲ退去シ他ニ何事モナカリシコト亦明カナルノミナラス持參シタル菓子折ヲ提供シテ土産トシタル行動ニ見テモ何等ノ危険モナカリシコト明カナリトス上告人等カ裏戸ヲ勝手ニ引明ケタルハ稍々妥當ヲ缺クト雖モ本件ノ如キ場合何人ト雖モ一千三百圓ノ損失カ自己ノ財産ニ寸毫モ影響ナキ財産家ニアラサル限り之カ取戻シノ爲メニ焦慮シ多少ノ自制心ヲ失シ斯ル行爲ニ出テタリトスルモ已ム無キトコロニシテ自救行爲トシテ罪トナラサルモノト云フヘキモノナルニ加ヘ遠路ヲ來訪セシニ不在ヲ裝ヒ門前拂ヲサレタリト信シタランニハ上告人ノ如キ行動ニ出タリトスルモ亦人情ヨリシテ已ムヲ得サルトコロト云フヘク敢テ危険ナル反社會的行爲トシテ有罪ト爲スヘキニアラサルナリ惟フニ刑罰ヲ科スルハ社會ノ利益ヲ維持スルニアリ從テ刑ヲ科スルニヨリテ得ラルルトコロノ社會ノ利益カ刑ヲ科スルニヨル社會ノ損失ニ比シ小ナル場合ハ刑ヲ科スルノ目的ヲ達セサルモノニシテ斯カル場合ハ刑ヲ科スヘキ限りニアラス右ノ如ク上告人ノ本件行爲ハ一種ノ自救行爲ニシテ又甚タ微細ナル反法行爲トモ云フヘク敢テ危険ナル行爲ナリトシテ刑ヲ科スルノ必要ハ全ク存セサルモノトス然ルニ原審カ上告人等ニ夫々有罪ヲ言渡シタルハ結局法ノ解釋

ヲ誤リタル違法アルモノニシテ到底破毀ヲ免カレサルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

所論ノ如ク被告人等ニ於テ判示所爲ヲ當然許容セラルヘキモノト信シタル事實ハ原判決ノ認定セサルトコロニ係リ又記録上之ヲ認ムルニ由ナク而シテ所論自救行爲ノ如キハ各個人自ラ權利ノ救済ヲ實力ニ訴ヘ實現セントスルモノニシテ其ノ弊甚シク整然タル現時ノ國家形態ニ於テ到底許容セラルヘキ權利保護ノ方法ニ非ス固ヨリ法ハ正當防衛緊急避難等之ヲ認容セル場合アリト雖是レ全ク緊急已ムヲ得サル特種例外ノ場合ニ屬シ法ハ其ノ要件ヲ極メテ嚴格ニ規定ス漫リニ明文ヲ有セサル自救行爲ノ如キニ追スヘキモノニ非ス判示所爲カ該要件ヲ充足セサルコト多言ノ要ナク又判示所爲カ微細ナル反法行爲ニシテ處罰ニ値セサルモノトハ認ムルヲ得ス援用判例ハ本件ニ適切ナラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○國家總動員法違反被告事件

(昭和十六年(九)第三二六號
同年五月十三日第四刑事部判決)

棄却)

二五二 (三)

【上告人】 被告人 山本 政吉 辯護人 大橋 茹
【第一審】 敦賀區裁判所 【第二審】 福井地方裁判所

○判示事項

昭和十四年十月五日福井縣告示ノ丸釘ノ小賣價格ノ意味

○判決要旨

昭和十四年十月五日福井縣告示第五五二號ニ於テ指定シタル丸釘ノ小賣價格ハ其ノ販賣業者力小賣スル場合ノ價格ノミナラス其ノ販賣ヲ業トセサル者力小賣スル場合ノ價格ヲモ指定シタルモノトス

【參照】 昭和十三年商工省令第五六號物品販賣價格取締規則第一條 商工大臣ノ指定スル物品ヲ販賣スル者ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ其ノ指定ノ際商工大臣ノ指定スル年月日ニ於ケル販賣價格ヲ商工大臣又ハ地方長官ガ販賣價格ヲ指定シタルトキハ其ノ販賣價格ヲ超ユル對價ヲ以テ當該物品ヲ販賣(指定前ニ爲シタル契約ニ依ル引渡ヲ含ム)スルコトヲ得ズ但シ輸出スル場合、取引所ニ於テ販賣スル場合及ビムヲ得ザル事由ニ依リ卸賣ニ付テハ商工大臣、小賣ニ

付テハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

昭和十四年十月五日福井縣告示第五五二號 昭和十三年商工省令第五十六號物

品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ依リ物品最高販賣價格ヲ左ノ通指定ス

(中略)

二 金屬品

釘、針金、鐵線最高販賣價格

一 丸釘及丸合釘

寸法

小賣價格(一貫ニ付)

九番三吋半	一、四四七
十一番二吋半	一、四四九
十二番二吋	一、五〇〇
十三番吋六分	一、五三三 (他ハ省略)
十四番吋半	一、五六六
十五番吋二分	一、五九九
十七番六分	一、七五五

○事實

原審ハ左記ノ如ク事實ノ認定竝ニ法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三千圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金十圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

昭和十四年十月五日福井縣告示ノ丸釘ノ小賣價格ノ意味

二五三

(三)

被告人ハ肩書住居ニ於テ土工ヲ爲シ居ルモノナルトコロ昭和十五年二月二十五日頃豫テ知合ナル千葉市富士見町靴商西尾義實ヨリ自己ノ使用ニ供スヘキ丸釘ヲ賣却サレタキ旨ノ申込ヲ受クルヤ丸釘ニ付テハ福井縣知事ニ於テ昭和十四年十月五日同縣告示第五五二號ヲ以テ小賣價格ヲ各一貫ニ付六分八一圓七十五錢一分二分八一圓五十九錢一分半八一圓五十六錢一分六分八一圓五十三錢二分八一圓五十二錢二分半八一圓四十九錢三分八一圓四十七錢二分指定サレタルニ拘ラス法定ノ除外事由ナクシテ犯意ヲ繼續シテ同日頃ヨリ同年四月二十一日頃迄ノ間七回ニ互リ被告人居宅ニ於テ同人ニ對シ前記各種吋ノ丸釘合計三百十五貫二百六十匁ヲ各種吋ノ丸釘一貫ニ付四圓三十七錢乃至五圓ヲ超過シタル代金合計金千三百九十圓七十四錢(超過額約金九百一十一圓三十六錢)ニテ販賣シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ國家總動員法第十九條第三十三條價格等統制令第七條第二十一條昭和十三年七月九日商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條昭和十四年十月五日福井縣告示第五五二號刑法第五十五條ニ各該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍ニ於テ被告人ヲ罰金三千圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金十圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人大橋如上告趣意書一、原判決ハ其ノ理由ニ於テ(イ)被告人ハ土工ヲナシタルモノナル

コト(ロ)被告人ハ福井縣知事ノ指定シタル價格ヲ超過シテ丸釘ヲ販賣シタルコトヲ認定シタリ二、然レトモ福井縣知事ノ福井縣告示第五五二號ヲ以テ指定セル丸釘ノ價格ハ卸賣及小賣價格ヲ定メタルモノニシテ其ノ價格ハ販賣業者ノ遵守スヘキ價格ヲ指定セルモノナリ即チ其ノ告示指定ノ價格表ノ表示ハ

寸法 地方間屋卸賣價格

小賣業者向價格 小口需要向價格小賣價格

トナリヨリ右ノ内小賣業者向價格及小口需要向價格ハ何レモ間屋卸價格ナルコトヲ明示シアリ之ニ對比シテ小賣價格ハ小賣業者ノ販賣價格ヲ指定セルコトハ疑ヲ容ルルノ餘地ナキモノナリ三、而シテ被告人ハ土工ヲ業トシ釘ノ販賣ヲ業トセルモノニ非ス偶々手元ニ土工用ニ在リシ釘ヲ知合ナル西尾義實ニ讓渡セルニ過キス從テカカル場合ニ小賣業者ノ爲メニ指定セラレタル價格ヲ適用スヘキモノニ非サルコト極メテ明白ナリ從テ本件ノ如ク販賣業者ニ非サル被告人カ釘ヲ販賣シタル場合ニハ鐵鋼配給規則昭和十三年六月二十日商工省令第三十三號昭和十四年九月二十八日商工省令第五十九號ニ違反セルモノニテ結局輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律ニ依リ處罰ヲ免レサルモ原判決ノ如ク價格等統制令竝ニ國家總動員法ニヨリ處罰セララルモノニ非ス然ラハ原判決ニハ法令ノ適用ヲ誤リタル違法アリ破毀セラルヘキモノナリト云フニ在

【要旨】

昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條ニ所謂販賣トハ營利ノ目的ヲ以テスル一切ノ有償的讓渡行為ヲ指稱シ其ノ業トシテ爲ス場合ニ限ラサルモノト解スヘキヲ以テ(當院昭和十四年(れ)第一一七八號昭和十五年三月六日判決參照)同規則ニ基キ福井縣告示第五五二號ヲ以テ指定セル所論丸釘ノ小賣價格ハ之ヲ業トシテ販賣スル場合ノミナラス營利ノ目的ヲ以テ之ヲ有償讓渡スル總テノ場合ノ價格ヲ指定シタルモノト解スルヲ相當トスルカ故ニ縱令被告人ハ丸釘販賣業者ニアラストスルモ原判示ノ如ク右告示ニ於テ指定シタル價格ヲ超エタル代金ニテ判示丸釘ヲ賣却シタル以上判示法條ノ罪ヲ構成スルヤ勿論ナルカ故ニ原判決カ判示事實ニ對シ判示法條ヲ適用シタルハ洵ニ正當ニシテ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨理由ナシ

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事吉弘基彥關與

○竊盜被告非常上告事件

(昭和十六年(そ)第一號
 同年五月十九日第二刑事部判決 破毀自判)

【非常上告人】 檢事總長岩村通世

【原 審】 名古屋區裁判所

○判示事項

少年ニ對スル定期刑ノ言渡ト刑事訴訟法第五百二十條第一號但書

○判決要旨

少年ニ對シ定期刑ノ言渡アリタル場合ニ該判決ノ刑ノ範圍内ニ於テ更ニ短期ト長期トヲ定メテ不定期刑ヲ言渡シ得ル場合ハ刑事訴訟法第五百二十條第一號但書ニ所謂原判決被告人ノ爲不利益ナリト謂フヘキモノトス

【參照】 少年法第八條 少年ニ對シ長期三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處

斷スヘキトキハ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ短期ト長期トヲ定メ之ヲ言渡ス但シ短

少年ニ對スル定期刑ノ言渡ト刑事訴訟法第五百二十條第一號但書

期五年ヲ超ユル刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ短期ヲ五年ニ短縮ス
前項ノ規定ニ依リ言渡スヘキ刑ノ短期ハ五年長期ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス
刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス
刑事訴訟法第五百二十條 非常上告ヲ理由アリトスルトキハ左ノ區別ニ從ヒ判
決ヲ爲スヘシ

- 一 原判決法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル部分ヲ破毀ス但シ原判決
被告人ノ爲不利益ナルトキハ之ヲ破毀シ被告事件ニ付判決ヲ爲ス
- 二 訴訟手續法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル手續ヲ破毀ス

○事實

名古屋區裁判所ハ左記事實ヲ認定シ之ニ刑法第二百三十五條第五十五條ヲ適用シ被告人ヲ懲役
一年ニ處シタリ

被告人ハ豫テ静岡縣濱松市東伊場町番地不詳堀留合資會社ニ自動車助手トシテ被雇中ナルモノナルトコロ犯意
繼續ノ上

第一 昭和十五年九月三十日午前四時頃(日不詳)同會社所有ノ自動車助手部屋ニ於テ助手遠藤照義ノ所有ス
ル洋服ズボン一着外一點(何レモ價格不明)及現金一圓三十錢位ヲ竊取シ

第二 被告人ハ豫テ愛知郡豐明村大字前後字三ツ谷千二百十三番地豐ヶ岡可朝園ニ園兒トシテ入園中同年十一
月十八日午前六時頃同園宿舍第八號及第十號各部屋ニ於テ園兒安田清七外三名所有ニ係ル黒サージ詰襟洋服
上下一着外三點價格二十六圓相當ヲ竊取シ

タルモノナリ

○主 文

本件ニ付昭和十六年一月十三日名古屋區裁判所ノ言渡シタル判決ヲ破毀ス
被告人ヲ短期六月長期一年ノ懲役ニ處ス

○理 由

檢事總長岩村通世非常上告申立書ノ理由ハ右竊盜被告事件ニ付昭和十六年一月十三日名古屋區
裁判所ハ被告人ハ犯意ヲ繼續シテ第一、濱松市東伊場町番地不詳堀留合資會社ニ自動車助手ト
シテ被備中昭和十五年九月三十日午前四時頃同會社自動車助手部屋ニ於テ遠藤照義所有ノ洋服
ズボン一着外一點(價格不明)及現金一圓三十錢位第二、愛知縣愛知郡豐明村大字前後字三ツ
谷千二百十三番地豐ヶ岡可朝園ニ園兒トシテ入園中同年十一月十八日午前六時頃同園宿舍第八
號第十號各室ニ於テ安田精七外三名所有ノ黒サージ詰襟洋服一着外三點價格二十六圓相當ノモ
ノヲ各竊取シタリトノ事實ヲ認定シテ懲役一年ノ言渡ヲ爲シ昭和十六年一月二十一日確定シタ
リ然ルニ右作次ハ犯時十八歳未滿ニシテ少年法第八條第一項ヲ適用スヘキモノナルニ該判決ハ
之ヲ遺脱シ少年タル被告人ニ對シ定期刑ヲ言渡シタル違法アルヲ以テ該判決ヲ破毀シ更ニ相當
ノ判決相成度候ト謂フニ在リ

案スルニ名古屋區裁判所カ非常上告申立書記載ノ事件ニ付昭和十六年一月十三日所論ノ如キ事實ノ認定ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年ニ處スル旨ノ判決ヲ言渡シ同月二十一日該判決確定セルコト及被告人カ大正十二年十月八日生ニシテ犯罪時ハ勿論判決時ニ於テ十八歳ニ滿タサル少年ナリシコトハ孰レモ右事件ノ記録ニ依リテ明瞭ナリ而シテ少年ニ對シ長期三年以上ノ有期ノ懲役刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ刑ノ執行猶豫ヲ爲ササル限リ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ短期ト長期トヲ定メ所謂不定期刑ヲ言渡スヘキモノナルコト少年法第八條ノ規定上毫モ疑ナキトコロナリ然ルニ原裁判所ハ右被告人ニ對シ所論ノ如キ竊盜ノ事實ヲ認定シ刑法第二百三十五條第五十五條ヲ適用シ而モ刑ノ執行猶豫ヲ與フヘキモノニアラスト爲シタルニ拘ラス右少年法ノ適用ヲ遺脱シ前示ノ如キ定期刑ノ言渡ノ判決ヲ爲シタルハ正ニ法令ニ違反セルモノニシテ非常上告ハ其ノ理由アリト謂フヘシ而シテ本件ニ付テハ被告人ニ對シ原判決ノ刑ノ範圍内ニ於テ更ニ短期ト長期トヲ定メテ不定期刑ヲ言渡シ得ル餘地アリ從テ刑事訴訟法第五百二十條第一號但書ニ所謂原判決被告人ノ爲不利益ナル場合ニ該當スルカ故ニ原判決ヲ破毀シ被告事件ニ付判決ヲ爲ササルヘカラス

【要旨】

因テ原判決ノ確定セル事實ヲ法ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百三十五條第五十五條ニ該當スルトコロ少年ナルニヨリ少年法第八條第一項ヲ適用シ被告人ヲ短期六月長期一年ノ懲役ニ處

スヘキモノトス

以上ノ理由ニ據リ主文ノ通判決ス

檢事柴領文關與

○刑法第七十八條ノ罪ニ關スル被告事件(昭和十六年三月十五日(特)第一號)
(同十六年三月十五日第二特別刑事部判決)

【被告人】 天野 辰夫 外四十三名 辯護人 奥山 八郎 外二十六名

【裁判所】 大審院第二特別刑事部

○判示事項

内亂罪ノ成立——大審院ノ特別權限ニ屬スル旨ノ公判開始決定
ト大審院ノ審判權

○判決要旨

- 一時ノ閣僚ヲ殺害シテ内閣ノ更迭ヲ目的トスルニ止マリ暴動
- ニ依リ内閣制度其ノ他ノ朝憲ヲ不法ニ變革スルコトヲ目的

内亂罪ノ成立 大審院ノ特別權限ニ屬スル旨ノ公判開始決定ト大審院ノ
審判權

トセサルトキハ内亂罪ヲ構成セス【要旨第一】

二大審院ノ特別權限ニ屬スルモノトシテ公判開始決定アリタル事件ニ付テハ其ノ然ラサルコト明白トナリタルトキト雖大審院ハ右事件ニ付實體上ノ裁判ヲ爲シ得ルモノトス【要旨第二】

【參照】 刑法第七十七條

政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス
 - 二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス
 - 三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス
- 前項ノ未進罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス
- 同第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス
- 同第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス
- 刑事訴訟法第四百八十三條 大審院ハ檢事總長ノ意見ヲ聽キ左ノ區別ニ從ヒ決定ヲ爲スヘシ
- 一 被告事件公判ニ付スヘキモノト認ムルトキハ公判ヲ開始スル決定

二 被告事件下級裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認ムルトキハ管轄權ヲ有スル裁判所ニ之ヲ移送スル決定

三 被告事件前二號ノ規定ニ該當セサル場合ニ於テハ第三百十三條乃至第三百十五條ノ規定ニ準シ免訴シ又ハ公訴ヲ棄却スル決定

同第四百八十四條 第二編ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ニ付之ヲ準用ス

同第三百五十六條 地方裁判所ハ其ノ管内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス但シ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル區裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得

○事實

當院ハ左記ノ如ク事實ノ認定並ニ法律ノ適用ヲ爲シ主文ノ如キ言渡ヲ爲シタリ

○主文

被告人等ニ對シ執レモ其ノ刑ヲ免除ス

○理由

被告人天野辰夫ハ大正八年東京帝國大學法學部ヲ卒業シ辯護士ノ業務ニ從事セル者ナルカ其ノ在學時代ヨリ同大學教授故上杉愼吉ノ門ニ入り其ノ學說ヲ信奉シテ 天皇主權說ヲ採リ 天皇機關說ヲ排斥シ(省略)被告人等ハ一同協心戮力ノカ實現ノ準備ヲ整ヘ同月十日夜以來東京市

内亂罪ノ成立 大審院ノ特別權限ニ屬スル旨ノ公判開始決定ト大審院ノ審判權

澁谷區穩田一丁目明治神宮講會館其ノ他ニ於テ待機ノ姿勢ニ移リ茲ニ準備完成シテ命令一下暴動將ニ勃發スヘキ情勢切迫シタル同十一月未明際以來首腦部タル被告人前田虎雄、鈴木善一以下行動隊ニ屬スル被告人數十名檢舉セラレタル爲メ暴動計畫ハ遂ニ實行セラルルニ至ラスシテ止ミタルモノナリ以上暴動計畫ニ關シ特ニ被告人等カ關與シタル具體的事實及其ノ動機ヲ舉クレハ

- 第一 被告人天野辰夫ハ敍上ノ如ク本件暴動計畫ノ首腦者ニシテ被告人前田虎雄ト共ニ其ノ謀議ヲ遂ケケカ實行方法ノ大綱ヲ策定シタルモノナルカ特ニ其ノ準備ニ關シテ(省略)
- 第二 被告人安田鏡之助ハ豫備陸軍中佐ニシテ平素現下日本ノ國情ヲ憂慮シ(省略)
- 第三 被告人前田虎雄ハ曾テ南滿洲鐵道株式會社從業員養成所ニ學ヒ其ノ後盟友井上昭、本間憲一郎等ト共ニ國家改造運動ニ志シ新日本建設同盟結成ノ爲ニ奔走シ後上海ニ渡リ亞洲大同聯盟ニ關與シ來リタルモノニシテ中學時代ヨリ國家主義思想ヲ抱キ居リタルカ(省略)
- 第四 被告人鈴木善一ハ私立國士館大學高等部ヲ卒業後建國會ニ入り建國新聞ヲ編輯シ次テ明德會ニ入り明德論壇ヲ編輯シ昭和六年十一月六日生産黨關東本部理事同八年二月同部青年部長ト爲リ夙ニ日本主義思想ヲ把握シ(省略)
- 第五 被告人影山正治ハ嘗テ國學院大學ニ學ヒ日本主義及日本主義愛國運動ノ理論的哲學的研

究ヲ遂ケタル後社會運動ニ關係シ更ニ大日本生産黨ニ入黨シテ國家改造ノ實踐運動ニ身ヲ投シ所謂昭和皇道維新ヲ實現スルノ必要アリト思惟シ居リタルモノナルカ(省略)

第六 被告人片岡駿ハ大正十二年岡山縣立津山中學校ヲ卒業シ大正十五年十月上京シテ回天時報ノ編輯員トナリ昭和六年六月渡滿シテ滿洲問題解決ニ關スル方面ニ活動シ關東軍ノ非公式囑託ト爲リタルコトアリ其ノ後昭和七年一月頃大日本生産黨ニ入黨シテ其ノ中央委員ト爲リ(省略)

第七 被告人奥戸足百ハ小學教育ヲ受ケ曾テ日本黨國民中央委員、大日本生産黨常任中央委員關東軍ノ特務機關等ノ任務ニ服シ其ノ後滿洲國軍政部顧問部囑託ト爲リタルコトアリ夙ニ時弊ヲ慨シ(省略)

第八 被告人田崎文藏ハ中學校三學年ノ時中途退學シ其ノ後各所ニ於テ小學教員、新聞記者等ノ職ニ就キ其ノ間國本社、亞細亞青年聯盟等ノ思想團體ニ加入シ社會運動ニ關係セル内同郷出身ノ井上昭、本間憲一郎等ト接觸シテ其ノ感化指導ヲ受ケ昭和七年七月以降被告人前田虎雄ノ許ニ出入スルニ及ヒ同人ノ皇道主義ニ共鳴シ所謂昭和維新實現ノ必要ヲ痛感スルニ至リシカ(省略)

第九 被告人岩田一ハ曾テ東京帝國大學文學部及經濟學部ニ學ヒ中途ニシテ退學シ其ノ後同郷ノ先輩本間憲一郎、井上昭ト接觸シテ其ノ感化ヲ受ケタル結果(省略)

第十 被告人村岡清藏ハ小學校教育ヲ受ケ大正十五年十一月中被告人前田虎雄ト面識ヲ得タル以來同人ヨリ日本主義思想ノ指導ヲ受ケテ之ニ共鳴シ(省略)

第十一 被告人小池銀次郎ハ普通教育ヲ受ケタル後巡查、新聞記者、町會議員、町長等ノ職ニ就キ夙ニ失業問題、人口問題、食糧問題、農村問題等ノ國內諸問題ヲ初メ對支、對露、對米等ノ國際問題ニ付深ク思ヒヲ致シ(省略)

第十二 被告人伊藤友太郎ハ普通教育ヲ受ケタル後種々ノ實業ニ從事シタルモ其ノ志ヲ得ス昭和五年以來立憲政友會青森支部院外團長トシテ政治運動ニ携ハリ其ノ後昭和八年二月政黨ヨリ一切ノ關係ヲ斷チ同年六月十日頃被告人前田虎雄ト相識ルニ及ヒ同人ノ識見風格ニ傾倒スルニ至リ(省略)

第十三 被告人白井爲雄ハ私立福岡商業學校ニ學ヒ中途退學シ其ノ後昭和七年一月大日本生産黨ニ入黨シ爾來同黨關東本部常任書記ト爲リ同年十二月同黨青年部ノ結成ト共ニ其ノ常任幹事ト爲リ被告人鈴木善一ニ私淑シ居リタルカ(省略)

第十四 被告人小野義徳ハ小學校卒業ノ後昭和五年五月日本國民黨ニ入り同六年十一月大日本生産黨ノ結成ト同時ニ同黨ニ加入シ同年二月同黨關東本部常任書記、同八年二月被告人鈴木善一ヲ部長トスル同黨關東本部青年部幹事、更ニ同年四月同部主任ト爲リタルカ右善一ニ

私淑シ(省略)

第十五 被告人花野井彌太郎ハ小學校卒業ノ後昭和六年十月頃大日本生産黨ニ入り昭和一年一月頃同黨關東本部青年部幹事ト爲レルカ時弊ヲ慨シ(省略)

第十六 被告人雨宮信ハ小學校ノ教育ヲ受ケ豫テヨリ同縣出身ノ被告人鈴木善一ニ私淑シ昭和八年三月初頃大日本生産黨ニ入り其ノ關東本部常任書記ト爲リ前記同黨本部ニ居住シ居リタルカ(省略)

第十七 被告人橋爪宗治ハ私立明治大學政治經濟科專門部卒業後農民運動ニ從事シ居リタルカ昭和六年九月滿洲事變勃發當時ヨリ日本主義運動ニ投シ昭和七年十月大日本生産黨關東本部常任書記、昭和八年一月同部青年部幹事ト爲リ前記同黨本部ニ起居シ(省略)

第十八 被告人梅山滿男ハ福岡市鎮西高等簿記學校ヲ卒業シ昭和六年夏頃大日本生産黨ニ加入シ昭和八年四月頃同黨澁谷支部結成準備會責任者及同黨關東本部青年部員ト爲リ爾來同黨本部ニ出入シ夙ニ被告人鈴木善一ニ私淑シ(省略)

第十九 被告人小松崎重ハ茨城縣立土浦中學校ニ終了後昭和五年四月退學シ被告人鈴木善一ヲ頼リテ上京シ日本國民黨本部ノ常任書記ト爲リ其ノ後同黨カ大日本生産黨ト合流スルニ及ヒ同黨關東本部常任書記兼同部青年部幹事ト爲リ國家主義運動ニ携ハルニ至リタルモノナル

内亂罪ノ成立 大審院ノ特別權限ニ屬スル旨ノ公判開始決定ト大審院ノ

カ(省略)

二七〇 (七)

第二 被告人阿部克己ハ小學校ヲ卒業後昭和七年六月頃大日本生産黨關東本部常任書記、同八年二、三月頃ヨリ同部青年部幹事ト爲リタルカ(省略)

第二十一 被告人太田覺ハ小學教育ヲ受ケタル後各地ニ於テ專ラ勞働ニ從事シ居リタルカ昭和八年一月頃大日本生産黨關東本部青年部ニ入り(省略)

第二十二 被告人森川長孝ハ中學教育ヲ受ケタル後一時左翼運動ニ從事シタルコトアリシカ其ノ後轉向シテ昭和八年五月中旬大日本生産黨ニ入り其ノ城北支部ニ屬シ同支部豊島區巢鴨分團ノ結成ニ努メ來リ(省略)

第二十三 被告人毛呂清曠ハ昭和八年三月國學院大學豫科修了ノ上直ニ同大學部ニ入學シ本件發生當時在學中ナリシカ(省略)

第二十四 被告人中村武ハ昭和七年三月國學院大學豫科ニ入學シ本件發生當時同豫科第二學年在學中ナリシカ(省略)

第二十五 被告人永代秀之ハ昭和六年四月國學院大學神道部ニ入學シ其ノ在學中日本主義思想ニ關心ヲ持チ全國大日本主義同盟ニ加入シ居リタルモノニシテ(省略)

第二十六 被告人瀧澤利量ハ中學校第三學年ニシテ半途退學シ其ノ後遞信省簡易保險局事務員

新聞記者等ト爲リ昭和八年六月豫テ知合ナル被告人前田虎雄方ニ寄寓スルコトトナリ(省略)

第二十七 被告人高橋梅雄ハ小學校卒業後西洋家具製造業ノ徒弟、造船所ノ職工、新聞記者等ノ業ニ從事シ其ノ間被告人瀧澤利量ト相識リテ愛國運動ニ從事シ來レルモノ又被告人尾崎海治、中野勝之助ハ孰レモ小學教育ヲ受ケタル後商店員又ハ新聞配達夫等ノ業ニ從事シ居リタルモノ其ノ後失業シ居リタルモノナルトコロ(省略)

第二十八 被告人黒江直光ハ小學校卒業後商店會社等ニ雇傭セラレタルコトアルモノ其ノ後全國勞働組合同盟ニ加盟シ更ニ昭和七年五月日本國家社會黨ノ主義綱領ニ共鳴シテ之ニ入黨ノ上同黨大阪府支部聯合會常任書記及國家社會主義青年同盟大阪府支部書記長トシテ(省略)

第二十九 被告人藤井嘉夫ハ昭和六年三月大阪市立興國商業學校ヲ卒業シ其ノ後大阪愛國青年聯盟ノ理事ト爲リ國家意識ニ乏シキ青年ノ啓蒙運動ヲ通シ延イテハ日本主義ニ依ル國家改造ヲ目的トシテ各種ノ愛國運動ニ參加シ來リタルモノ、又被告人森本幸一ハ小學校卒業後電機工印刷工等ニ就職シ居リタルコトアリシカ昭和八年二月大阪愛國青年聯盟ノ主義綱領ニ共鳴シテ同聯盟ニ加入シ爾來日本主義ニ基ク愛國運動ニ參加シ來リタルモノ、又被告人本木恒雄ハ中學校卒業後大阪港郵便局ニ就職シタルカ其ノ後滿洲事變ノ勃發等ノ爲日本主義意識ヲ昂

内亂罪ノ成立 大審院ノ特別權限ニ屬スル旨ノ公判開始決定ト大審院ノ審判權

三七一 (七)

メ當時日本ノ興廢ハ純真ナル青年ノ愛國運動ニ在リト思惟シ昭和七年六月正木昌之ノ紹介ニ依リ大阪愛國青年聯盟ニ加入ノ上日本主義ニ基ク愛國運動ニ携ハリ來リタルモノ、又被告人板垣操ハ小學校卒業後新聞配達夫トナリ其ノ傍早稻田中學講義録ニテ獨學シ滿洲事變上海事變ヲ契機トシテ強ク日本精神ヲ意識スルニ至リ昭和七年八月大阪愛國青年聯盟ノ主義綱領ニ共鳴シテ其ノ聯盟員ト爲リタルモノニシテ(省略)

第三十 被告人西山五郎ハ小學校卒業後日本勞働總同盟ニ加盟シ大阪金屬勞働組合西北支部聯合會常任書記ト爲リ各種ノ勞働爭議ニ關係シ昭和七年九月日本國家社會黨結成セラルルヤ其ノ主義綱領ニ共鳴シテ之ニ入黨シ次テ昭和八年五月同黨大阪支部聯合會港區支部常任書記ニ舉ケラレ爾來日本主義ノ國民運動ニ携ハリ來リタルモノ、又被告人芥川治郎ハ小學校卒業後大阪市關西工學校夜間部ニ學ヒ退學ノ後昭和七年四月日本國家社會黨ノ主義綱領ニ共鳴シテ之ニ入黨シ被告人黒江直光等ト交リ純然タル日本主義ヲ信奉スルニ至リ昭和八年五月以降同黨大阪支部聯合會港區支部常任書記ニ舉ケラレ日本主義ニ基ク國民運動ニ携ハリ來リタルモノニシテ(省略)

第三十一 被告人白阪英ハ大阪市立泉尾工業學校ヲ卒業シタル者ナルカ皇國ノ國策上人口問題、食糧問題ノ解決カ急務ニシテ之カ解決ノ途ヲ臺灣南洋方面ニ求メサルヘカラスト做シ實

地調査ノ爲昭和六年五月臺灣廈門等ニ渡リ亞細亞ニ於ケル歐米各國ノ偉大ナル勢力ヲ目睹シテ亞細亞民族ノ大同團結ヲ計リ有色民族解放ニ依ル社會建設ノ理想ヲ抱クニ至リ歸阪後兄白阪勵ノ紹介ニテ昭和七年十一月神武會大阪支部ニ入會シ間モナク同支部常任委員ニ舉ケラレ爾來日本主義ニ基ク各種ノ愛國運動ニ携ハリ來リタルモノ、又被告人田中雅ハ小學校卒業後店員又ハ食堂料理見習人ト爲リタルコトアリ先之昭和六年九月頃全國勞働組合總同盟ニ加入シ次テ昭和八年一月神武會大阪支部ニ入會シ同會員タル被告人白阪英等ト往復スルニ及ヒ漸次日本主義思想ヲ懷クニ至リタルモノ、又被告人山内留次郎ハ曾テ大阪市ニ於テ私立船場專修學校夜間部ヲ卒業シタル後料理人等ノ業ニ從事シ居リタルカ昭和八年一月神武會ノ主義綱領ニ共鳴シテ同會大阪支部ニ入會ノ上漸次日本主義意識ヲ昂メ來リタルモノニシテ(省略)

第三十二 被告人星井眞澄ハ福岡縣八幡市立專修學校ヲ中途退學ノ後大阪市ニ於テ黒龍會關西支部ノ機關紙報國新聞ノ編輯發行ノ事務ニ携ハリ居リタルカ昭和六年六月大日本生産黨結成セラルルヤ之ニ入黨ノ上日本主義ニ立脚スル各種ノ實踐運動ニ參加シ來リタルモノナルカ

(省略)

第三十三 被告人大西卯之助ハ大阪府立四條畷中學卒業後家業タル材木商ヲ手傳ヒ居リシカ大正十五年父死亡後家業ヲ廢シ自己ノ趣味トセル文學方面ニ於テ身ヲ立テント欲シ其ノ後新聞

雜誌等ニ小説詩歌等ヲ掲載シ來リ其ノ間思想上幾多ノ懷疑ヲ經タルモ昭和六年九月突發シタル滿洲事變ヲ契機トシテ國內ニ起レル國民運動ニ刺戟セラレテ日本精神ヲ意識スルニ至リ昭和七年十一月大日本生産黨ニ入黨シ生産黨關西本部西成分會内ニ愛國青年前衛隊ナル實行團體ヲ結成シ自ラ其ノ隊長ト爲リ精銳分子ノ養成ニ努メ來リタルモノ、又被告人福島三郎ハ小學校卒業後商店員又ハ會社ノ職工等ト爲リタルコトアリ昭和七年八月大日本生産黨ニ入り同黨關西本部西成分會ニ屬シ同會内ノ前記實行團體ノ組織部長ト爲リ日本精神ニ基ク愛國運動ニ携ハリ來リタルモノニシテ(省略)

第三十四 被告人吉川永三郎ハ小學校卒業後札幌市私立北海中學校ニ入學シ中途退學ノ後通信事務員、新聞雜誌取次業等ニ從事シ夙ニ勞働問題ニ關心ヲ持チ一時ハ無政府主義思想ヲ抱懷シ居リタルカ昭和六年中轉向シテ日本主義ヲ信奉シ其ノ頃被告人村岡清藏ト相識リ昭和七年十二月頃同人ノ紹介ニ依リ被告人前田虎雄ト接スルニ及ヒ深く同人ニ私淑スルニ至リタモルノニシテ(省略)

第三十五 被告人中島勝治郎ハ陸軍教導團出身ノ輜重兵特務曹長ニシテ明治三十四年以來約十年間支那滿洲方面ニ於テ特務機關ノ任務ニ服スル等諸般ノ活動ヲ爲シ居リシカ明治四十三年頃歸國シテ實業界ニ身ヲ投シ一時ハ巨萬ノ富ヲ蓄ヘ財界ノ人士ト交リ殊ニ昭和五年頃以降公

爵西園寺公望ノ爲護衛ノ任ニ當リタル等ノ關係ヨリ財界政界ノ事情ニ精通セルモノナルカ(省略)

因テ被告人一同ハ殺人竝ニ放火ノ豫備ヲ爲シタルモ敍上ノ如ク其ノ實行ヲ爲スニ至ラザリシモノナリ

檢事ハ本件暴動計畫ハ政治ノ中樞タル政府ヲ顛覆シ其ノ他憲法及諸般ノ制度ヲ根本的ニ不法ニ變革センコトヲ目的トシテ爲サレタルモノナルカ故ニ内亂豫備罪ヲ構成スル旨主張スルヲ以テ案スルニ内亂罪ノ成立ニハ朝憲紊亂ノ目的アルヲ要ス而シテ刑法ニ所謂朝憲紊亂トハ皇國ノ政治的基本組織ヲ不法ニ變革スルコトヲ謂フモノニシテ朝憲紊亂ノ一トシテ刑法ニ例示セラルル政府ノ顛覆モ亦此ノ意義ニ解スヘク從テ單ニ時ノ閣僚ヲ殺害シテ内閣ノ更迭ヲ目的トスルニ止マリ暴動ニ依リテ直接ニ内閣制度其ノ他ノ朝憲ヲ不法ニ變革スルコトヲ目的トスルモノニ非サルトキハ朝憲紊亂ノ目的ナキモノトシテ内亂罪ヲ構成セサルモノト解スヘキコト曩ニ當院ノ判例トセルトコロナリ(省略)從テ本件暴動計畫ハ内亂豫備罪ヲ構成セサルモノト謂ハサルヘカラス檢事ノ主張ハ之ヲ採用セス

本件ハ内亂豫備罪ヲ構成セサルコト敍上說示ノ如シ然ラハ當院ニ於テ更ニ本件ノ實體ニ付審判ヲ爲スノ權限ヲ有スルヤ否ヲ審究スルニ此ノ點ニ關シ現行刑事訴訟法ト其ノ規定ノ實質内容ニ

内亂罪ノ成立 大審院ノ特別權限ニ屬スル旨ノ公判開始決定ト大審院ノ審判權

【要旨第一】

何等異ナルトコロナキ舊刑事訴訟法ノ下ニ於テ斯カル場合ニ大審院カ實體上ノ審判權ヲ有スルモノト認メタルハ夙ニ先例ノ存スルトコロ(津田三藏ニ對スル謀殺未遂被告事件明治二十四年五月二十七日判決言渡、明治四十三年特第一號明治四十四年一月十八日判決言渡)ニシテ今遽ニ之ト異ナル解釋ヲ爲スノ要アルヲ見ス尤モ刑事訴訟法第四百八十三條ニ依レハ大審院ハ豫審判事ヨリ取調ノ結果ニ付意見書ヲ添ヘテ一件記録及證據物ノ送付ヲ受ケタルトキハ檢事總長ノ意見ヲ聽キ事件カ大審院ノ特別權限ニ屬スルモノトシテハ判ニ付スヘキヤ否ヲ審究シ若シ被告事件下級裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ其ノ裁判所ニ移送スヘキ旨ノ規定存スルカ故ニ事件カ公判 付セラレタル後ニ於テモ斯カル場合ニハ同様事件ヲ管轄裁判所ニ移送セサルヘカラサルカ如ク解スルモノアリト雖正當ニ非ス寧ロ反對ニ本規定ニ於テ事件ノ移送手續ハ公判ノ開始決定前ニ限り其ノ適用アルコトヲ明示シ公判開始後ノ手續ニ付テ殊更ニ其ノ適用アルコトヲ明示セサリシ所以ノモノハ畢竟一旦事件カ開始決定ニ依リテ公判ニ付セラレタル後ニ在リテハ最高審級ノ裁判所タル大審院ヲシテ其ノ實體ニ付終局ノ審判ヲ爲スコトヲ得シムルノ法意ヲ明ニシタルモノナリト解スルヲ相當トス仍テ當院ハ本件ニ付其ノ實體上ノ裁判ヲ爲スノ權限ヲ有スルモノトス

【要旨第二】

辯護人ハ本件行動ハ判示ノ如キ事情ニ因リ皇國ノ國體カ蹂躪セラレ皇國カ非常ノ危局ニ瀕シタ

ルヲ以テ國體ヲ防護シ皇國ヲ富強ノ安キニ置キ其ノ永遠ノ發展ヲ期スルカ爲之ヲ爲シタルモノナレハ正當防衛若ハ緊急避難トシテ無罪タルヘク假ニ正當防衛若ハ緊急避難トシテ之ヲ論スルコトヲ得ストスルモ自救行爲若ハ法律上正當ナル行爲トシテ無罪タルヘキモノナル旨主張スルヲ以テ案スルニ一定ノ加害行爲カ正當防衛若ハ緊急避難トシテ違法性ヲ阻却セラルル爲ニハ其ノ行爲カ急迫不正ノ侵害若ハ緊迫セル危難ヲ排除シ若ハ避クルニ必要已ムヲ得サルモノニ限ルモノト解スルヲ相當トス(省略)其ノ採ラントシタル本件暴動行爲ハ當時ノ諸般ノ情況ニ照シ必要已ムヲ得サルモノトハ容易ニ之ヲ認ムルヲ得サルカ故ニ本主張ハ之ヲ採用セス又自救行爲ハ現行法ノ認メサルトコロニシテ是亦夙ニ判例ノ示ストコロナルヲ以テ本件行動ヲ自救行爲トシテ無罪ナリト謂フハ當ラス尙本件行動ハ畏クモ輦轂ノ下ニ於テ皇都ヲ戒嚴令下ニ導キ之ヲ擾亂ノ巷ト化セシムル虞アリテ公安ヲ案シ法律秩序ヲ害スルコト尠少ナラサルヲ以テ公安ノ確保法律秩序ノ維持ヲ目的トスル法律ニ於テ之ヲ許容スヘキ謂レナキカ故ニ本件行動ヲ目シテ法律上正當ナル行爲ト謂フコトヲ得サルモノトス(省略)

次ニ辯護人ハ本件行動ハ眞ノ日本人タル者ハ何人ト雖判示ノ如キ事情ノ下ニ於テ之ヲ爲スコトハ當然ニシテ適法行爲ヲ爲スコトハ之ヲ期待シ得サルモノナルカ故ニ此ノ點ヨリ論スルモ無罪ナル旨主張スレトモ苟モ皇民タル以上何人ト雖被告人等ト同様判示ノ如キ事情ノ下ニ於テ判示

内亂罪ノ成立 大審院ノ特別權限ニ屬スル旨ノ公判開始決定ト大審院ノ審判權

行動ニ出テタルヘシトハ輒ク之ヲ認ムルヲ得サルヲ以テ本主張モ採用スルヲ得ス
 法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲中殺人豫備ノ點ハ刑法第二百一條第六十條ニ放火豫備ノ點ハ
 同法第百十三條第六十條ニ各該當スルトコロ本件ハ事未然ニ發覺シ何等流血ノ慘害ヲ見ルコト
 ナクシテ止ムヲ得タル事實ニシテ(省略)諸般ノ情狀ニ鑑ミ各被告人ニ對シ孰レモ同法第二百
 一條第百十三條各但書ヲ適用シ其ノ刑ヲ免除スルヲ相當トス
 尙本件公訴事實中被告人等ハ故海軍中佐山口三郎ト判示暴動決行ノ日同人ノ操縦ニ係ル飛行機
 上ヨリ閣議開催中ノ内閣總理大臣官邸ニ爆彈ヲ投下シ因テ人ノ生命身體ヲ害スル目的ヲ以テ爆
 發物ヲ使用センコトヲ共謀シタルモノナリトノ點ニ付審究スルニ右山口三郎ハ被告人前田虎雄
 ヨリ本件暴動計畫ヲ聞知シテ深ク之ニ感動シ自ら進テ飛行機上ヨリ爆彈ヲ投下シ以テ其ノ舉ニ
 參加センコトノ申出アリタル事實竝ニ被告人ノ多數ハ之ヲ仄聞シ私ニ其ノ實現ヲ期待シ居リタ
 ル事實ハ之ヲ認ムルニ足ルモ被告人等カ同人ト爆發物ヲ使用センコトヲ共謀シタリトノ事實ハ
 之ヲ認ムヘキ證明十分ナラス而シテ右爆發物使用共謀ノ點ハ判示殺人竝ニ放火ノ各豫備ト共ニ
 内亂豫備ニ包括セラルルモノトシテ公訴ニ係ルモノナルカ故ニ此ノ點ニ付テハ主文ニ於テ特ニ
 無罪ノ言渡ヲ爲サス
 以上ノ理由ニ依リ主文ノ如ク判決ス

○毒物劇物營業取締規則違反被告事件

(昭和十六年(れ)第一四八號
 同年四月十二日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 アトム理化學工業株式會社 辯護人 白島正造

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

ツルチンヲ原料トスル人工甘味質ト其ノ販賣

○判決要旨

ツルチンヲ原料トシ之ニ蔗糖若ハ澱粉等ヲ混和シタル人工甘
 味質ハ昭和十一年內務省令第十九號ツルチン及其ノ製劑ニ該
 當シ醫藥用品ノ外之ヲ販賣スルコトヲ得サルモノトス

ツルチン原料トスル人工甘味質ト其ノ販賣

【參照】 明治二十二年法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和十一年内務省令第十九號(藥品營業並藥品取扱規則ニ據ル毒藥劇藥品目) 藥品營業並藥品取扱規則第三十五條ニ據ル毒藥劇藥品目ハ昭和七年内務省令第二十一號第五改正日本藥局方(第二表)毒藥表(第三表)劇藥表ニ掲クルモノ及左ニ掲クル藥品トス

劇藥

(中略)

ヅルチン及其ノ製劑

(中略)

明治四十五年内務省令第五號毒物劇物營業取締規則第一條 本令ニ於テ毒物劇物ト稱スルハ醫藥以外ノ用ニ供セシムル目的ヲ以テ販賣スル毒性又ハ劇性ノ物品ニシテ別ニ指定シタルモノヲ謂フ

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十五條ニ依リ定メラレタル毒藥劇藥ノ品目ニ該當スル物品ニシテ前項ノ指定ヲ受ケサルモノハ醫藥用品(同法第二十六條但書及第二十七條但書ノ場合ヲ含ム)ノ外之ヲ貯藏、陳列、販賣又ハ讓與スルコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ヲ適用シ被告會社ヲ罰金百圓ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタ

ヲ

被告會社ハ化學製品ノ製造販賣業ヲ營ム株式會社ナルトコロ同會社代表取締役鈴木愛之助ハ右會社ノ業務ニ關シ昭和十四年一月頃ヨリ同年十月十日頃迄ノ間數十回ニ互リ大阪府中河内郡龍華町所在ノ右會社工場等ニ於テ山口縣柳井町驛前通林商店外約四十三名ニ對シ藥品營業並藥品取扱規則第三十五條ニ據リ藥トシテ指定セラレ毒物劇物營業取締規則ニ於テ毒物劇物トシテ指定ナキ劇性ノ物品ヅルチンヲ原料トシ之ニ蔗糖若ハ澱粉等ヲ混和シタル其ノ製劑「ワングブリエー」「スーパーエス」合計約八千三百九十函(一函一封度入)ヲ所謂人工甘味質トシテ醫藥用品外ニ販賣シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告會社代表取締役鈴木愛之助ノ判示所爲ハ明治四十五年内務省令第五號毒物劇物營業取締規則第一條第二項明治二十二年法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十五條昭和十一年内務省令第十九號毒藥劇藥品目指定ノ件ニ違反シ被告會社ハ前記毒物劇物營業取締規則第十五條第二項第一項第二十條第一項ニ該當スルヲ以テ所定罰金額ノ範圍内ニ於テ被告會社ヲ罰金百圓ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

辯護人白島正造上告趣意書第一點原判決ハ罪トナラサル事實ニ對シ有罪ヲ認定シタル違法アリ
原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ「被告會社ハ……昭和十四年一月頃ヨリ同年十月頃迄ノ間數

ヅルチンヲ原料トスル人工甘味質ト其ノ販賣

十回ニ互リ大阪府中河内郡龍華町所在ノ右會社ノ工場等ニ於テ山口縣柳井町驛前通林商店外四十三名ニ對シ藥品營業竝藥品取扱規則第三十五條ニ據リ劇藥トシテ指定セラレ毒物劇物營業取締規則ニ於テ毒物劇物トシテ指定ナキ劇性物品ヅルチンヲ原料トシ之ニ蔗糖若ハ澱粉等ヲ混和シタル其ノ製劑「ワンダブリユー」「ストパーエス」合計八千三百九十函（一函一封度入）ヲ所謂人工甘味質トシテ藥用品外ニ販賣シタルモノナリ……法律ニ照スニ……判示所爲ハ明治四十五年內務省令第五號毒物劇物營業取締規則第一條第二項明治二十二年法律第十號藥品營業竝藥品取扱規則第三十五條昭和三十五年內務省令第十九號毒藥劇藥品目指定ノ件ニ違反シトアレトモ右ノ所爲ハ全然罪ヲ構成スルモノニアラスト信ス其ノ理由ヲ左ニ詳述ス第一、毒物劇物營業取締規則第一條第二項ノ「明治二十二年三月法律第十號藥品營業竝藥品取扱規則第三十五條ニヨリ定メラレタル毒藥劇藥品目ニ該當スル物品ニシテ前項ノ指定ヲ受ケサルモノハ醫藥用品ノ外……之ヲ……販賣スルコトヲ得ス」トノ規定ハ毒物劇物ニ關スル一般の原則規定ニシテ絕對的ノモノニアラス即チ明治二十二年三月法律第十號藥品營業竝藥品取扱規則第三十五條昭和十一年內務省令第十九號毒藥劇藥品目指定ノ件ニ依リ劇藥ニ指定セラレタルヅルチン及其ノ製劑ハ原則トシテハ之ヲ醫藥用品以外ニ販賣スルコトヲ得サルハ當然ナレトモ之カ例外トシテ他ノ特別法規ニ於テ醫藥用品以外ニ販賣ヲ認メラルル場合ハ固ヨリ之カ販賣ヲナスコトヲ得ル

モノトス而シテヅルチンハ人工甘味料トシテ製造販賣スル場合ハ人工甘味質取締規則ナル特別規ノ支配ヲ受クヘキモノニシテ即チ同規則第一條ニハ「人工甘味質トハサツカリン（甘精）其ノ法他之ニ類スル化學的製品ニシテ含水炭素ニ非サルモノヲ謂フ」ト定義シ同規則ハ明カニサツカリンニ類スル人工甘味質ニシテ含水炭素ニ非サル化學的製品ヅルチンヲモ包含規束スルコトヲ明示シ居レリ果シテ然ラハ同規則ニハサツカリン又ハヅルチンノ製造販賣ヲ禁スルノ趣旨全然之ナク却テ同規則第三條ニハ「人工甘味質ヲ加味シタル治療上ノ目的ニ供スヘキ食物ヲ販賣セントスル者ハ其ノ氏名及營業所ヲ主タル營業所所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ前項ノ食物ハ醫師ノ證明アル者ニ限り之ヲ販賣授與スルコトヲ得」ト規定シ醫療用トシテノ人工甘味質ヲ加味シタル治療上ノ目的ニ供スヘキ食物藥品ノ販賣ニノミ地方長官ノ許可ヲ要求シ居レル點ヨリ見ルモ治療上ノ目的ニ供セス專ラ調味料ノ目的ニ供スル人工甘味質ニ付テハ何等地方長官ノ許可ヲ要セス其ノ製造販賣ヲ許容セルモノタルコト明確ナリト信ス或ハ人工甘味質取締規則ハ人工甘味質ヲ調味シタル飲食物販賣者ノミヲ律スルノ法規ナリトノ説ヲナスモノアレトモ同規則ハ明カニ人工甘味質取締規則ト稱セラレ人工甘味質ニ付テ全般的ニ規律スヘキ趣旨ヲ明カニシ前掲同規則第一條ニ於テモ人工甘味質其ノモノ全般ヲ取締ルヘキ法意ヲ明記シ居ル次第ニシテ右ノ説ハ採ルニ足ラス而シテ一般藥律ニ對シ人工甘味質取締規則カ特別法ノ地位ヲ有ス

ヅルチンヲ原料トスル人工甘味質ト其ノ販賣

ルヤ否ヤノ疑點ニ付テハ右藥品營業並藥品取扱規則第二十七條ニハ「日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其ノ據ル所ノ外國藥局方名ヲ記載スヘシ其ノ性狀品質該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ製造貯藏陳列又ハ授與スルコトヲ得ス但命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニアラス」ト規定セラレ同規則第二十六條ト共ニ局方適合品以外ハ之ヲ陳列授與スルコトヲ得サル原則ヲ規定シタレトモ但書ニ於テ特別法規ノ存スルコトアル場合之ヲ除外シタル次第ナルカ右ツルチンハ日本藥局方ニ指定ナク獨逸藥局方ニ指定セラレタルモノナルノ結果本來獨逸藥局方所定ノモノニ非サレハ販賣等ナスコト能ハサルヘキ原則ハ人工甘味質ニ付テハ特別規定アルモノトシテ從來獨逸藥局方適合以外ノ品モ同規則ノ範圍内ニ於テ調味料トシテ製造販賣ハ之ヲ許容スヘキモノト解セラレ又取締官憲モ亦此ノ解釋ノ下ニ人工甘味トシテノ製造販賣ヲ認容シ來リタル次第ニシテ人工甘味質取締規則カ一般藥律ニ對シ特別法ノ地位ニアリ又人工甘味質ヅルチンノ製造販賣ハ同規則ニヨリ許容セラレタルコト嚴然タル事實ナリ從ツテ右特別法タルコト並ヅルチンノ特別法ニ基キ製造販賣ノ許容セラレタル事實及其ノ地位ハ其ノ後藥律ノ一般法タル毒物劇物營業取締規則ノ制定毒藥劇藥品目指定等ノ結果ニヨリ左右セラレヘキモノニアフス即チ如斯事例ヲ舉クレハ「イ」ニトログリセリン」ハ毒藥ナレトモ毒物トシテノ指定ナシ然レトモ爆發用業務（醫療以外）ニ使用セラルル場合ハ特別法タル銃砲火藥類取締法及同法施行規則

(同規則第二條同二條ノ二等)同法施行細則(同細則第二十六條ノ六)ノ支配ヲ受ケ全然毒物劇物營業取締規則ノ支配ヲ受ケサルモノナリ若シ夫レ毒物劇物規則カ同物質ニ關スル絶對的ノ法則ニシテ同規則第一條第二項ヲ毒物劇物ニ關スル絶對的の原則ニシテ(特ニ新法)他ノ法規ヲ一切排斥スルモノナリトノ解釋ヲナスナラハ右「ニトログリセリン」ハ如何ナル法規アルモ絶對ニ醫療以外ニ使用スヘカラサルハ當然ノ結論ナルヘキモ如斯ハ現今ノ實際ノ運營ニ反スルモノニシテ其ノ解釋ノ誤レルコト火ヲ賭ルヨリモ明ナリト言フヘシ即チ之ト同様ヅルチンニ付テハ從來藥品營業並藥品取扱規則ノ特別法ノ支配ヲ受クヘキモノトシテ其ノ製造販賣ヲ許シ來リシ(夫レカ例令同規則ニヨリ獨逸藥局方ニ適合セサルモノト雖モ)ト同趣旨ニ於テ特別法タル人工甘味質取締規則ノ範圍内ニ於テ製造販賣シ得ルモノト解セサルヘカラサル證左ナリ(ロ)青酸加里及其ノ製劑ハ毒藥ナリ然レトモ毒物劇物營業取締規則ニヨリ毒物トシテノ指定ナシ從ツテ同規則第一條第二項ヲ絶對的の原則トセハ右品ハ絶對ニ醫療以外ニ使用スヘカラス使用シ得ルコト絶對ニ之アルヲ許ササル結果トナルヘシ然ルニ右青酸加里ハ現今電氣鎔接程塗布料トシテ盛ニ使用セラレツツアリ官民共ニ之ヲ許容シツツアルヲ説明スルコト能ハサルヘシ(ハ)砒素、クロム、カドリウム、銅、水銀、鉛、錫、アンチモニー、ウラニウム、ビクリン酸、デニトクロクレゾール、コラルリン、黄色ゴム等ハ各毒藥又ハ劇藥トシテ指定セルモ毒物又ハ劇物トシテノ指定ナシ

從ツテ之等ノ品ハ醫療用以外ニ絶對ニ使用スヘカラストスルノ結論ニ達セサルヲ得ス然ルニ之等ノ品ハ着色料トシテ盛ニ使用セラレツツアリ之即チ特別法タル有害性着色料取締規則(明治三十三年四月内務省令第十七號昭和五年十月内務省令第三十號改正)(同規則第一條乃至第五條)ノ支配ヲ受ケ今日ニ於テモ毒劇物規則ノ發布以後ニ於テモ醫療用以外ノ着色料(飲食用、衣類、傘ノ骨塗料等)ニ使用ヲ許可セラレ居ルハ謂フ迄モナク同規則ニ對シテ特別法タル着色料規則ノ效力ニ消長ヲ來サス同法カ依然活用セラレ居ルノ結果タルコト勿論ナリ從ツテ本件ヅルチンニ付テモ同様其ノ製造販賣ハ人工甘味質取締規則ニ反セサル範圍内ニ於テ其ノ製造ハ許容セラルヘキモノニシテ結局第二審判決記載ノ事實ハ罪トナラサルモノナルニ原審カ之ニ罰金刑ヲ言渡シタルハ違法ノ裁判ナリト信ス」第二又原判決ハ「ヅルチン」カ昭和十一年七月三日内務省令第十九號毒藥劇藥品目指定ノ件ニ違反シト認定シ居レトモ之レ全然不當ノ認定ナリ右指定ノ件ニハ「ヅルチン」及其ノ製劑」トアリ而シテ我現行法律上製劑トハ醫療ノ目的ヲ以テ爲サレタルコトヲ要素トナスコトハ當然ナリ且御院大正二年十一月二十一日ノ判例ニ於テハ「藥品營業並藥品取扱規則第二十六條及明治四十年内務省令第二十六號ノ規定スルトコロニヨレハ總テ日本藥局方ニ記載シタル藥品ハ前掲省令第一條第二項ニ規定シタル場合ヲ除ク外其ノ性状品質該藥局方ノ所定ニ適合スルモノノ如シト雖モ明治四十五年内務省令第五號毒物劇物營業取締規則

ノ規定スルトコロニヨレハ藥品營業並藥品取扱規則第三十五條ニヨリ定メタル毒藥劇藥品目ニ該當スル物品ナリトスルモ明治四十五年内務省令第六號ニヨリ毒物劇物タル指定ヲ受ケタルモノハ醫藥用外ノ物品トシテ之ヲ販賣シ得ヘシ而シテ既ニ醫藥用外ノ物品トシテ販賣ヲ許容スル以上ハ該物品ハ之ヲ藥物ト認メサル趣旨ナルヲ以テ自ラ日本藥局方ノ所定ニ適合セサルコトヲ妨ケサルハ明白ナリトス「サツカリン」ハ毒物劇物タル指定ヲ受ケサル物品ナリト雖モ又毒物劇物ト指定セラルル物品ニ非サルヲ以テ前陳ノ法意ヲ查覈スルトキハ日本藥局方所定ニ適合セサル性情品質ノ「サツカリン」ニ付テモ之ヲ醫藥用トシテ販賣シタル場合ニ於テハ藥品營業並藥品取扱規則第二十六條第三十九條ノ罪ヲ構成スヘシト雖モ若シ之ヲ工業用即チ醫藥用以外ノ物品トシテ販賣シタル場合ニ於テハ前旨法條違反ノ行爲ナリト言フヲ得ス」ト判示シ藥劑又ハ製劑トハ明カニ醫療用トシテ製造シ販賣シタル物品ヲ指稱スルノ趣旨ヲ明カニシタリ從ツテ前掲昭和十一年内務省令第十九號所定ノ「ヅルチン」及其ノ製劑」トハ醫療ノ目的ニ供セラルヘキ物品(製劑)ナリト言ハサルヘカラサルト同時ニ毒物劇物營業取締規則第一條第二項ノ「毒藥劇藥品目ニ該當スル物品」トハ亦自然單ナル「ヅルチン」又ハ「ヅルチン」ト他ノ物質ノ混合品」ト言フ法意ニアラスシテ製劑即チ醫療ヲ目的トスル物品ナリト謂ハサルヘカラサルハ當然ナリ(昭和十四年十二月一日附大阪府技手上田辰治郎報告書適條參照ヲ乞フ)果シテ然ラハ本

件被告ノ販賣品ハ初メヨリ醫療ヲ目的トセス專ラ調味ノ目的ノ爲メニ「ヅルチン」ニ他物ヲ混和合製シタル物品ニシテ右内務省令第十九號ニ所謂「ヅルチン」ニモアラス又「ヅルチン」ノ製劑」ニモアラス左レハ本件物品カ右省令ノ指定ヲ受ケ居ラサルハ勿論ナルモ又右省令ノ指定ヲ受クヘキ物品ニモアラスナリ果シテ然ラハ本件物品ハ毒物劇物營業取締規則第一條第二項右省令第十九號毒藥劇藥品目ニモ該當セス從ツテ亦毒物劇物營業取締規則第十五條第二項ニモ該當セサルコト當然ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ原審判決ハ第一審證人上田辰治郎ノ供述中「ヅルチン製劑」トハ醫療ノ目的ニ使用セラルルモノモ然ラサルモノモ取締規則ノ上カラハ等シク「ヅルチン製劑」ナリト解釋シ居リ然ラサレハ到底取締ノ目的ヲ達シ得ラレサルモノナル旨ノ記載」ヲ採用シ取締官ノ手都合ニヨル獨斷ヲ旨用シテ以テ被告ニ有罪ノ判決ヲナスニ至リタルハ全ク不法ノ甚敷モノニシテ現今「ヅルチン」カ砂糖不足ノ代用品トシテ重要視サレツツアル國策ニ反スル結末ヲ來サシメントスルハ誠ニ遺憾ノ至リナリト云フニ在レドモ

ヅルチン及其ノ製劑ハ明治二十二年法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十五條昭和十一年内務省令第十九號ニ依リ劇藥ト定メラレ且明治四十五年内務省令第五號毒物劇物營業取締規則第一條第一項ノ指定ヲ受ケザルモノナルヲ以テ同條第二項ニ依リ醫藥用品ノ外之ヲ販賣スルコトヲ得ザルモノナルコト一點ノ疑ナク又明治三十四年内務省令第三十一號人工甘味質取締規則

ハ所論ノ如ク人工甘味質ノ販賣ヲ許容シタルモノニ非ズシテ却テ人工甘味質ヲ販賣ノ用ニ供スル飲食物ニ加味シ又ハ之ヲ加味シタル飲食物ヲ販賣スル等ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スルモノナルコト同令ノ法條ニ照シ明瞭ナリト謂フベク次ニ前示昭和十一年内務省令第十九號ニ所謂ヅルチン製劑トハヅルチンノ性質ヲ變ゼズシテ之ニ他ノ物質ヲ混合シタル製品ヲ謂ヒ必ズシモ所論ノ如ク醫療ノ目的ヲ以テ製造セラレタルモノナルコトヲ要セザルコト昭和十一年内務省令第三十號ガ黃燐及其ノ製劑ヲ毒物トシテ又甘汞及其ノ製劑ヲ劇物トシテ指定シ居ルニ徴シテモ輒ク之ヲ窺知シ得ルトコロトス而シテ原判決ハ要スルニ被告會社代表取締役鈴木愛之助カ同會社ノ業務ニ關シ原判示ヅルチンヲ原料トシテ之ニ蔗糖若ハ澱粉等ヲ混和シタル其ノ製劑「ワンダブリユー」「スーバーエス」合計約八千三百九十函（一函一封度入）ヲ所謂人工甘味質トシテ醫藥用品外ニ販賣シタル事實ヲ認定シタルモノナレバ右ハ原審擬律ノ如キ犯罪ヲ構成スルコト毫モ疑ヲ容ルルノ餘地ナキヲ以テ原判決ハ正當ニシテ論旨孰レモ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事横田麟二關與

○國家總動員法違反輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律
違反被告事件

(昭和十六年(九)第二七五號
同年五月九日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 播摩 憲次

【第一審】 德島區裁判所 【第二審】 德島地方裁判所

○判示事項

絲配給統制規則第三條並纖維製品製造制限規則第二條違反ト
價格等統制令第二條ノ罪

○判決要旨

靴下製造販賣業者カ苟モ價格等統制令所定ノ額ヲ超過シタル
代金ニテ其ノ製造シタル靴下ヲ販賣シタルトキハ同令第二條
ノ罪ヲ構成スヘク該靴下製造用ノ綿絲力絲配給統制規則ニ違
背シ割當票ト引換ニアラスシテ買受ケラレタリトスルモ將又

該靴下販賣ノ際纖維製品製造制限規則ニ違背シ所定ノ検査ヲ
受ケサリシトスルモ之カ爲前段ノ罪ノ成立ニ影響ナシ

【參照】 價格等統制令第二條

價格等ハ昭和十四年九月十八日(以下指定期日ト稱

ス)ニ於ケル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得、但シ閣令ノ
定ムル所ニ依リ價格等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル
場合及本令施行ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際左ノ各號ノ一ニ該當スルモ
ノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 注文生産品ノ價格ニ付生産者カ生産ニ著手シタルモノ
 - 二 其ノ他ノ價格ニ付買主其ノ他ノ支拂者カ目的物ノ引渡ヲ受ケタルモノ
 - 三 運送貨又ハ加工貨ニ付運送人又ハ加工者カ目的物ノ引渡ヲ受ケタルモノ
 - 四 保管料、損害保険料、又ハ貨賃料ニ付支拂者カ履行遲滞ニ在ルモノ
- 前項ノ指定期日ニ於ケル額ハ價格等ノ受領者ニ付テノ額ニ依リ受領者別ニ定
マルモノトシ指定期日ニ爲シタル契約アル場合ハ其ノ契約額(同シ事情ノ下ニ
於テ數種ノ契約アリタルトキハ其ノ最高額)偶々指定期日ニ爲シタル契約ナ
カリシ場合ハ契約ヲ爲シタルベキ額トス
- 價格等ニ付前項ノ規定ニ依ル額ナキ場合ニ於テハ閣令ノ定ムルモノヲ以テ指
定期日ニ於ケル額トス但シ閣令ノ定ムルモノガ判定困難ナル場合ニ於テ價額
等ノ受領者ノ申請アルトキハ行政官廳ニ於テ其ノ額ヲ指示シ其ノ指示額ヲ以
テ指定期日ニ於ケル額トス

絲配給統制規則第三條並纖維製品製造制限規則第二條違反ト價格等統制令
第二條ノ罪

絲配給統制規則(昭和十四年商工省令第七號)第三條 工業者ハ割當票ト引換フルニ非ザレバ其ノ使用スル絲(輸出品又ハ輸出品ノ原料若ハ材料ノ製造ノ爲使用スルモノヲ除ク)ヲ買受クルコトヲ得ズ

昭和十四年一月二十三日商工省告示第十號 絲配給統制規則第一條第一項ノ規定ニ依ル絲左ノ通指定ス

綿絲、カラ紡絲、重量割合ニ於テ一割以上ノ毛ヲ含ム絲、重量割合ニ於テ五分以上ノ機械油脂ヲ含ム紡毛式紡績絲、縫絲、濾過布結縛用絲、漁網仕立用絲、漁具修繕用絲及屑絲ヲ除ク)

ステールブルーアイバー絲(重量割合ニ於テ一割以上ノ毛ヲ含ム絲、落綿絲、再生絲、縫絲、純絲屑絲及金屬箔紙、漆引紙、ラツカー引紙又ハセロファンヲ被覆シタル絲ヲ除ク)

人造絹絲(縫絲、純絲、屑絲、シエニール絲及金屬箔紙、漆引紙、ラツカー引紙又ハセロファンヲ被覆シタル絲)

昭和十四年商工省令第四十六號纖維製品製造制限規則第二條 別表乙號ニ掲グル纖維製品(以下乙號纖維製品ト稱ス)ノ製造ヲ業トスル者ハ纖維需給調整協議會ノ検査ニ合格シタルモノニ非ザレバ其ノ製造ニ係ル乙號纖維製品(本則施行前ノ製造ニ係ルモノヲ含ム)ヲ他ノ物品ノ原料若ハ材料ニ使用シ又ハ之ヲ商工大臣ノ指定シタル者以外ノ者ニ讓渡シ若ハ買入スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ輸出品又ハ輸出品ノ原料若ハ材料トシテ製造シタル纖維製品及前條第三號ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケ製造シタル纖維製品ニ付テハ之ヲ適用セズ

○事實

原審ハ左記ノ如ク事實ノ認定竝ニ法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役四月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ徳島縣板野郡瀬戸町明神字二軒屋二番地ニ於テ國內向靴下製造販賣業ヲ營メルモノナルトコロ

第一 昭和十五年一月頃ヨリ同年六月頃迄ノ間犯意繼續シテ約二十回ニ互リ大阪市東成區片江町四丁目百四十四番地綿絲ブローカー井上泰藏ヨリ同人方等ニ於テ法定ノ除外絲ニアラサル靴下製造用綿絲合計二百三十五ヲ割當票ト引換ニアラスシテ買受ケ

第二 昭和十四年十二月頃ヨリ同十五年六月頃迄ノ間犯意繼續シテ四回ニ互リ前記自宅等ニ於テ高島嘉寛匠原武男ノ兩名ニ對シ自己製造ニ係ル黒小兒靴下等靴下合計千二十二打ヲ價格等統制令所定ノ額ヲ超過シタル代金合計四千九百九十五圓(超過額合計金八百六十一圓七十錢)ニテ販賣シ

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中判示第一ノ所爲ハ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第五條第二條昭和十四年商工省令第七號絲配給統制規則第三條昭和十四年一月二十三日商工省告示第十號刑法第五十五條ニ判示第二ノ所爲ハ國家總動員法第三十三條第六號第十九條價格等統制令第二條刑法第五十五條ニ夫々該當スルヲ

絲配給統制規則第三條並纖維製品製造制限規則第二條違反ト價格等統制令第二條ノ罪

以テ所定刑中各懲役刑ヲ選擇シ右ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ依リ重キ
國家總動員法違反ノ罪ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役四月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人谷原公上告趣意書第一點原審判決ハ法規ノ適用ヲ誤リタル違法アリ被告人ハ靴下製造業
者ニシテ販賣業者ニ非ラス自己ノ製造品ヲ販賣スルハ製造營業當然ノ結果ナリ而シテ其ノ製造
原料ノ配給ヲ統制セラレタル後統制方法運用ノ不正不當ヨリシテ自滅ノ外ナキ情勢トナリタル
爲メ訴外井上泰藏ヨリ綿絲二百三十玉ヲ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律及ヒ之ヨリ
發セラレタル絲配給統制規則所定ノ割當票ト引換ニ非ラスシテ買受ケ之ヲ以テ其ノ營業タル規
格外靴下製造ヲ爲シ其ノ製品ヲ訴外高島嘉寛外一名ニ對シテ賣リ渡シタルモノナルカ故ニ被告
ノ所爲ハ前記原料用綿絲買入行爲カ原審判示ノ如ク輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律
及ヒ之ニ基キ發セラレタル絲配給統制規則ニ依リ擬律セラルルハ當然ナルモ其ノ結果タル製品
ノ賣リ渡シ行爲ヲ獨立シタル犯罪トシテ更ニ國家總動員法ヲ以テ擬律スルハ法規ノ適用ヲ誤リ
タル違法アリト謂ハサル可ラス蓋シ靴下ノ如キ纖維製品ニ付テハ前敍ノ法律ニ基キ商工省令ヲ

以テ纖維製品製造制限規則ナルモノカ發布セラレ被告人ノ如ク纖維製品ノ製造ヲ業トスル者ハ
右規則第二條ニ依リ纖維需給調製協議會ノ検査ニ合格シタルモノニ非ラサレハ其ノ製造ニ係ル
靴下ヲ販賣渡スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ被告人カ右規則第二條ノ乙號纖維製品中ニ含
マルル本件ノ綿莫大小靴下ヲ製造スルニ當リ右規則ヨリ發セラレタル商工省告示ニ纖維製品製
造制限規則第三條ノ規定ニ依リ検査標準ノ件 四號所定ノ綿莫大小靴下ノ規格ニ適合セサル原
審判決ニ所謂規格外品タル靴下ヲ製造ノ上法規所定ノ検査ヲ受ケスシテ販賣シタル行爲ハ當然
前記各法規ノ基本法タル輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律ニ依リ擬律セラルヘキモノ
ナレハナリ若シ原審判決ノ如ク被告人ノ販賣行爲ヲ獨立シタル國家總動員法違反行爲トシテ擬律
スルナラハ被告カ爲シタル靴下製造行爲カ裁判ニ依リテ合法的行爲ト看做サレ其ノ適正品ヲ單
ニ價格等統制令違反ノ販賣ヲ爲シタルモノトシテ處理セラレタル結果ヲ生シ法規ノ解釋運用ヲ
掌ル裁判ノ畛域ヲ逸脱スルカ如キ觀ヲ呈スヘシ最モ被告人ノ爲シタル行爲カ刑法第五十四條ニ
該當スルモノトシテ同法條ヲモ適用セルモノナラハ自ラ別箇ノ見解ニ基ク處斷ナリト言フヲ得
ンモ原審判決ノ然ラサルコトハ其ノ法規適用ノ說示ニ照シ寔ニ明カナリ要スルニ被告人カ業ト
シテ靴下ヲ製造スル目的ノ下ニ割當票ト引換ヘニ非ラスシテ本件ノ靴下製造用綿絲ヲ買ヒ入レ
纖維製品製造制限規則ヲ無視シテ本件ノ靴下ヲ製造シ且ツ他ヘ讓渡シタル行爲ハ被告ノ主觀ニ

絲配給統制規則第三條並纖維製品製造制限規則第二條違反ト價格統等制令

於テハ勿論客觀的ニ觀察スルモ一貫セル靴下製造營業ニシテ斯カル營業行爲ヲ規正スル爲メニ發布セラレタル輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第二條第五條等ニ依リ處斷セラルヘキモノニシテ其ノ結果タル行爲ニツキ獨立シテ國家總動員法ヲ適用スヘキモノニ非ラス若シ強ヒテ之ヲ適用スル要アリトセハ刑法第五十四條ト相俟ツテ始メテ許容セラルヘ筋合ナリ然ルニ事茲ニ出テサル原審判決ハ法令ニ違反セルモノト謂ハサル可ラスト云フニ在レトモ

【要旨】

苟モ所論靴下ヲ價格等統制令所定ノ額ヲ超過シタル價格ニテ販賣シタルトキハ該靴下製造用ノ綿絲ヲ法令ニ違背シテ買受ケタルト否トヲ問ハス又其ノ販賣カ所論法令ニ違背シテ爲サレタルト否トヲ問ハス國家總動員法第三十三條第六號第十九條價格等統制令第二條ニ該當スルモノトシテ罪責ヲ免レサルモノト解スルヲ相當トス原判示第二ニ依レハ被告人ハ國內向靴下製造販賣業者ナルトコロ昭和十四年十二月頃ヨリ同十五年六月頃迄ノ間四回ニ亙リ高島嘉寛外一名ニ對シ自己製造ニ係ル靴下合計千二十二打ヲ價格等統制令所定ノ額ヲ超過シタル代金四千九百九十五圓ニテ販賣シタルモノナルカ故ニ右靴下製造用ノ綿絲ヲ法令ニ違背シ割當票ト引換ニアラスシテ買受又其ノ販賣ニ當リ纖維製品製造制限規則ニ違背シタリトスルモ右第二事實ハ判示法條ニ該當スルモノナルコトハ敍上說示ニ依リ自ラ明ナリトス故ニ原判決カ右法條ヲ以テ之ヲ處斷シタル、洵ニ正當ナリトス又敍上ノ如ク價格等統制令ハ所論法令ニ違背シテ販賣サレタルモノ

ナルト否トヲ問ハス其ノ適用アルモノナルカ故ニ判示第二事實ニ對シ之ヲ適用シタレハトテ之カ爲ニ本件靴下製造行爲カ合法的行爲ト看做サルコトナキハ論ヲ跋タス尙原判決ハ被告人カ所論纖維製品製造制限規則ニ違背シテ靴下ヲ販賣シタル事實ヲ認定シタルモノニアラサルカ故ニ右規則ヲ適用セサリシハ固ヨリ其ノ所ナリトス又法令ニ違背シ割當票ニ依ラスシテ買受ケ其ノ買受ケタル物ヲ原料若ハ材料トシテ製造シタル物ヲ價格等統制令所定ノ價格ヲ超過シタル代金ニテ販賣シタルトキハ右買受行爲ト販賣行爲トハ獨立ノ二罪ヲ構成シ刑法第五十四條ノ牽連一罪ヲ構成セサルモノト解スルヲ相當トスルカ故ニ假ニ判示第二ノ販賣ニ係ル靴下カ判示第一ノ買受ニ係ル綿絲ヲ用ヒテ製造シタルモノナリトスルモ判示第一事實ト同第二事實トハ牽連一罪ヲ構成セサルカ故ニ原判決カ刑法第五十四條ヲ適用セサリシハ洵ニ正當ナリトス要スルニ原判決ニハ所論ノ如キ違法毫モ存スルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事遠藤常壽關與

○國家總動員法違反被告事件 (昭和十六年(九)第三七七號 同年五月十七日第三刑事部判決 破毀差戻)

二九八 (三)

【上告人】 被告人 島崎彌五郎 辯護人 沼田勇三郎

【第一審】 高岡區裁判所 【第二審】 富山地方裁判所

○判示事項

價格等統制令施行後始メテ物品販賣ヲ開業シタル者ト價格等統制令第二條第三項ノ適用

○判決要旨

價格等統制令施行後始メテアルミニウム製品ノ卸賣販賣ヲ開業シタル者ニ對シテハ同令第二條第三項ヲ適用スヘキモノトス

【參照】 價格等統制令第二條 價格等ハ昭和十四年九月十八日(以下指定日)ト稱ス(ニ於ケル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ開令ノ定ムル所ニ依リ價格等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合及本令施行ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一 注文生産品ノ價格ニ付生産者ガ生産ニ着手シタルモノ

二 其ノ他ノ價格ニ付買主其ノ他ノ支拂者ガ目的物ノ引渡ヲ受ケタルモノ
三 運送貨又ハ加工賃ニ付運送人又ハ加工者ガ目的物ノ引渡ヲ受ケタルモノ
四 保管料、損害保険料又ハ賃貸料ニ付支拂者ガ履行遲滞ニ在ルモノ
前項ノ指定日期ニ於ケル額ハ價格等ノ受領者ニ付テノ額ニ依リ受領別ニ定マ
ルモノトシ指定日期ニ爲シタル契約アル場合ハ其ノ契約額(同シ事情ノ下ニ於
テ數種ノ契約額アリタルトキハ其ノ最高額)偶々指定日期ニ爲シタル契約ナカ
リシ場合ハ契約ヲ爲シタルキ額トス
價格等ニ付前項ノ規定ニ依ル額ナキ場合ニ於テハ開令ノ定ムルモノヲ以テ指
定期日ニ於ケル額トス但シ開令ノ定ムルモノガ判定困難ナル場合ニ於テ價格
等ノ受領者ノ申請アルトキハ行政官廳ニ於テ其ノ額ヲ指示シ其ノ指示額ヲ以
テ指定日期ニ於ケル額トス
價格等統制令施行規則第三條第一項 統制令第二條第三項ノ規定ニ依リ指定期
日ニ於ケル價格ノ額ヲ定ムルコト左ノ如シ
一 季節品ニ付テハ最近ノ季節ノ市場價格又ハ之ニ準ズルモノニ付一般物價
ノ變動ヲ參酌シタルモノ

○事實

原審ハ左記事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金四千圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二十圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

價格等統制令施行後始メテ物品販賣ヲ開業シタル者ト價格等統制令第二條第三項ノ適用

二九九

(三)

被告人ハ高岡市横田町百六十三番地ニ於テ大正九年頃ヨリ銅器製品ノ卸賣販賣業ヲ業ミ居タルモ銅器製品ノ入手困難トナルニ及ヒ昭和十四年十二月初旬頃ヨリアルミニウム製品ノ卸賣販賣ヲモ開始スルニ至リタルモノナルトコロ昭和十四年九月十八日ノ指定期日ニ於ケル被告人方ノ右各種製品ノ卸賣販賣契約ヲ爲シタル額又ハ契約ヲ爲シタルヘキ基準價格ハ被告人店渡シ別紙基準價格表記ノ通りナルニ拘ラス被告人ハ得意先又ハ自宅ニ於テ注文ヲ受ケ(一)昭和十四年十月二十九日以降昭和十五年七月十日迄ノ間前後二百七回ニ互リ京都市高辻通柳馬場西入銅器商保野辨次郎外十三名ニ對シ銅器製品花生、薄端、火鉢、瓶掛及風爐等千九百十三點ヲ超過金二千二百六十九圓四十五錢ヲ加ヘタル代金二萬四千二百八十八圓八十五錢ニテ(二)昭和十四年十二月二十六日以降昭和十五年五月二十七日迄ノ間前後四十一回ニ互リ右保野外五名ニ對シアルミニウム製品銅壺、薄端、武者額及花生等千二十五點ヲ超過金五百三十三圓十錢ヲ加ヘタル代金五千六百三十六圓七十錢ニテ(三)口合計二千九百三十八點超過金二千八百二十五圓五十五錢代金總額二萬九千九百七十七圓五十五錢)各卸賣販賣シタルモノニシテ判示事實(一)(二)ハ總テ犯意繼續ニ係リ且行政官廳ノ許可ナク又法定ノ除外事由ナキモノトス法律ニ照スニ判示所爲ハ國家總動員法第十九條價格等統制令第二條國家總動員法第三十三條第六號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金四千圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金二十圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞務場ニ留置スヘキモノトス

而シテ「アルミニウム」製品ノ販賣ニ付テハ昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條同

年商工省令第六十八號同年商工省令第三百三號同年商工省告示第二百八號ニ依リ昭和十三年七月十五日ニ於ケル販賣價格ヲ超エテ販賣スルヲ得サル旨ヲ規定セラレタルトコロ昭和十四年勅令第七百三號價格等統制令(昭和十四年十月二十日ヨリ施行)ニ依リ同令第十九條第四號ニ基キ右物品販賣取締規則ハ廢止セラレタリ然レトモ價格等統制令第二十條ニ依リ同令第二條所定ノ昭和十四年九月十八日ノ指定期日ニ於ケル基準價格ハアルミニウム製品ニ付テハ尙前掲各法規ニ基キ昭和十三年七月十五日現在ノ販賣價格ニ據ルヘキモノナレトモ本件被告人ハ昭和十四年十二月初旬ヨリ始メテ斯ル製品ノ販賣ヲ開始セルモノナルコト前認定ノ如クナルヲ以テ判示(一)ニ掲ケタル被告人ノ所爲ニ付テハ前記アルミニウム製品ノ販賣價格ニ關スル商工省令商工省告示等ヲ適用スヘキモノニアラス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

本件ヲ富山地方裁判所ニ差戻ス

○理 由

辯護人沼田勇三郎上告趣意書第一點一、アルミニウム製品ニ付テハ犯罪ヲ構成セサルコトハ原審判決ニ理由トシテ説明スル通りナリサレハ此ノ點ニ付キ無罪ヲ言渡スヘク又之レニ相當スル罰金刑ヲ輕減セラルヘキハ條理上相當ナルニ拘ハラス毫モ第一審判決ニ比シ輕減セサリシハ違法ナリト謂フニ在リ

價格等統制令施行後始メテ物品販賣ヲ開業シタル者ト價格等統制令第二條第三項ノ適用

仍テ按ズルニ原判決ハ被告人ガ高岡市横田町百六十三番地ニ於テ大正九年頃ヨリ銅製品ノ卸賣販賣業ヲ營ミ居リタルモ銅製品ノ入手困難トナルニ及ビ昭和十四年十二月初旬頃ヨリアルミニウム製品ノ卸賣販賣ヲモ開始スルニ至リタルトコロ法定ノ除外事由ナキニ拘ラズ昭和十四年九月十八日ノ指定期日ニ於ケル被告人方ノ右各種製品ノ卸賣販賣契約ヲ爲シタル額又ハ該契約ヲ爲シタルベキ額ヲ超エテ犯意繼續ノ上(一)昭和十四年十月二十九日以降昭和十五年七月十日迄ノ間前後二百七回ニ互リ京都市高辻通柳馬場西入銅器商俵野辨次郎外十三名ニ對シ銅製品花生薄端火鉢瓶掛及風爐等千九百十三點ヲ超過額金二千二百六十九圓四十五錢ヲ加ヘタル代金二萬四千二百八十圓八十五錢ニテ(二)昭和十四年十二月二十六日以降昭和十五年五月二十七日迄ノ間前後四十一回ニ互リ右俵野外五名ニ對シアルミニウム製品銅壺薄端武者額及花生等千二十五點ヲ超過額金五百三十三圓十錢ヲ加ヘタル代金五千六百三十六圓七十錢ニテ各卸賣販賣シタル事實ヲ確定シ右所爲ハ國家總動員法第十九條價格等統制令第二條國家總動員法第三十三條第六號刑法第五十五條ニ該當スルモノト斷ジ尙アルミニウム製品ノ販賣ニ付テハ昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條同年商工省令第六十八號同年商工省令第百三號同年商工省告示第百八號ニ依リ昭和十三年七月十五日ニ於ケル販賣價格ヲ起エテ販賣スルヲ得ザル旨ヲ規定セラレタルトコロ昭和十四年勅令第七百三號價格等統制令(昭和十四年十月二十日

ヨリ施行)ニ依リ同令第十九條第四號ニ基キ右物品販賣價格取締規則ハ廢止セラレタリ然レドモ價格等統制令第二十條ニ依リ同令第二條所定ノ昭和十四年九月十八日ノ指定期日ニ於ケル基準價格ハアルミニウム製品ニ付テハ尙前掲各法規ニ基キ昭和十三年七月十五日現在ノ販賣價格ニ據ルヘキモノナレドモ本件被告人ハ昭和十四年十二月初旬ヨリ始メテ斯カル製品ノ販賣ヲ開始セルモノナルコト前認定ノ如クナルヲ以テ判示(二)ニ掲ケタル被告人ノ所爲ニ付テハ前記アルミニウム製品ノ販賣價格ニ關スル商工省令商工省告示等ヲ適用スベキモノニアラズト説明シタルモノナリ由是觀之原判決ハ被告人ガ昭和十四年十二月初旬ヨリ卸賣販賣ヲ開始スルニ至リタルアルミニウム製品ニ付テハ同年九月十八日ノ指定期日ニ於テ其ノ卸賣販賣契約ヲ爲シタルベキ額ヲ基準價格ナリト認定シタルモノニシテ右基準價格ヲ定ムルニ付テハ價格等統制令第二條第一、二項ノミヲ適用シ同令第三項ハ之ヲ適用セザリシモノト解スルヲ相當トスベク從ツテ判文ニ單ニ同令第二條ト表示シタルハ實ハ同條第一、二項ノミヲ指稱シ同令第三項ハ之ヲ包含セザル趣旨ナリト解セザルベカラズ然レドモ價格等統制令第二條第二項末段ニ所謂偶々指定期日ニ爲シタル契約ナカリシ場合トハ現ニ爲シ得ベカリシ契約ガ偶然ノ事情ニ據リ指定期日ニ於テ爲サレザリシ場合ヲ指稱シ從ツテ業者ニ於テ指定期日ニ現ニ當該營業ヲ爲シ居リ之ニ依ル契約ヲ爲シ得ベキ狀況ニ在リタルコトヲ前提トスルモノト解スルヲ相當トスルヲ以テ本件ニ於ケ

【要旨】

價格等統制令施行後始メテ物品販賣ヲ開業シタル者ト價格等統制令第二條第三項ノ適用

ルガ如ク其ノ後昭和十四年十二月初旬ニ至リ始メテアルミニウム製品ノ卸賣販賣ヲ開業シタル
 場合ニアリテハ基準價格ニ付右條項ヲ適用スベキニハアラズシテ同條第三項ニ依リ價格等ニ付
 同條第二項ノ規定ニ依ル額ナキ場合トシテ昭和十四年閣令第十三號價格等統制令施行規則第三
 條第一項ノ定ムルモノヲ以テ指定期日ニ於ケル額ト爲スベキモノトスサレバ原判決ガ判示アル
 ミニウム製品ノ卸賣販賣ノ規準價格ニ付前敍説明ノ如ク價格等統制令第二條第一、二項ノミヲ
 適用シ同條第三項ヲ適用セザリシハ法令ニ違反スルモノト謂ハザルベカラズ而モ前示ノ如ク價
 格等統制令第二條第三項ニ基キ價格等統制令施行規則第三條第一項ヲ適用セムガ爲ニハ當然本
 件アルミニウム製品ノ指定期日ニ於ケル市場價格等ヲ明ニセザルベカラザルコトナルヲ以テ
 右ノ法令違反ハ結局事實ノ確定ニ影響ヲ及ボスベキモノナリト謂フベク原判決ハ右(一)ノ所爲
 ハ判示(一)ノ所爲ト連續犯ノ關係アルモノトシ此等ヲ一罪トシテ處斷シタルモノナレバ原判
 決全部ハ此ノ點ニ於テ到底破毀ヲ免レズ從ツテ論旨ハ此ノ點ニ關シ結局其ノ理由アルモノトス
 右説明ノ如クナルヲ以テ爾餘ノ上告論旨ニ對スル説明ヲ省略シ尙本件ハ當院ニ於テ事實ノ審理
 ヲ爲スヲ適當ナラズト認ムルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ノ二第一項ニ則
 リ主文ノ如ク判決ス

檢事横田麟二關與

○國家總動員法違反被告事件(昭和十六年(九)第三七八號 同年五月二十日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 三島壽夫 辯護人 松本梅太郎

外二名

【第一審】 西條區裁判所 【第二審】 松山地方裁判所

○判示事項

指定價格ノ變更ト新舊比照ノ要否

○判決要旨

國家總動員法並ニ之ニ基ク勅令其ノ他ノ命令ニ於テ指定價格
 ノ變更アリタル場合ニ其ノ變更前ニ爲サレタル犯行ニ付テハ
 變更後ニ於テモ新舊法ノ比照ヲ爲サスシテ行爲時法ヲ適用ス
 ヘキモノトス

指定價格ノ變更ト新舊比照ノ要否

【參照】 國家總動員法第十九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ、勅令ノ定ムル所ニ價格、運送賃、保管料、保險料、貨賃料、又ハ加工賃ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

同第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

六 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

價格等統制令第七條 前二條ニ規定スル場合ヲ除クノ外行政官廳閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等(有價證券ノ價格及貨賃料ヲ除ク以下同シ)ノ額ヲ指定シタルトキハ第二條乃至第四條ノ規定ニ拘ラズ其ノ額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ指定ハ指定實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際第二條第一項備書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

刑法第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人三島壽夫ヲ罰金五百圓ニ同眞鍋春松ヲ罰金三百圓ニ同戸田好春ヲ罰金二百圓ニ處ス(各勞役場留置ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタ

被告人壽夫ハ甘酒製造販賣業ヲ營ミ同春松同好春ハ甘酒卸業ヲ兼業シ居ルモノナルトコロ被告人壽夫ヨリ昭和十四年九月十八日被告人春松同好春ニ卸賣セシ甘酒ノ販賣價格ハ一合壘詰一本(但シ中味ノミノ價格以下同シ)金三錢ナリシヲ以テ壽夫ト春松、好春間ニ於テハ右價格ヲ超ヘテ之カ卸賣及賣買契約ヲ爲シ代金ノ授受ヲ爲スコトヲ得サルニ拘ラス法定ノ除外事由ナクシテ

第一 被告人三島壽夫ハ

(イ) 昭和十五年四月頃ヨリ同年七月頃迄ノ間前後數十回ニ互リ被告人春松ノ肩書居宅ニ於テ同人ニ對シ甘酒一合壘詰合計二萬七百六十二本ヲ一本金四錢五厘ノ割合ニテ卸賣シ其ノ都度其ノ場ニ於テ之カ代金九百三十四圓二十九錢ヲ受領シ

(ロ) 同年四月頃ヨリ同年七月頃迄ノ間前後數十回ニ互リ被告人肩書居宅ニ於テ被告人好春ニ對シ甘酒一合壘詰合計一萬二千六百六十五本ヲ一本金四錢五厘ノ割合ニテ卸賣販賣シ其ノ都度其ノ場ニ於テ之カ代金五百四十七圓四十二錢五厘ヲ受領シ

第二 被告人春松ハ昭和十五年四月頃ヨリ同年七月頃迄ノ間前後數十回ニ互リ被告人肩書居宅ニ於テ被告人壽夫ヨリ甘酒一合壘詰合計二萬七百六十二本ヲ一本金四錢五厘ノ割合ニテ買受ケ其ノ都度其ノ場ニ於テ之カ代金合計九百三十四圓二十九錢ノ支拂ヲ爲シ

第三 被告人好春ハ昭和十五年四月頃ヨリ同年七月頃迄ノ間前後數十回ニ互リ被告人肩書居宅ニ於テ被告人壽夫ヨリ甘酒一合壘詰合計一萬二千六百六十五本ヲ一本金四錢五厘ノ割合ニテ買受ケ其ノ都度其ノ場ニ於テ之カ代金合計金五百四十七圓四十二錢五厘ノ支拂ヲ爲シ

指定價格ノ變更ト新舊比照ノ要否

タルモノニシテ被告人等ノ右各所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルモノナリ
 法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ孰レモ國家總動員法第十九條價格等統制令第二條第一項本文國家總動員法
 第三十三條第六號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額簿圍内ニ於テ被告人
 等ヲ夫々主文掲記ノ罰金ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ被告人壽夫同春松ニ
 對シテハ金十圓ヲ一日ニ同好春ニ對シテハ金八圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノト
 ス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人松本梅太郎上告趣意書第三點原判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ國家總動員法第十九
 條及ヒ同法第三十三條ハ所謂空白刑法ノ一種ニシテ其ノ罰則ノ内容タルヘキ罪トナルヘキ事實
 ハ價格等統制令殊ニ同令第二條及ヒ同令第七條ニ依ツテ行政官廳閣令ノ定ムル所ニ依ル當該官
 廳ノ價格指定處分ニ依リ決定スルモノナルコトハ同法令ニ依リ明カナリ而シテ本件ハ昭和十五
 年四月頃ヨリ同年七月頃迄ノ犯罪ナルコト右記事實ニ依リ明カナリ即チ本件犯罪當時ハ罪トナ
 ルヘキ事實ハ右價格等統制令第二條ニ依リ昭和十四年九月十八日現在ノ被告人等間ノ甘酒一合

壘詰一本金三錢也ノ價格カ犯罪構成ノ分岐點トナリ同價格以上ノ賣買ハ即チ犯罪構成要件ヲ爲
 シ之ニ該當シタル爲メ(四錢五厘ニ値上ケシタル爲メ)檢舉セラレタルモノナリ然ルニ右事件
 進行中タル昭和十五年九月二十日右價格等統制令第七條ニ依ル行政官廳閣令ノ定ムル所ニ依リ
 當該官廳タル愛媛縣知事ノ公定價格ノ指定(一合十五錢ト指定サレタルハ記録添附縣公報ニ依
 リ明カナリ)ニ依リ甘酒一合壘詰金四錢五厘ハ適法トナレリ是依觀之ニ犯罪當時ノ法令タル令
 第二條ノ犯罪構成要件ハ昭和十五年九月二十日令第七條及ヒ知事ノ公定價格ノ指定ニ依ル犯罪
 構成要件ニ變更セラレタルモノニシテ即チ犯罪後ノ法律ニ依リ刑ノ變更在リタルトキニ該當ス
 ルモノナリト思料ス只問題トナルハ刑法第六條ノ犯罪後ノ法律ニ因リトハ或ル法律カ他ノ法律
 ニ依リ變更サレタル場合或ハ其ノ法律ノ消滅ノ場合ノミヲ指スモノニ非ス尠クトモ犯罪當時ハ
 處罰サルヘキ行爲カ其ノ後最終判決確定ニ至ル迄ノ間ニ於テ刑ノ變更アレハ其ノ輕キニ依ル可
 キコトハ多言ヲ要セサルナリ殊ニ本件ハ限時法ニ關スル令第十八條但書ニ該當スヘキモノニ非
 サルコトハ價格等統制令ノ施行(效力)期間後ノ問題ニ非サレハ殆ント多言ノ要ナキナリ然ル
 ニ原審ハ右刑法第六條及ヒ刑事訴訟法第三百六十三條ニ該當ノ本件犯罪ニ對シ敢テ同法ヲ適用
 セス被告人等ヲ罰金(有罪)ニ處シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノトス(昭和十三年十月二十
 九日御院第五刑事部判決集第一七卷第二二號御參照)ト云フニ在レトモ

指定價格ノ變更ト新舊比照ノ要否

【要旨】 輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律並ニ其ノ委任ニ基ク勅令其ノ他施行命令タル省令告示等ノ法規ニ改廢アリタル場合ニ其ノ改廢前ニ爲サレタル犯行ニ付テハ改廢後ニ於テモ尙新舊法ノ比照ヲ爲サスシテ依然行爲時法ヲ適用シテ處斷スヘク殊ニ指定物品ノ販賣價格ノ如キハ當然販賣當時ニ於ケル指定價格ヲ規準トシテ其ノ適正ナルヤ否ヲ決スヘキモノナルコトハ當院ノ判例トスル所(昭和十五年(れ)第一九一號同年七月一日判決、同年(れ)第一一號同年同月十八日判決、同年(れ)第二三一號同年同月同日判決參照)ニシテ斯ノ理ハ戰時又ハ事變ニ際シ人的及物的資源ノ統制運用ニ備フルコトヲ目的トシテ制定公布セラレタル國家總動員法並ニ之ニ基ク勅令其ノ他ノ命令ニ付テモ亦同一ニ解スヘク彼此其ノ解釋ヲ二三ニスヘキニ非サルコトハ兩者カ規定ノ趣意精神ヲ同フシ又其ノ種類性質ヲ異ニセサルニ鑑ミ疑ヲ容レサル所ナリトス從テ本件ニ於テ被告人等カ昭和十五年四月頃ヨリ同年七月頃迄ノ間ニ當時ノ指定販賣價格ヲ超エテ甘酒ノ賣買ヲ爲シ且其ノ代金ヲ授受シタルコト判示ノ如クナル以上其ノ後ニ至リ指定販賣價格ノ變更セラレタルコト所論ノ如シトスルモ尙行爲時法ニ從ヒ犯行當時ノ指定販賣價格ニ依リ賣買ノ當否ヲ決スヘキコト當然ナルカ故ニ原審カ判示ノ如キ擬律ヲ以テ被告人等ヲ處斷シタルハ相當ナリト云フヘク原判決ニハ所論ノ如キ違法ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事吉弘基彦關與

○竊盜被告事件 (昭和十六年(れ)第四一〇號 棄却)
(同年五月二十二日第一刑事部判決)

【上告人】 原審辯護人 對馬桑太郎
 被告人 工藤定逸 辯護人(對馬桑太郎
 中村豐司)

【第一審】 弘前區裁判所 【第二審】 青森地方裁判所

○判示事項

立木竊盜既遂ノ時期

○判決要旨

立木ノ竊盜ハ之ヲ伐採シタルトキ既遂トナル

【參照】 刑法第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年

立木竊盜既遂ノ時期

以下ノ懲役ニ處ス

同第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得
但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

三一三 (甲)

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六月ニ處シ未決勾留日數中二十日ヲ本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十五年十一月二十五日頃材木商相澤卯吉ニ對シ同人カ弘前市ヨリ拂下ヲ受ケタル同市西茂森町一號線道路地内ノ杉立木四十三本ノ伐採方ヲ請負ヒ柚夫相馬藤次郎等ヲ使用シテ之カ伐採ニ從事シ居タルモノナルトコロ金錢ニ窮シタル結果附近ニ生立スル他ノ立木ヲ盜伐センコトヲ企テ犯意ヲ繼續シテ同年十二月五日頃ヨリ同月八日頃迄ノ間數回ニ瓦リ情ヲ知ラサル右相馬藤次郎外二名ヲシテ前記地内ニ生立セル弘前市所有ノ杉立木七本(價格合計金約三百一圓相當)ヲ伐採セシメ以テ之ヲ竊取シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百三十五條第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定期限範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ當審ニ於ケル未決勾留日數中二十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人對馬桑太郎同中村豊司上告趣意書第三點假リニ被告人ノ所爲ハ竊盜ナリトスルモ七本ノ中後ノ二本ハ警察官ノ活動ニ依リ自己ノ所持内ニ未タ移ラサリシモノナルヲ以テ未遂罪ニ該當ス(被告人警察聽取書(十五問)残りノ二本ハ其ノ後伐リ次第齋藤ニ賣却スル心算テ八日ニ柚夫ニ云ヒ付ケテ伐ラセテ居ル中ニ御署刑事サンニ發見サレタ爲メ其ノ儘現場ニ有ル筈テス(記錄一二七丁以下)(被告人原審公判調書)(問)スルト被告人ハ残りノ二本ヲ何ウシタカ(答)伐採シタ現場ニ其ノ儘ニシテ置キマシタ果シテ然リトセハ原審カ之ニ對シテ刑法第四十三條ノ規定ヲ適用セサリシハ法令ニ違反スルモノニシテ原判決ハ此ノ點ヨリスルモ破毀ヲ免カレサルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

立木ヲ竊取セントシテ伐採シタルトキハ此ノ時ニ於テ既ニ犯人ノ現實ノ實力支配下ニ置カレ其ノ所持ヲ取得シタルモノナルカ故ニ竊盜ノ既遂ヲ以テ目スヘク之ヲ他ニ搬出スル等ノ處分行爲アルヲ要スルモノニアラス記錄ニ徵スルニ本件杉立木七本ハ總テ伐採セラレ内五本ハ既ニ他ニ賣却搬出シ二本ハ本件發覺當時未タ現場ニ殘置セラレアリタルコトヲ知ルニ足レリト雖右二本ニ付テモ竊盜既遂ヲ以テ律スヘキコト上敍説明ニヨリ明ナリ之ト同旨ニ出テタル原判決ノ事實ノ判示竝ニ法律適用ハ洵ニ相當ニシテ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルニヨリ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與佐次郎關與

○疑義申立事件(昭和十六年(刑)第一號
同年五月二十三日第四刑事部決定 棄却)

【申立人】 釣澤太一郎

○判示事項

上告判決ノ理由ト疑義ノ申立

○決定要旨

上告判決ノ理由ニ對シテハ大審院ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ
得サルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第五百六十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判ノ解釋ニ付疑ア
ルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

○事實

申立人ハ同人ニ對スル國家總動員法違反被告事件ニ對スル上告棄却ノ裁判ニ關シ後掲理由ノ下
ニ疑義ノ申立ヲ爲シタリ

○主文

本件申立ハ之ヲ棄却ス

○理由

本件疑義申立ノ理由トスル所ハ一、上告シタル第二審判決(原判決)ハ(一)係争ジヨウゼット四
匁半付幅三〇吋三六吋四五吋長五〇碼ノモノノ價格ハ昭和十四年石川縣告示第九號第二百二
十一號ニ據ルヘク之ハ價格等統制令第二十一條ヨリ遡ツテ同令第七條第一項ノ價格トナリ(二)
幅二九吋三吋三二吋ノモノノ價格ハ昭和十三年商工省告示第二百八號昭和十四年同第四十七
號ニ據ルヘク價格等統制令第二十條ヨリ遡ツテ同令第二條第一項ニ至ル各違反ナルコトヲ判決
シタリ此ノ判決ニ對シ申立人ノ辯護人村井清造上告趣意書第二、三點ハ(一)昭和十三年商工省
今第五十六號物品販賣價格取締規則第一條ニ基ク同十三年同省告示第二百八號昭和十四年同省
告示第四十七號ヨリ右統制令第二十條延イテ同令第二條第一項ニ至ル各規定ハ價格停止ナルカ
故ニ其ノ後昭和十四年十二月二十九日ニ至リ商工省ハ同統制令第七條ヲ發動シ之ニ基キ所謂昭
和十四年同省告示第三百八十六號公定價格ヲ設定シタタメ(以下新告示ト略稱ス)此ノ新告示ニ

上告判決ノ理由ト疑義ノ申立

アル幅二九吋長五〇碼ノモノ殊ニ四匁半付幅三六吋長五〇碼ノモノハ此ノ新告示ニ據リ價格ヲ定ムヘキテアル(二)而シテ幅三〇吋三二吋長五〇碼ニシテ新告示ノ表定規格ニ合致セサル當然ノ「不合格ナルモノ」テモ新告示ニハ「二、前項ノ規格検査ニ不合格ノモノノ價格ハ當該規格番號ノモノノ價格ノ一割五分下ケトス」ト言フ例外規定アルカ故ニ幅長匁付(量目)カ告示ニ合致シ又ハ合致セス若クハデニール密度等構造諸般ニ於テ不合格ノモノト雖モ該告示ノ價格ニ換算則チ按分計算スルコトカ可能テアリ且被告人ハ證第一號帳簿記載ノ通り右換算ニ依リ價格ヲ遞減シ販賣シタルヲ以テ前記原判決ノ法律ノ解釋適用カ誤謬テアル旨強調シタルテアル然ルニ御院判決ニハ「價格等統制令第二十一條ニ依リ石川縣告示第八百八十號同第九號ノ指定價格ハ價格等統制令第七條第一項ノ價格指定ト看做サルヘキモノニシテ昭和十四年商工省告示第三百八十六號ハ日本絹織物工業組合聯合會等ノ規格検査ニ合格シタモノノ價格ナルカ故ニ之ニ該當セサル本件ハ該告示ニ據ルヘキモノニアラス從ツテ亦右石川縣告示ニ該當セサルモノハ物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年商工省告示第二百八號昭和十四年商工省告示第四十七號ノ價格ニ據ルヘキモノトス」ト判決セラレタ右新告示ノ價格記載ハ日本絹織物工業組合聯合會等ノ規格検査ニ合格シタルモノノ價格記載ナルコトハ敢テ判示ヲ要セヌ所テアルカ右判文中「之ニ該當セサル本件ハ」云々トアルハ抑モ如何ナル意味ナルカ即チ(イ)本件販賣品ハ規

格ニ於テ悉皆右新告示ニ該當セスト言ハレルノカ若シ然リトスルナラハ幅二九吋三六吋長五〇碼殊ニ四匁半付ノモノハ右新告示ニ明掲サレアルニ拘ハラス何故之ニ該當シナイカ(ロ)又被告人ノ勤務スル本郷健太郎商店ノ絹織物販賣ニハ右新告示カ適用サレストノ解釋ニ出テラレタモノトスルナラハ右新告示ニハ何等左様ナ除外又ハ例外規定ナク判示不可解テアル又幅三一吋三二吋三〇吋長五〇碼ノモノハ右新告示ニ明掲サレナイカ該告示ニハ前述ノ一割五分下ケノ例外規定アリ按分計算ハ不可能ニ非ス且本件ハ申立人カ前述按分計算ニ依リ販賣シタルコトハ證第一號帳簿ニ記載アリ右各上告趣意書ノ強調スル所ナルニ拘ラス何故此ノ例外規定ニ言及スルコトヲ避ケラレタカ(ハ)本件ジョウゼツト販賣價格ハ(生産者モ元賣業者モ卸賣業者モ)凡テ統制上右新告示ニ據ルヘキモノテアルトノ論旨ニ對シテハ之ニ該當セスト云フニハ何故該當セス又ハ何故右新告示ニ據ル能ハサルカノ判示カナケレハ裁判ニナラヌト思フ(ニ)殊ニ原判決カ昭和十三年商工省告示第二百八號昭和十四年同告示第四十七號ニ付テ價格等統制令第二十條ヲ適用シタルニ對シ前記上告趣意書ハ右停止價格ハ前述新告示カ同統制令第七條第一項ニ基キ發布セラレタルニ因リ停止ヲ離レ新公定價格トナルコトヲ主張シタルニ拘ラス御院判決ハ何故右第二十條ヲ中心トスル法律關係ニ付テ判斷ヲ避ケラレタカ右判文上「物品販賣價格取締規則第一條昭和十三年商工省告示第二百八號昭和十四年商工省告示第四十七號ノ價格ニ據ル」ト言ハレタ

カ若シ然リトセハ此ノ價格ハ即チ統制令第七條第一項ノ發動ニ依リ前記新告示公定價格トナルニ歸著スヘキテハナイカ何故此ノ法律關係ヲ明示セラレナカツタノテアラウカ右(イ)(ロ)(ハ)(ニ)各點ハ被告人ノ販賣行爲ニ對スル適用法條如何ノ中心點テアリ前記上告論旨ノ中核テアリ又以テ過去現在及將來業者ノ適從スル所ヲ知ラシムヘキトココテアル然ルニ之ニ對スル御院ノ判示ヲ會得スル能ハス御院判決ハ刑事訴訟法第四百三十四條所定ノ上告趣意書ニ包含スル事項ヲ審判セサル違法アリト信スルモノテアル二、次ニ申立人ノ辯護人鈴木義男、石川忠義上告趣意書第一、二點ハ原判決カ規格外ト言ヘルジョウゼツトハ判示ノ如ク昭和十四年商工省告示第四十七號ニ據ルヘキモノニ非スシテ昭和十四年石川縣告示第二百十二號ニ據ルヘク同號告示ニハ「一、本表各品種及銘柄中不合格及缺點物ハ練目百匁ニ付五十錢下ケノ價格トス」トノ例外規定アルコトヲ主張シ法律適用ヲ論シタルニ對シ御院判決カ「原判示第二ノ事實ハ石川縣告示第二百九號第二百十二號ニ該當セサルヲ以テ之ヲ適用スヘシトスル論旨ハ當ラス」ト言ハレタルモ其ノ意ヲ解スル能ハサルノミナラス御院昭和十五年(レ)第一四三二號昭和十六年二月二十七日第二刑事部言渡判決カ勿付時幅等カ石川縣告示第九號ニ該當セサルモノト雖モ按分計算ニ依リ該告示ニ據リ價格ヲ定ムヘキモノナリトノ法令解釋ヲ判例トナサレ且又現ニ御院第二刑事部ニ繫屬中ノ被告人村田與三助ニ係ル石川縣ジョウゼツト四匁半付幅三一時二九分二五時ノ

モノハ石川縣告示第九號第八百八十號ニ該當セサルニ拘ハラス之等告示ヲ適用シアリ獨リ本件ニ於テノミ右同種品ニ付明カニ相背馳スル判示ノ下ニ上告ヲ棄却セラレ經濟統制法令ニ關スル判例統一セス同一販賣同種物品ノ統制法ニ付テ吾々國民カ裁判ニ徵スルモ右ノ如ク適從統一ヲ期シ難キコトハ經濟統制下ニ於ケル法律生活ニ多大ノ不安ヲ感セサルヲ得ス政府ノ經濟統制モ亦自ラ不統一ナラサルヲ得ナイテアラウト信スル次第ニシテ相當御垂示アランコトヲ懇願スルト共ニ前判決御取消ヲ期待仕候而シテ裁判ニ對スル疑義申立ハ主文ニ限ルトノ解釋ハ御院過去ノ判例ナルモ判決理由ニ於ケル法令ノ說示カ右本件ノ如ク國民生活ノ指針ニ關スルトキ宜シク判例ヲ變更シ本申立御採擇被下度候ト云フニ在レトモ

刑事訴訟法第五百六十一條ニ所謂裁判ノ解釋ニ付疑アルトキトハ判決主文ノ趣旨明瞭ナラス其ノ解釋ニ付疑義ノ存スル場合ノ義ニシテ本件疑義申立ノ理由トスル所ノ如ク其ノ主文ノ由テ來レル判決ノ理由ニ關シ疑義アル場合ヲ指稱スルモノニ非サルコトハ夙ニ本院ノ判例トスル所ニシテ今之ヲ變更スヘキ何等ノ理由ナキノミナラス右法條ニ依レハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判ノ解釋ニ付疑アルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ本件ニ於ケルカ如ク其ノ申立人タル被告人ノ上告ヲ棄却シタル大審院ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ非サルカ故ニ本院ニ對シテ疑義ノ申立ヲ爲シ得サルハ勿論ナリ然レハ右何レノ點ヨリ觀

ルモ本件疑義ノ申立ハ不適法トシテ棄却スヘキモノトス
仍テ刑事訴訟法第五百六十四條ニ則リ主文ノ如ク決定ス
檢事佐々波與佐次郎關與

○國家總動員法違反被告事件

(昭和十六年(れ)第四七〇號
同年六月三日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 金森常太郎 辯護人 (生駒武彦
野村千足)

【第一審】 松江區裁判所 【第二審】 松江地方裁判所

○判示事項

昭和十四年十一月九日農林商工省告示第十號ノ趣旨

○判決要旨

昭和十四年十一月九日農林商工省告示第十號ハ日常取引ニ於
ケル販賣價格ヲ指定シタルモノニシテ其ノ指定ニ係ル木炭ノ
價格ハ獨リ木炭業者ニ對スル販賣ノミニ限ラス一般消費者ニ
對スル販賣ニ付テモ規準ト爲スヘキモノトス

受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ指定ハ指定實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際第二條第一項但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金四千圓ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ木炭ノ移出商ヲ營ミ居レル者ナルトコロ價格等統制令第七條ニ依ル昭和十四年十一月九日農林商工省告示第十號ヲ以テ島根縣產木炭ノ產地最寄驛貨車乘渡價格指定セラレ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス右禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スヘカラサルニ拘ラス犯意ヲ繼續シテ被告人ノ肩書居宅店舖ニ於テ

第一 昭和十五年二月二日頃東京市豊島區西巢鴨四丁目四百四番地千原七藏ニ對シ木炭三百三十四俵ヲ產地最寄驛貨車乘渡ニテ販賣スルニ際シ前示禁止ヲ免ルル目的ヲ以テ木炭一俵ニ付金二十錢宛合計金六十六圓八十錢ヲ「プレミアム」トシテ同人ヨリ受領シ其ノ頃右數量ノ木炭ヲ同人ニ引渡シ

第二 同年三月四、五日頃横濱市神奈川區神奈川通り六丁目二百四番地合名會社北村商店ノ代表社員北村勝五郎ヨリ「同會社東京芝浦電氣株式會社、日本鑄造株式會社」各會社ニ對シ木炭ヲ賣却セラレタキ」旨交渉ヲ受ケ其ノ賣買ニ於テ一俵ニ付金二十五錢宛定價格ヲ超エテ「プレミアム」ヲ附スルコトヲ合意シ同年三月六日ヨリ同年五月三十日迄ノ間ニ八回ニ右北村商店ニ對シ木炭二千三百三十四俵同年四月十四日ヨリ同年五月

七日迄ニ十回ニ芝浦電氣株式會社ニ同二千七百九十九俵ヲ、同年四月二十一日ニ二回ニ日本鑄造株式會社ニ四百四十四俵ヲ產地最寄驛貨車乘渡ニテ賣渡シ前同様ノ目的ヲ以テ同年三月四、五日頃ヨリ同年四月十七、八日頃迄ノ間ニ「プレミアム」ノ前渡トシテ北村ヨリ金三百圓宛五回合計金千五百圓ノ送金ヲ受ケ内金千三百四十四圓二十五錢「プレミアム」トシテ取得シ

第三 同年四月二十日頃滋賀縣大津市上北國町昭和工業株式會社代表者取締役徳島貞三良ヨリ木炭ノ買受方交渉ヲ受ケ同年七月二十日頃迄ノ間ニ三回ニ互リ同會社ニ對シ木炭千三百五十六俵ヲ產地最寄驛貨車乘渡ニテ販賣スルニ際シ前示禁止ヲ免ルル目的ヲ以テ其ノ頃公定價格ニ依ル正當代金ノ外ニ「プレミアム」トシテ木炭一俵ニ付金十五錢宛合計金二百三圓四十錢（第一回八十三圓八十五錢、第二回六十三圓三十錢、第三回五十六圓二十五錢）ヲ同會社ヨリ受領シ

第四 昭和十五年五月二、三日頃東京市品川區大崎本町二丁目四百一番地吉岡紀太郎ヨリ木炭ノ買受方交渉ヲ受ケ前記禁止ヲ免ルル目的ヲ以テ公定價格ノ正當代金ノ外ニ木炭一俵ニ付金二十五錢ノ「プレミアム」ヲ附スルコトヲ合意シ同年六月六日頃ヨリ同年六月二日頃迄ノ間ニ同人ニ對シ木炭三千四百四十七俵ヲ產地最寄驛貨車乘渡ニテ賣渡シ同年五月二、三日頃ヨリ同年同月二十日頃迄ノ間ニ三回ニ互リ「プレミアム」ノ前渡トシテ吉岡ヨリ合計金千圓（第一回五百圓、第二回三百圓、第三回二百圓）ノ送金ヲ受ケ内金八百六十一圓七十五錢ヲ「プレミアム」トシテ取得シ

第五 同年五月十日頃神奈川縣川崎市元木七十二番地小林傳次郎ヨリ木炭ノ買受方交渉ヲ受ケ前同様ノ目的ヲ以テ公定價格ノ正當代金ノ外ニ木炭一俵ニ付金二十五錢ノ「プレミアム」ヲ附スルコトヲ合意シ同年六月四日ヨリ同年八月十日頃迄ノ間ニ九回ニ互リ同人ニ對シ木炭三千三百五俵ヲ產地最寄驛貨車乘渡ニテ賣渡シ同

年五月二十九日頃ヨリ同年七月十九日頃迄ノ間ニ四回ニ互リ同人ヨリ「プレミアム」ノ前渡トシテ合計金千五百五十圓(第一回五百圓、第二回二百五十圓、第三回三百圓、第四回五百圓)ノ送金ヲ受ケ内金八百二十六圓二十五錢ヲ「プレミアム」トシテ取得シ以テ前示禁止ヲ免レル行爲ヲ爲シタルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ國家總動員法第十九條價格等統制令第七條第九條昭和十四年十一月九日農林商工省告示第十號前示法律第三十三條刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金四千圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金二十圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人生駒武彦上告趣意書第一點原判決ハ其ノ理由ノ部ニ於テ被告人ハ木炭ノ移出商ヲ營ミ居レルモノナルトコロ價格等統制令第七條ニ因ル昭和十四年十一月九日農林商工省告示第十號ヲ以テ島根縣產木炭ノ產地最寄驛貨車乘渡價格指定セラレ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス右禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲ス可ラサルニ拘ハラヌ犯意ヲ繼續シテ云々第一、昭和十五年二月二日頃東京市豊島區云々千原七藏ニ對シ木炭三百四十四俵ヲ產地最寄驛貨車乘渡シニテ販賣スルニ際シ云々木炭一俵ニ付金二十錢宛合計六十八圓八十錢ヲ「プレミアム」トシテ同人ヨリ受領シ其ノ頃

右數量ノ木炭ヲ同人ニ引渡シ第二、同年三月四、五日頃横濱市云々合名會社北村商店ノ代表社員北村勝五郎ヨリ同會社東京芝浦電氣株式會社、日本鑄造株式會社ノ各會社ニ對シ木炭ヲ賣却セラレ度キ旨交渉ヲ受ケ其ノ賣買ニ於テ一俵ニ付金二十五錢宛公定價格ヲ超ヘテ「プレミアム」ヲ附スルコトヲ合意シ同年三月六日ヨリ同年五月三十日迄ノ間ニ於テ八回ニ右北村商店ニ對シ木炭二千百三十四俵同年四月十六日ヨリ同年五月七日迄二十回ニ芝浦電氣株式會社ニ同二千七百七十九俵ヲ同年四月二十一日ニ二回ニ日本鑄造株式會社ニ同四百四十四俵ヲ產地最寄驛貨車乘渡ニテ賣渡シ云々「プレミアム」ノ前渡トシテ北村ヨリ金三百圓宛五回合計千五百圓ノ送金ヲ受ケ内金千三百四十四圓二十五錢ヲ「プレミアム」トシテ收得シ第三、同年四月二十日頃滋賀縣大津市云々昭和工業株式會社代表者取締役徳田貞三良ヨリ木炭ノ買受方交渉ヲ受ケ同月三十日ヨリ同年七月頃迄ノ間ニ三回ニ互リ同會社ニ對シ木炭千三百五十六俵ヲ產地最寄驛渡ニテ販賣スルニ際シ云々公定價格ニ依ル正當代金ノ外ニ「プレミアム」トシテ木炭一俵ニ付金十五錢宛合計二百三圓四十錢ヲ同會社ヨリ受領第四、同年五月二、三日頃東京市云々吉岡紀太郎ヨリ木炭ノ買受方交渉ヲ受ケ云々公定價格ノ正當代金ノ外ニ木炭一俵ニ付金二十五錢ノ「プレミアム」ヲ附スルコトヲ合意シ同月六日頃ヨリ同年六月二日頃迄ノ間ニ木炭三千四百四十七俵ヲ產地最寄驛貨車乘渡ニテ賣渡シ同年五月二、三日頃ヨリ同月二十日頃迄ノ間ニ云々送金ヲ受ケ

内金八百六十一圓七十五錢ヲ「プレミアム」トシテ收得第五、同年五月十日頃神奈川縣川崎市云々小林傳次郎ヨリ木炭ノ買受方交渉ヲ受ケ云々公定價格ノ正當代金ノ外ニ木炭一俵ニ付金二十五錢ノ「プレミアム」ヲ附スルコトヲ合意シ木炭三千三百五俵ヲ產地最寄驛貨車乗渡ニテ賣渡シ同年五月二十九日頃ヨリ七月十九日頃迄ノ間ニ云々送金ヲ受ケ内金八百二十六圓二十五錢ヲ「プレミアム」トシテ收得シ以テ前示禁止ヲ免ルルノ行爲ヲ爲シタルモノナリト判示シ上告人ノ前記千原七藏、合名會社北村商店、東京芝浦電氣株式會社、日本鑄造株式會社、昭和工業株式會社、吉岡紀太郎及小林傳次郎トノ各木炭ノ賣買ヲ同一ニ取扱ヒ居ルモ千原七藏、北村合名會社及小林傳次郎ハ木炭業者ナルモ東京芝浦電氣株式會社、日本鑄造株式會社、昭和工業株式會社及吉岡紀太郎ハ木炭業者ニ非スシテ所謂木炭ノ消費者ナルコトハ上告人ヨリ第二審ニ提出セル計算書ノ外(イ)北村勝五郎ニ對スル聽取書抄本中ノ之ニ附合スル記載(ロ)吉岡紀太郎ニ對スル聽取書抄本中ノ昭和十五年ノ冬期ハ東京ニ於キマシテハ木炭ノ不足カ甚シカッタ云々工場ニ於ケル作業上必要ナル木炭ハ殊ニ拂底致シタノテアリマス東京工場協會大崎支部管内ノ工場カ以上ノ様ナ聲ヲ聞クコトカ甚シカッタ爲メ昭和十五年四月二十日私ハ島根縣廳林務課ニ參リマシテ係員ト打合セノ結果移出業者ヲ教ヘテ頂キ云々金森常太郎ヲ知ツタノテアリマス四月二十二、三日頃金森方ニ行キ云々一俵(松炭)ニ付二十五錢ノ「プレミアム」ヲ附ケルコ

トヲ承知シテ來マシテ云々私ノ今回ノ違反ニツイテハ私カ業者トシテノ賣買契約テハナク東京工場協會大崎支部トシテ契約シタノテ云々違反テハナイト思ツテ居リマシタ云々ノ記載(ハ)昭和工業株式會社取締役徳田貞三郎聽取書抄本中ノ三、島根縣能義郡大字安來ノ木炭商金森常太郎サンノ家カラハ今カラ三、四年程モ前カラ云々私ノ會社カ木炭ヲ買ツテ居ルノテス云々本年ノ三月頃カラ仲買人ノ手ヲ經テ買フト言フコトハ不可ナイト縣廳ノ方テ言ハレタモノテスカラ直接私カ買出ニ行キマシタノテス四、買出シニ行キマシタノハ縣廳ノ方ヨリ指示ヲ受ケ島根縣ノ方ヘ買込ミニ行キマシタノテスウシテ金森常太郎サンノ店ニ行キマシテ木炭ヲ買入レル約東ヲシタノテアリマス其ノ買入レル契約年月トカ品名ヤ數量ヤ買入價格等ハ私カ別表ニ作成シ云々其ノ當時私カ滋賀縣廳ノ方ヘ登廳シテ尋ネマシタ時ニハ消費者トシテ最終持込販賣價格テ買込ンテモヨイト言フ話テアリマシタノテ私ハ其ノ心算テ買込ミマシタノテスシカルニ云々金森常太郎サンハ私ニ炭材カ高イテ引キ合ハン故表面ハ云々契約ヲシ買フテ實際ハ其レヨリ一俵ニ付十五錢ヲキバツテ欲シイト言ツテ居ラレマシタノテ云々兎ニ角承諾シ云々トノ記載ニ依リ明ナレハ原審カ此等ノ者ニ對スル木炭ノ賣買ヲ千原七藏、北村合名會社及小林傳次郎ニ對スル賣買ト同一視シ所謂木炭消費者トノ賣買ニ付テモ前掲告示十號ヲ以テ指定セラレタル貨車乗渡價格以上ニ賣却シ得サルモノナリト判示シタルハ重大ナル事實ノ誤認アリ且ツ法規ノ適用ヲ誤

リタルモノト思料致候蓋シ該告示ニヨリ低物價政策ノ關係上島根縣產木炭ノ產地最寄驛貨車乗渡價格カ指定セラレタルハ事實ナルモ右ハ移出業者カ東京大阪其ノ他ノ木炭業者(問屋其ノ他ノ)ニ賣渡ス最高價格ニテ移出業者カ東京等ノ消費者ニ直接賣却スヘキ最高價格ニアラサレハナリ即チ島根縣產木炭移出業者ハ同縣產木炭ヲ東京ノ消費者ニ直接賣却スルニ當リテハ一俵ニ付本件第一審公判調書添附ノ東京薪炭新聞記載ノ小賣價格ヨリ左ノ費用ヲ差引キタル價格ヲ產地最寄驛渡貨車乗價格トスルモ敢テ低物價政策ヲ害セサルカ故ニ之ヲ不法ノ價格ナリト非難スルヲ得サレハナリ(イ)產地最寄驛ヨリ東京市各驛迄ノ運賃一三錢(ロ)東京市各驛下シヨリ消費者方ヘ配達等費用五錢乃至八錢ト云フニ在レトモ

【要旨】

昭和十四年十一月九日農林商工省告示第十號ハ日常取引ニ於ケル販賣價格ヲ指定シタルモノニシテ其ノ指定ニ係ル木炭ノ價格ハ獨リ木炭業者ニ對スル販賣ノミニ限ラス一般消費者ニ對スル販賣ニ付テモ亦齊シク規準ト爲スヘキモノナルコト勿論ナルカ故ニ被告人カ千原七藏其ノ他ニ對シ指定販賣價格ヲ超ヘテ木炭ノ販賣ヲ爲シタルコト判示ノ如クナル以上縱令其ノ買受人中東京芝浦電氣株式會社外三名カ木炭業者ニ非スシテ其ノ消費者ニ過キサルコト所論ノ如シトスルモ犯罪ノ成立ニハ何等影響ナク又原判決舉示ノ證據ニ依レハ判示犯罪事實ハ其ノ證明十分ニシテ記錄ヲ查スルモ原審ノ事實認定ニ重大ナル過誤アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アルモノト

認め得サルカ故ニ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事吉弘基彦關與

○國家總動員法違反輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル
法律違反被告事件
(昭和十六年(九)第四七五號
同年六月九日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 石津宗作 辯護人 桑原新太郎
寺田友吉 原 博 義

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京刑事地方裁判所

○判示事項

昭和十三年商工省令第三十九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件
ト價格等統制令違反ノ競合

昭和十三年商工省令第三十九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ト價格等統制令違反ノ競合

○判決要旨

價格等統制令ニ基ク價格ヲ超過シテ綿製品ヲ商工大臣ノ指定シタル者以外ノ者ニ販賣シタル場合ニハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ法規ニ觸ルルモノトス

【參照】昭和十三年商工省令第三十九號 昭和十二年法律第九十二號第二條ノ規定ニ依リ綿製品ノ販賣制限ニ關スル件左ノ通定ム

綿製品ノ販賣制限ニ關スル件

綿絲綿織物又ハ綿莫大小ハ小賣ヲ除キ商工大臣ノ指定シタル者以外ノ者ニ對シ之ヲ販賣(本令施行前ニ爲シタル契約ニ依ル引渡ヲ含ム)スルコトヲ得ズ但シ輸出品(關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ輸出スルモノヲ除ク以下同シ)輸出品ノ原料若ハ材料ニ用フルモノ又ハ綿製品ノ製造制限ニ關スル件第一項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ製造シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ綿絲、綿織物及綿莫大小ニハステール、アルファイバーヲ混用シタルモノヲ舍ム

價格等統制令第七條第一項 前二條ニ規定スル場合ヲ除クノ外行政官廳開令ノ定ムル所ニ依リ價格等(有價證券ノ價格及貸貸料ヲ除ク以下同シ)ノ類ヲ指定シタルトキハ第二條乃至第四條ノ規定ニ拘ラズ其ノ類ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ開令ノ定ムル所ニ依リ價格等ノ支拂者又ハ受

領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

同第二十一條 左ニ掲グル規定ニ依リ農林大臣、商工大臣、朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官、南洋廳長官、地方長官、朝鮮總督府道知事、臺灣總督府州知事若ハ廳長又ハ南洋廳支廳長ノ爲シタル販賣價格指定又ハ許可ハ第二條第一項但書又ハ第七條第一項ノ規定ニ依リ各相當ノ行政官廳ノ爲シタル價格ノ類ノ指定又ハ許可ト看做ス但シ開令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

昭和十四年農林省令第四十二號 農林水產物及農林水產業用品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年商工省令第二十四號 綿絲販賣價格取締規則第一條第二項

昭和十三年商工省令第三十一號 ステール、アルファイバー及ステール、アルファイ

バー、絲販賣價格取締規則第一條第二項

昭和十三年商工省令第四十五號 皮革配給統制規則第九條

昭和十三年商工省令第五十六號 物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年商工省令第六十三號 人造絹絲販賣價格取締規則第一條第二項

昭和十三年商工省令第七十五號 毛絲販賣價格取締規則第一條第二項

昭和十四年商工省令第六十三號 絹紡絲販賣價格取締規則第一條第二項

昭和十三年朝鮮總督府令第二百十八號 朝鮮物品販賣價格取締規則第一條

昭和十四年朝鮮總督府令第三十一號 (昭和十二年法律第九十二號第二條ノ規定ニ依ル皮革ノ配給統制ニ關スル件)第八條

昭和十三年商工省令第三十九號 綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ト價格等統制令違反ノ競合

昭和十三年臺灣總督府令第八十四號皮革配給統制規則第五條

昭和十三年臺灣總督府令第一百四十四號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年樺太廳令第六十三號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十四年樺太廳令第三十六號皮革配給統制規則第六條

昭和十三年南洋廳令第三十八號南洋群島物品販賣價格取締規則第一條

刑法第五十四條第一項 一個ノ行為ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若

クハ結果タル行為ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人石津宗作ヲ懲役六月及罰金五千圓ニ同寺田友吉ヲ懲役四月及罰金五千圓ニ各處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二十圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ハ何レモ肩書地ニ於テ織布業ヲ營ミ被告人石津宗作ハ昭和十四年七月四日濱松區裁判所ニ於テ輸出入品等ニ關スル臨時措置法違反罪ニ依リ罰金七百圓ニ同寺田友吉ハ同日同區裁判所ニ於テ同罪ニ依リ罰金千五百圓ニ各處セラレタル者ニシテ昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條ノ規定ニ基キ同年同省告示第二百八號(同年同省告示第二百五十八號及第三百六十號ニ依リ改正)ヲ以テ指定セラレタル年月日ナル昭和十五年六月二十八日ニ於ケル純綿別珍雙絲一貫五百五十匁級三十六吋中ノ卸賣價格ハ一碼ニ付キ最高八十五錢昭和十三年十月一日靜岡縣告示第八百四十二號ヲ以テ指定セラレタル純綿別珍一貫八百匁級三十六吋中

ノ最高卸賣價格ハ一碼ニ付キ一圓、同單絲二百番級三十六吋中ノ最高卸賣價格ハ一碼ニ付キ七十錢ナルトコロ被告人等ハ何レモ法定ノ除外事由ナク且所轄官廳ノ許可ヲ受ケスシテ

第一 被告人石津宗作ハ

(一) 昭和十四年九月二日頃ヨリ同年十月五日頃迄ノ間數回ニ互リ肩書住居ニ於テ商工大臣ノ指定シタル者以外ノ者タル菱沼榮次郎外一名ニ對シ自家ノ製織ニ係ル前記純綿別珍單絲二百番級同雙絲一貫八百匁級及同雙絲一貫五百五十匁級各綿織物合計九十六反ヲ前記各最高卸賣價格ヨリ合計金千六百七十四圓ヲ超ユル對價タル代金合計三千九百六十圓ニテ卸販賣シ

(二) 昭和十四年十一月七日頃ヨリ昭和十五年二月十四日頃迄ノ間數回ニ互リ前同所ニ於テ商工大臣ノ指定シタル者以外ノ者タル今井鐵雄ニ對シ前同純綿別珍單絲二百番級綿織物合計二百十反ヲ前記最高卸賣價格ヨリ合計金五千五百餘圓ヲ超ユル對價タル代金合計九千九百圓ニテ卸販賣シ

第二 被告人寺田友吉ハ昭和十四年十二月十四日頃ヨリ昭和十五年二月二十日頃迄ノ間數回ニ互リ其ノ肩書地ノ店舗ニ於テ商工大臣ノ指定シタル者以外ノ者タル前記今井鐵雄ニ對シ自家ノ製織ニ係ル前記純綿別珍單絲二百番級綿織物合計百三十反ヲ前記最高卸賣價格ヨリ合計金四千五百七十圓ヲ超ユル對價タル代金合計七千三百圓ニテ卸販賣シ

タルモノニシテ被告人等ノ判示所爲ハ何レモ犯意繼續ニ係ルモノトス
法律ニ照スニ被告人石津宗作ノ判示第一ノ(一)ノ所爲中商工大臣ノ指定シタル者以外ノ者ニ無許可ニテ卸賣シタル點ハ昭和十三年商工省令第三十九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件(同年同省令第七十一號及第九十五號ヲ以テ改正)第一項本文輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律第五條ニ公定價格ヲ超エテ販賣シタル點ハ

昭和十三年商工省令第三十九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ト價格等
統制令違反ノ競合

昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則(同年同省令第六十八號及第三百三號ヲ以テ改正)第一條
 本文昭和十三年商工省告示第二百八號(同年同省告示第二百五十八號及第三百六十號等ヲ以テ改正)前記臨時
 措置法第五條ニ各該當シ同被告人ノ判示第一ノ(一)及被告人寺田友吉ノ判示第二ノ所爲中商工大臣ノ指定シ
 タル者以外ノ者ニ無許可ニテ卸販賣シタル點ハ何レモ前記綿製品ノ販賣制限ニ關スル件第一項本文前記臨時措
 置法第五條ニ公定價格ヲ超エテ販賣シタル點ハ何レモ價格等統制令第七條第一項本文第二十一條昭和十三年十
 月一日靜岡縣告示第八百四十二號國家總動員法第三十三條ニ各該當スルトコロ被告人石津宗作ノ判示第一ノ
 (一)及(二)ノ各所爲並被告人寺田友吉ノ判示第二ノ各所爲ハ何レモ犯意繼續ニ係リ且前記無許可卸販賣ト
 公定價格違反トハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ各被告人ニ付刑法第五十五條第五十四
 條第一項前段第十條ニ依リ結局最モ重キ國家總動員法第三十三條ノ刑ヲ以テ處斷シ尙被告人等ニ對シテハ情狀
 ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルヲ相當トスルカ故ニ同法第三十五條ヲ適用シ所定ノ刑期及金額範圍內ニ於テ被告
 人石津宗作ヲ懲役六月及罰金五千圓ニ被告人寺田友吉ヲ懲役四月及罰金五千圓ニ夫々處スヘク右罰金ヲ完納ス
 ルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ金二十圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキ
 モノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人桑原新太郎上告趣意書第一點輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律ニ基ク

商工省令タル綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ハ一定ノ場合ヲ除キ綿絲綿織物又ハ綿莫大小ハ商工
 大臣ノ指定シタル者以外ノ者ニ對シ之ヲ販賣スルコトヲ得サル旨ヲ規定ス又同法ニ基ク商工省
 令タル綿製品ノ販賣制限ニ關スル件又ハ綿製品ノ加工制限ニ關スル件ニ拘ラス販賣シ又ハ加工
 ヲ爲スコトヲ得ノ件ハ一定種類ノ綿製品ヲ除キ地方長官ノ許可ヲ得タル場合ニ限り綿製品ノ販
 賣制限ニ關スル件又ハ綿製品ノ加工制限ニ關スル件ニ拘ラス販賣シ加工スルニトヲ得ル旨ヲ規
 定ス右商工省令ノ「綿製品ノ販賣制限ニ關スル件」ナル名稱ヨリスレハ綿製品ノ販賣ハ原則的
 ニハ許容セラレ居リ只特定ノ場合ニ例外的ニ制限セラレ居ルノ感ナキニ非サルモ商工大臣ノ指
 定シタル者以外ノ者ニ對シ之ヲ販賣スルコトヲ得ス(一般ノ者ニ販賣スルコトヲ得ス)又地方
 長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限り販賣スルコトヲ得(地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ一般ノ
 者ニ販賣スルコトヲ得)トノ規定ノ趣旨ヨリ觀而シテ又商工大臣ノ指定シタル團體數カ十二足
 ラサル事實及綿製品ニ關スル統制ノ全趣旨ヨリ察スルトキハ綿製品ノ販賣ハ原則的ニ禁止セラ
 レ居リ只特定ノ場合ニ許容セラレ居ルモノト解セサルヘカラス即チ右省令ハ其ノ名稱ノ如何ニ
 拘ラス綿製品ノ販賣禁止ニ關スル規定ナリト謂ハサルヘカラス然ラハ即チ綿製品ハ一般的ニハ
 卸販賣禁止品ナリ所謂公定價格ナルモノハ販賣ヲ禁止セラレサル物品及販賣ハ禁止セラレ居ル
 モ特殊ノ事狀ニヨリ販賣可能トナリタル物品ニ附テ存スル價格ニシテ原則的ニ販賣ヲ禁止セラ

昭和十三年商工省令第三十九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件ト價格等
 統制令違反ノ罰令

レ居ル物品ニハ公定價格ナルモノ存スルコトナシ從テ販賣ヲ禁止セラレ居ル物品ヲ違法ニ販賣シタル場合ニ於テ其ノ代價カ適法ニ販賣スル際遵守スヘキ公定價格ヲ超過シタリトスルモ其ノ超過賣ニ附物品販賣價格取締規則又ハ價格等統制令ヲ適用スヘキニ非ス公定價格ハ適法ニ販賣シ得ル場合(販賣自體カ適法ナル場合)ニ遵守スヘキ價格ニシテ違法ニ販賣シタル場合(販賣自體カ違法ナル場合)ニ適用スヘキ價格ニ非ス既ニ販賣自體カ禁止セラレ居ル以上其ノ違法取引ノ領域ニ迄低物價政策ニ基ク公定價格ヲ論及スル必要更ニ存在セス又民事的ニ見テモ綿製品販賣制限ニ關スル件違反ノ販賣ハ無効ナリ恰モ絲配給統制規則第四條ニ違反シテ割當票ト引換ニ非スシテ絲ヲ販賣シタル場合ト同シナリ右ノ如キ無故ナル取引ニ付テハ公定價格問題ヲ論スル餘地ナシ若シ販賣ヲ禁止セラレ居ル取引ニ迄公定價格ヲ論セサルヘカラストセハ一方ニ於テ販賣ヲ禁止シ居ルニ拘ラス他方ニ於テ之ヲ許容スルカ如キ體裁トモナリ矛盾ナキ能ハサルナリ販賣禁止ノ法令ニ違反シ且ツ工商大臣ノ指定シタル者ニ販賣スヘキ場合又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ販賣スヘキ場合ニ遵守スヘキ公定價格ヲ超過スル代價ニテ販賣スルハ違反ノ狀況宜シカラス犯情宜シカラスト言フモ公定價格ナキニ拘ラス之ニ公定價格違反トシテ法令ヲ適用スルモ亦宜シカラサルナリ販賣ヲ禁止セラレ居ル物品ヲ違法ニ販賣シタル場合ニハ之ヲ處罰スル法令(綿製品ニ付テハ綿製品ノ販賣制限ニ關スル件及臨時措置法)存スルモノナルカ故ニ其ノ犯情ニ從

ヒ法定刑ノ範圍内ニ於テ適當ニ量刑セハ事足ルナリ取テ公定價格ニ關スル法令ノ適用範圍ヲ擴大シテ兩法(臨時措置法及國家總動員法)ヲ適用スル必要ナシ本件被告人石津宗作及寺田友吉ハ何レモ綿製品ヲ公定價格ヲ超過シタル代價ニテ無許可卸販賣ヲ爲シ而モ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナリトシテ刑法法條ニ從ヒ國家總動員法ニヨリ體刑ト罰金トヲ併科セラレタリ然レトモ前記ノ理由ニヨリ被告人等ニハ綿製品ノ販賣制限ニ關スル違反從テ臨時措置法違反ノ所爲アルモ物品販賣價格取締規則違反從テ臨時措置法違反價格等統制令違反從テ國家總動員法違反アルコトナシ然ルニ第二審裁判所カ臨時措置法違反ノ外ニ國家總動員法違反アリトシ結局國家總動員法ヲ適用シ體刑罰金刑トヲ併科シタルハ即チ法令違反ナリ依テ第二審裁判所ノ言渡シタル判決ハ破毀セラレヘキモノト信スト云フニ在レトモ

昭和十三年商工省令第三十九號綿製品ノ販賣制限ニ關スル件(同年同省令第七十一號及第九十五號ヲ以テ改正)ハ今次事變ノ勃發ト共ニ國民經濟ノ運行ヲ確保スルノ必要上纖維產業資源タル棉花ノ輸入ニ制限ヲ加ヘタル結果綿絲綿織物綿莫大小等ニ不足ヲ告ケ各人ノ需要ヲ満足セシムルコト能ハサルニ至リタルヨリ之ヲ在來ノ自由主義的運行ニ放置スルヲ許サス最モ有效適切ニ其ノ配給消費ヲ調整スルカ爲商工大臣ニ於テ大日本紡績聯合會、日本綿織物卸商業組合聯合會等各種ノ者ヲ指定シ小賣ヲ除キ其ノ以外ノ者ニ販賣スルコトヲ禁止シ依テ是等綿製品ヲ一定ノ場所ニ集中統括セシメ公平ナル配給ノ下ニ亂費散逸ヲ防遏スルコトヲ目的トシテ制定セ